

浪江町 住民意向調査 報 告 書

平成29年3月

復興庁
福島県
浪江町

浪江町 住民意向調査

報 告 書

目 次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	19
3-1-4 震災発生当時の住宅の状況	25
3-1-5 現在の住居形態	28
3-1-6 現在のペットの飼育状況	33
3-2 将来の意向	34
3-2-1 浪江町への帰還意向	34
3-2-2 浪江町への帰還時期	40
3-2-3 浪江町へ戻る場合の家族	42
3-2-4 浪江町へ戻る場合の世帯構成・人数	44
3-2-5 浪江町に帰還する場合に希望する職業	45
3-2-6 浪江町へ帰還する場合の住居形態	47
3-2-7 浪江町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	50
3-2-8 浪江町へ帰還する場合に不足していると感じる支援	51
3-2-9 浪江町へ帰還する場合にすぐにでもやりたいこと	53

3-2-10	浪江町へいずれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件	54
3-2-11	浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報	57
3-2-12	現時点で戻らないと決めている理由	60
3-2-13	浪江町へ帰還するうえで必要な職業	63
3-2-14	帰還しない場合に居住を希望する自治体	65
3-2-15	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	67
3-2-16	帰還しない場合に必要な支援	68
3-2-17	震災発生当時の居住地域に望む将来の姿	70
3-3	情報の入手とコミュニケーション	72
3-3-1	浪江町に関する情報の入手経路	72
3-3-2	浪江町役場からの情報提供への満足度	74
3-3-3	浪江町役場から提供してほしい情報	76
3-3-4	連絡を取り合う頻度	78
3-3-5	浪江町が貸与しているタブレットの利用状況	87
3-3-6	浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果	89
3-3-7	浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件	98
3-3-8	現在の気持ち	100
3-4	意見・要望	103
IV	参考資料	119
4-1	使用調査票	121

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、浪江町住民の避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	浪江町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 9,087 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成28年9月12日（月）～平成28年9月26日（月）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、浪江町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 4,867 世帯（有効回収率 53.6%）

1-5 報告書の見方

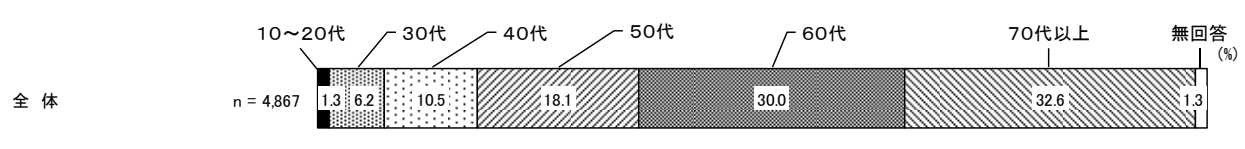
- ・調査数（ n = Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、統計上、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の住まいの行政区別の分析は n 値が30を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

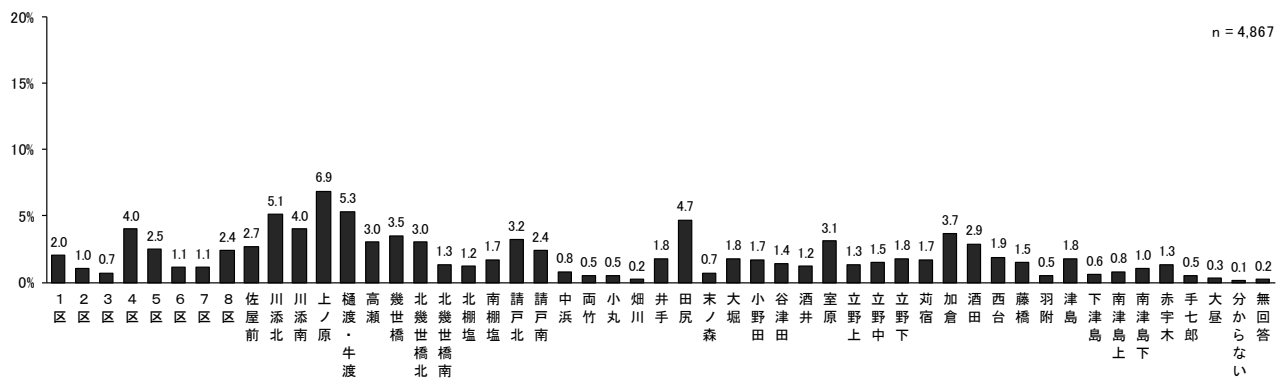
(1) 年齢

＜図表2-1-1＞



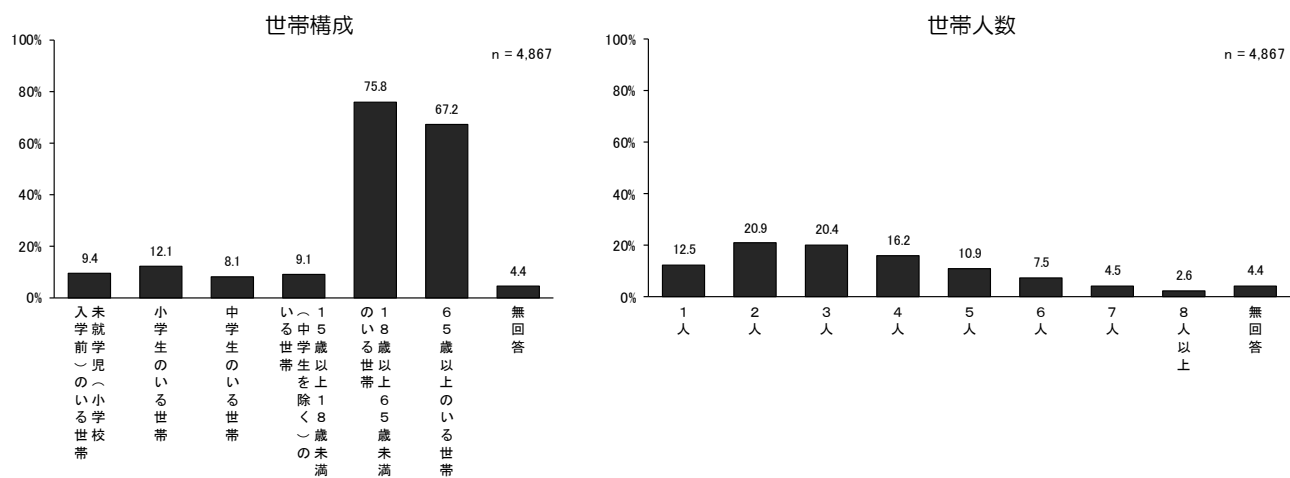
(2) 震災発生当時の住まいの行政区

＜図表2-1-2＞

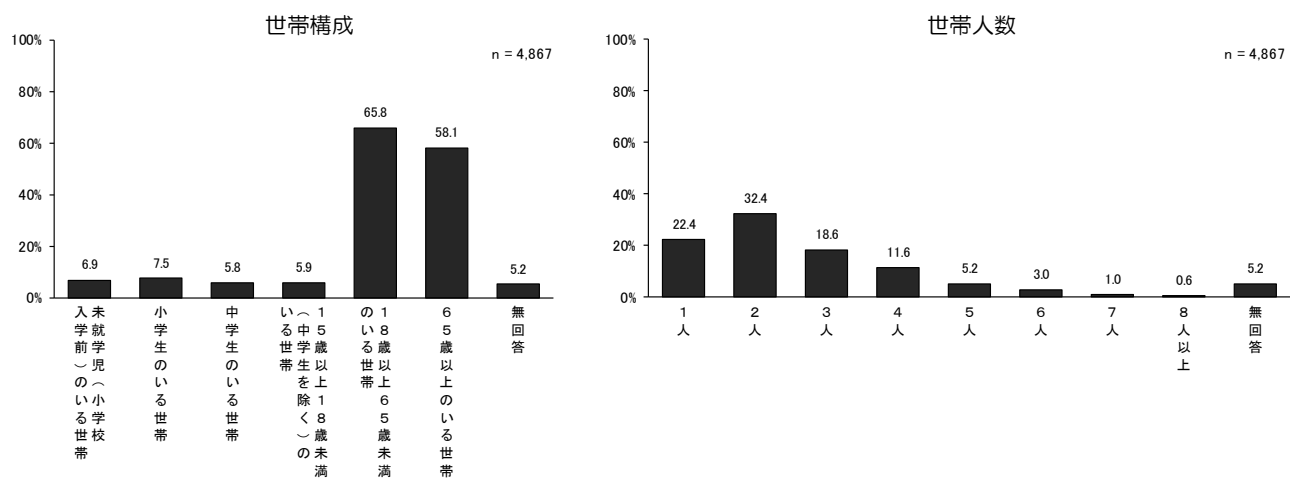


(3) 世帯構成・人数

<図表2-1-3 震災発生当時の世帯構成・人数>

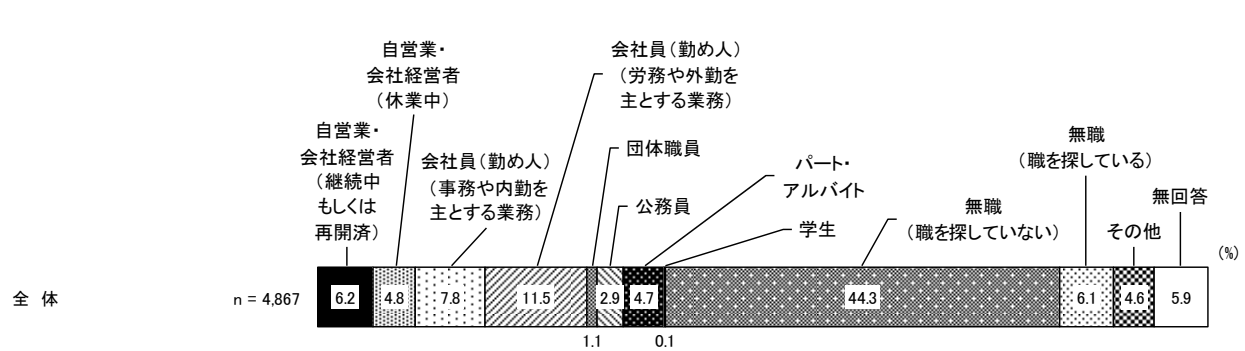


<図表2-1-4 現在の世帯構成・人数>

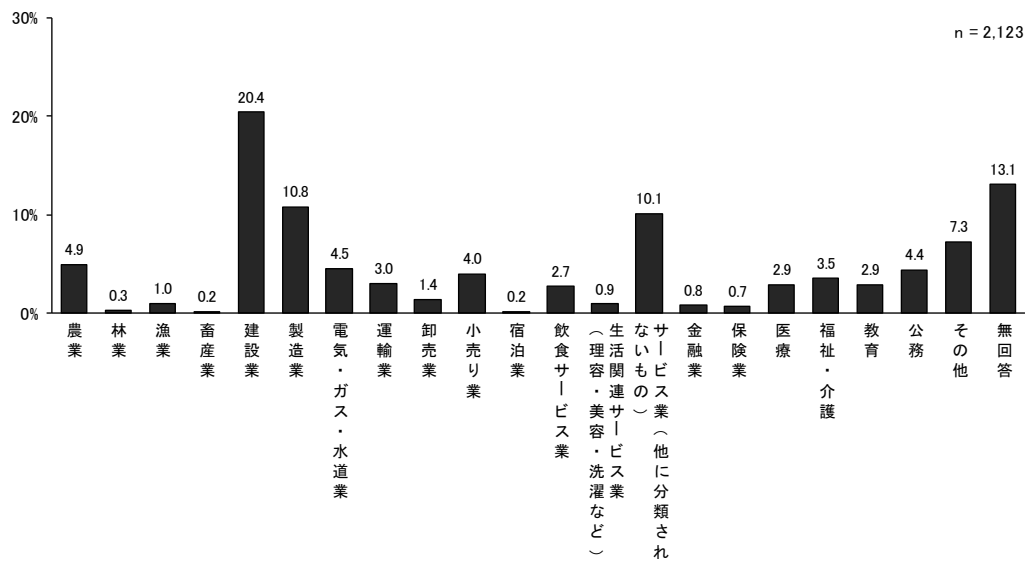


(4) 職業

<図表2-1-5 現在の職業（就業形態）>

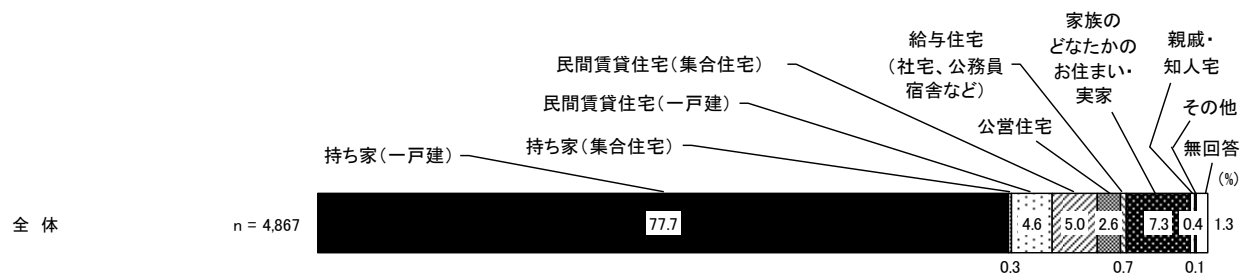


<図表2-1-6 現在の業種>

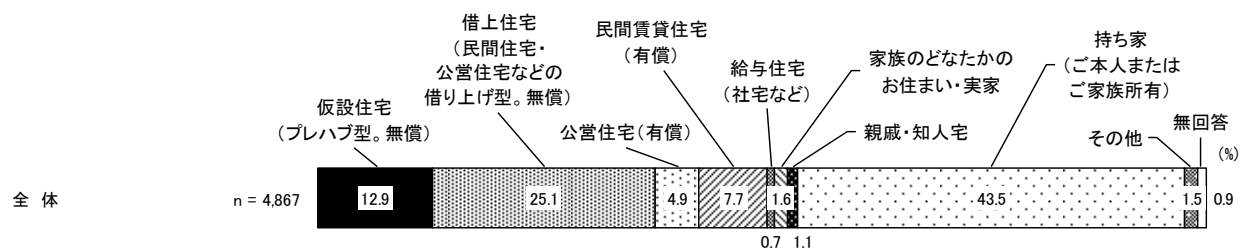


(5) 住居形態

<図表2-1-7 震災発生当時の住居形態>



<図表2-1-8 現在の住居形態>



Ⅲ 調査結果

3-1 現在の状況

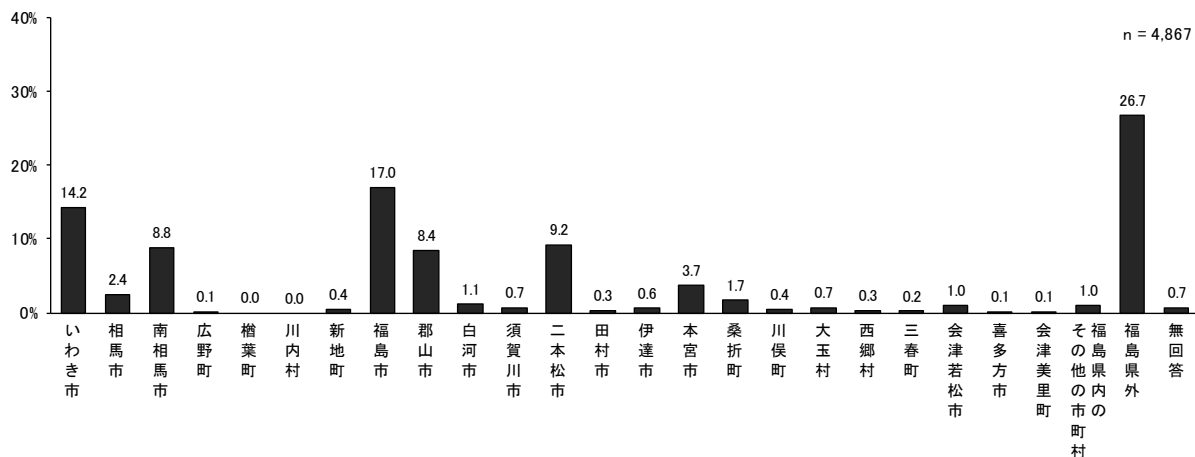
3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている市町村を教えてください。(〇は1つ)

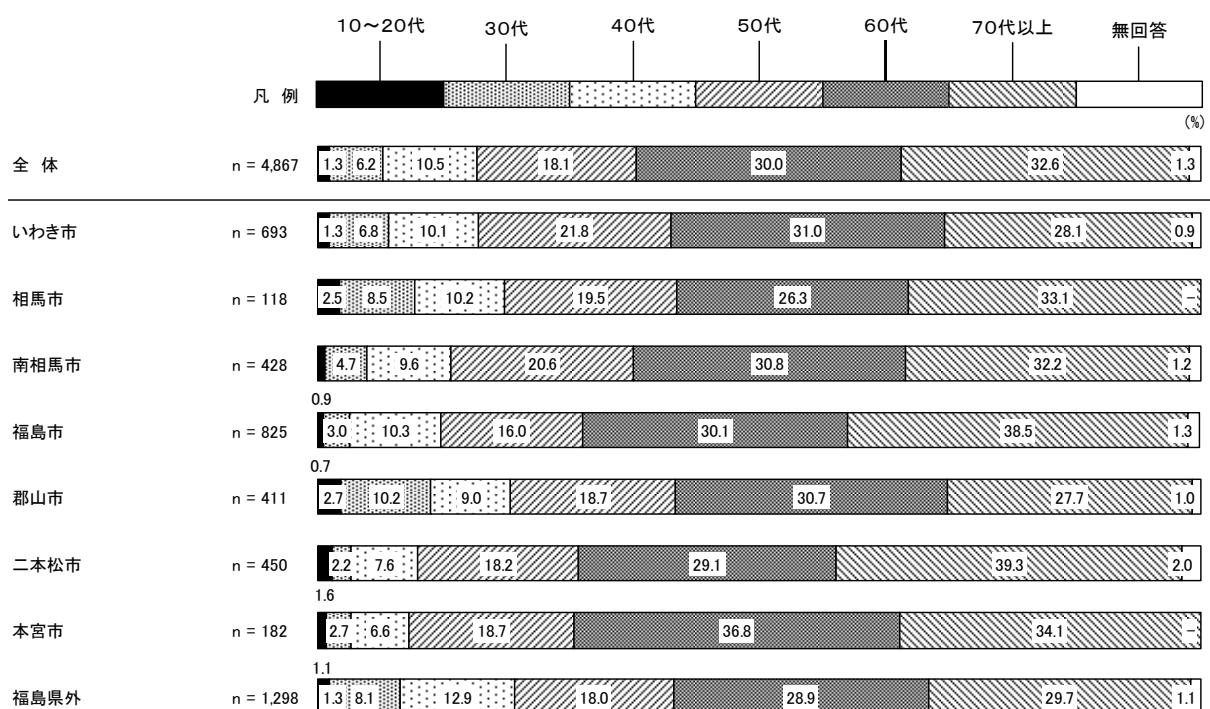
現在の避難先自治体については、「福島県外」が26.7%と最も高く、次いで「福島市」が17.0%、「いわき市」が14.2%となっている。

避難先の主な自治体について回答者の年齢別にみると、「南相馬市、福島市、二本松市、本宮市」は60代以上が6割を超えており、高齢層の割合が高くなっている。一方、「相馬市、郡山市」では30代以下が1割を超えており、若年層の割合が比較的高くなっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



Ⅲ 調査結果

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、中浜、両竹、末ノ森では「いわき市」が3割以上、南津島下では「福島市」が3割以上となっている。また、羽附では「福島市」「二本松市」が3割以上となっている。

＜図表3－1－1－3 主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

		いわき市	相馬市	南相馬市	福島市	郡山市	二本松市	本宮市	福島県外
	n								(%)
全 体	4,867	142	2.4	8.8	17.0	8.4	9.2	3.7	26.7
1区	98	82	2.0	9.2	27.6	9.2	3.1	3.1	29.6
2区	49	102	2.0	10.2	16.3	6.1	4.1	4.1	38.8
3区	33	6.1	—	24.2	27.3	9.1	3.0	—	21.2
4区	197	14.7	3.6	9.6	17.8	6.6	9.1	3.6	25.4
5区	120	100	2.5	13.3	18.3	10.0	7.5	0.8	31.7
6区	54	16.7	—	9.3	22.2	3.7	5.6	1.9	29.6
7区	55	18.2	1.8	9.1	14.5	5.5	12.7	1.8	29.1
8区	115	18.3	3.5	6.1	19.1	7.8	8.7	—	28.7
佐屋前	130	19.2	6.2	2.3	13.8	9.2	5.4	1.5	32.3
川添北	247	17.8	3.2	7.7	14.2	9.3	9.3	2.0	30.0
川添南	197	16.2	1.0	7.1	14.2	10.2	8.6	3.0	29.4
上ノ原	336	15.5	2.4	6.8	11.9	9.5	11.3	2.7	31.0
樋渡・牛渡	259	12.7	2.7	6.2	21.6	6.2	7.3	4.6	29.7
高瀬	144	13.2	4.2	13.2	10.4	14.6	9.0	2.1	22.9
幾世橋	168	10.7	3.6	7.1	18.5	13.7	7.1	3.0	31.0
北幾世橋北	144	13.2	4.9	14.6	16.0	13.2	5.6	4.2	17.4
北幾世橋南	64	12.5	3.1	17.2	14.1	6.3	3.1	6.3	29.7
北柳塩	58	20.7	6.9	6.9	19.0	8.6	3.4	6.9	22.4
南柳塩	81	12.3	3.7	21.0	27.2	6.2	2.5	4.9	14.8
請戸北	156	19.2	3.2	9.6	18.6	4.5	8.3	1.3	28.8
請戸南	115	19.1	0.9	6.1	18.3	7.0	11.3	3.5	24.3
中浜	40	30.0	2.5	7.5	17.5	7.5	10.0	—	22.5
両竹	25	32.0	—	4.0	12.0	4.0	4.0	4.0	36.0
小丸	26	19.2	3.8	3.8	19.2	15.4	19.2	—	11.5
畑川	11	—	—	9.1	—	—	36.4	27.3	9.1

		いわき市	相馬市	南相馬市	福島市	郡山市	二本松市	本宮市	福島県外
	n								(%)
井手	86	16.3	1.2	5.8	19.8	4.7	18.6	1.2	25.6
田尻	229	14.8	1.7	11.8	8.7	7.9	8.7	3.1	33.2
末ノ森	35	31.4	—	17.1	11.4	5.7	22.9	—	2.9
大堀	90	14.4	—	11.1	15.6	7.8	5.6	8.9	24.4
小野田	84	21.4	4.8	3.6	10.7	4.8	11.9	2.4	27.4
谷津田	69	17.4	1.4	10.1	18.8	5.8	5.8	2.9	27.5
酒井	59	6.8	1.7	8.5	20.3	22.0	5.1	1.7	30.5
室原	151	12.6	4.6	14.6	13.2	4.6	6.0	3.3	28.5
立野上	61	1.6	—	11.5	11.5	4.9	18.0	9.8	32.8
立野中	72	9.7	1.4	13.9	12.5	11.1	9.7	9.7	25.0
立野下	86	24.4	2.3	5.8	19.8	5.8	12.8	2.3	16.3
刈宿	85	17.6	2.4	4.7	21.2	4.7	9.4	7.1	21.2
加倉	182	13.2	0.5	6.0	14.8	11.0	12.1	3.3	26.4
酒田	142	14.8	0.7	11.3	16.2	12.0	4.9	2.8	25.4
西台	93	10.8	2.2	8.6	18.3	8.6	8.6	9.7	26.9
藤橋	73	9.6	—	12.3	12.3	5.5	6.8	4.1	41.1
羽附	26	7.7	—	3.8	38.5	—	30.8	—	11.5
津島	89	1.1	—	3.4	25.8	5.6	24.7	5.6	19.1
下津島	30	3.3	6.7	3.3	26.7	6.7	13.3	10.0	10.0
南津島上	37	—	—	—	27.0	10.8	18.9	13.5	13.5
南津島下	48	14.6	2.1	2.1	35.4	6.3	8.3	8.3	8.3
赤字木	63	1.6	1.6	3.2	23.8	11.1	19.0	6.3	17.5
手七郎	22	—	—	9.1	27.3	4.5	13.6	9.1	13.6
大屋	16	12.5	—	6.3	18.8	—	—	18.8	18.8
わからない	7	28.6	—	—	—	28.6	—	—	28.6

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

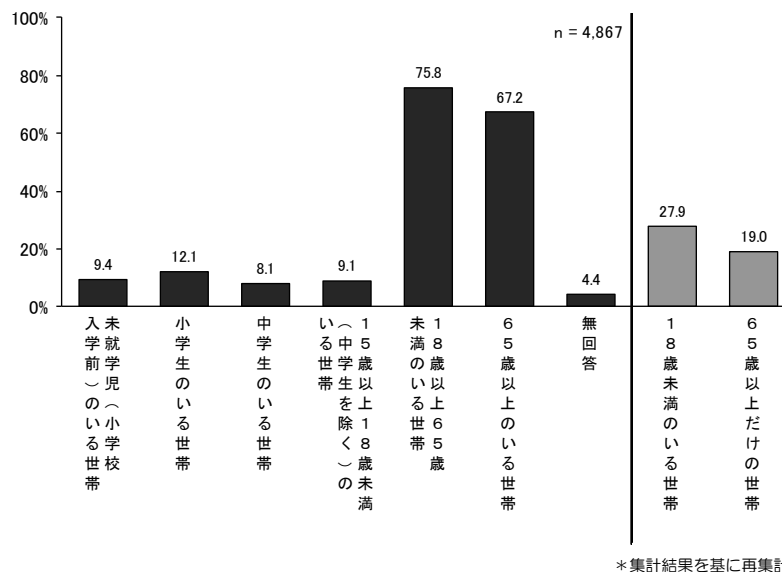
(1)「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

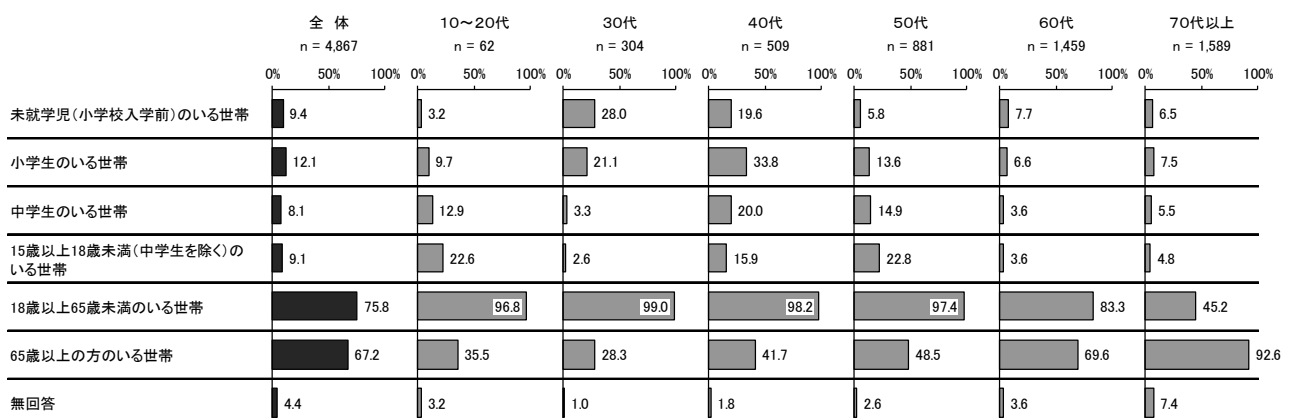
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が75.8%、「65歳以上のいる世帯」が67.2%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割前後となっている。

＜図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成＞



＜図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)＞

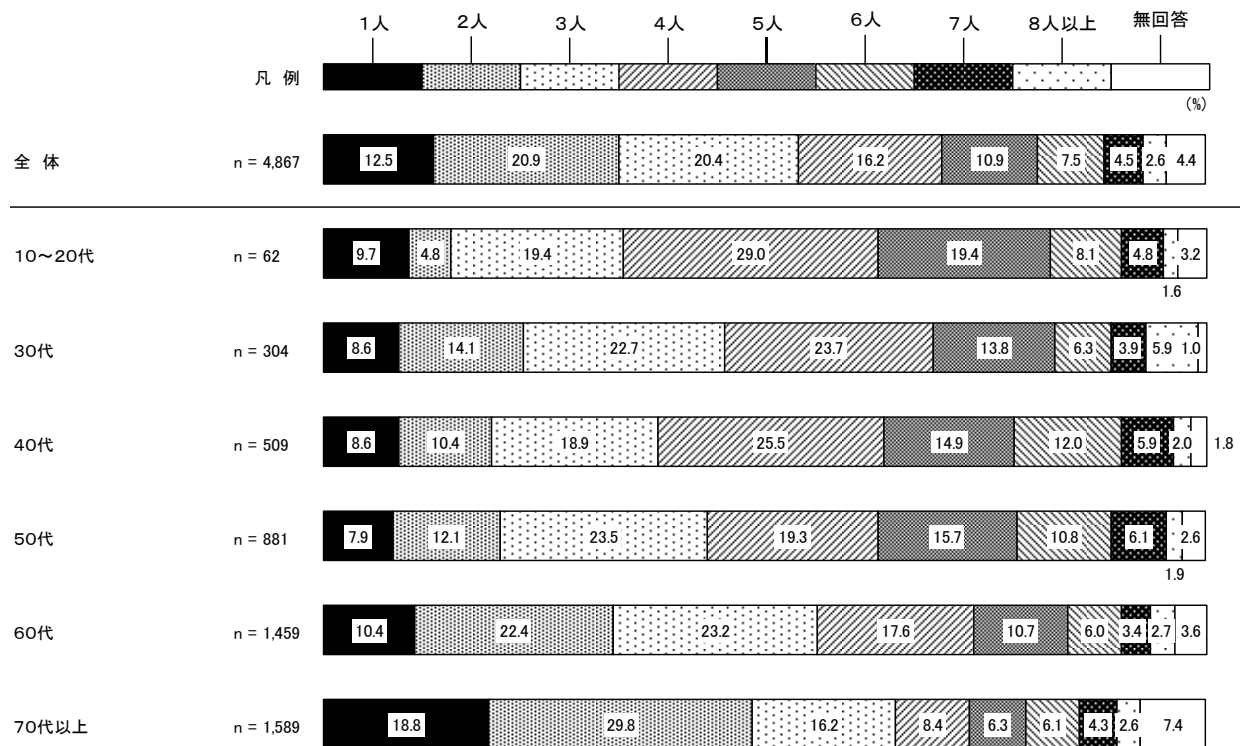


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が20.9%と最も高く、次いで「3人」(20.4%)、「4人」(16.2%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上で29.8%と最も高くなっている。「3人」は50代で23.5%、「4人」は10～20代で29.0%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数(年齢別)>



(2) 現在の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

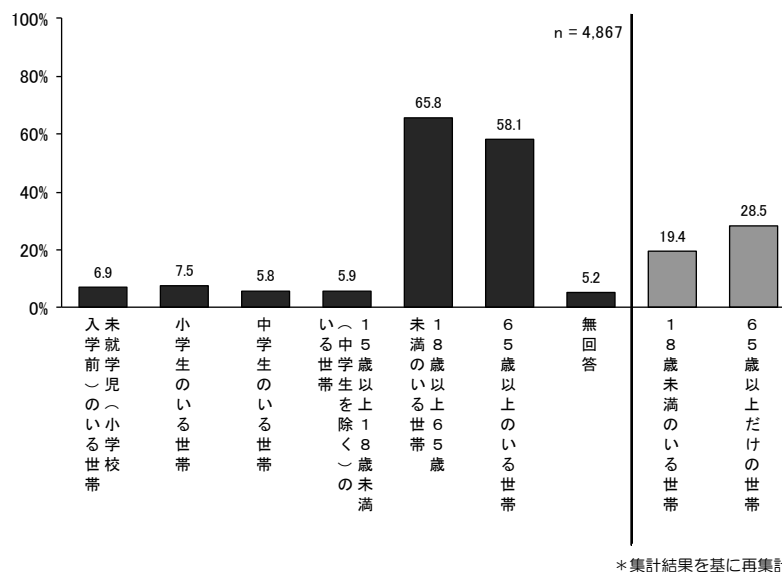
(2)「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

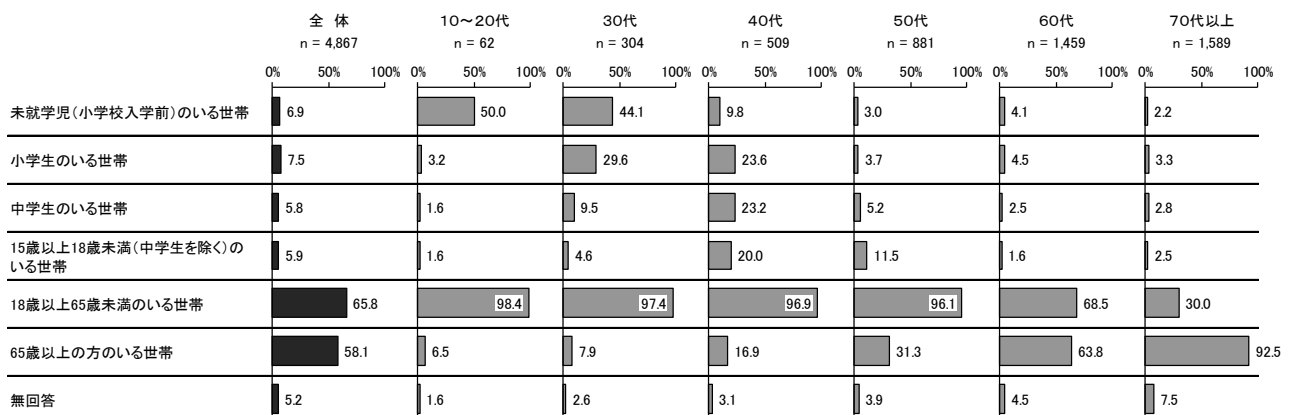
① 現在の世帯構成

現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が65.8%、「65歳以上のいる世帯」が58.1%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割未満となっている。

＜図表3-1-2-4 現在の世帯構成＞



＜図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)＞

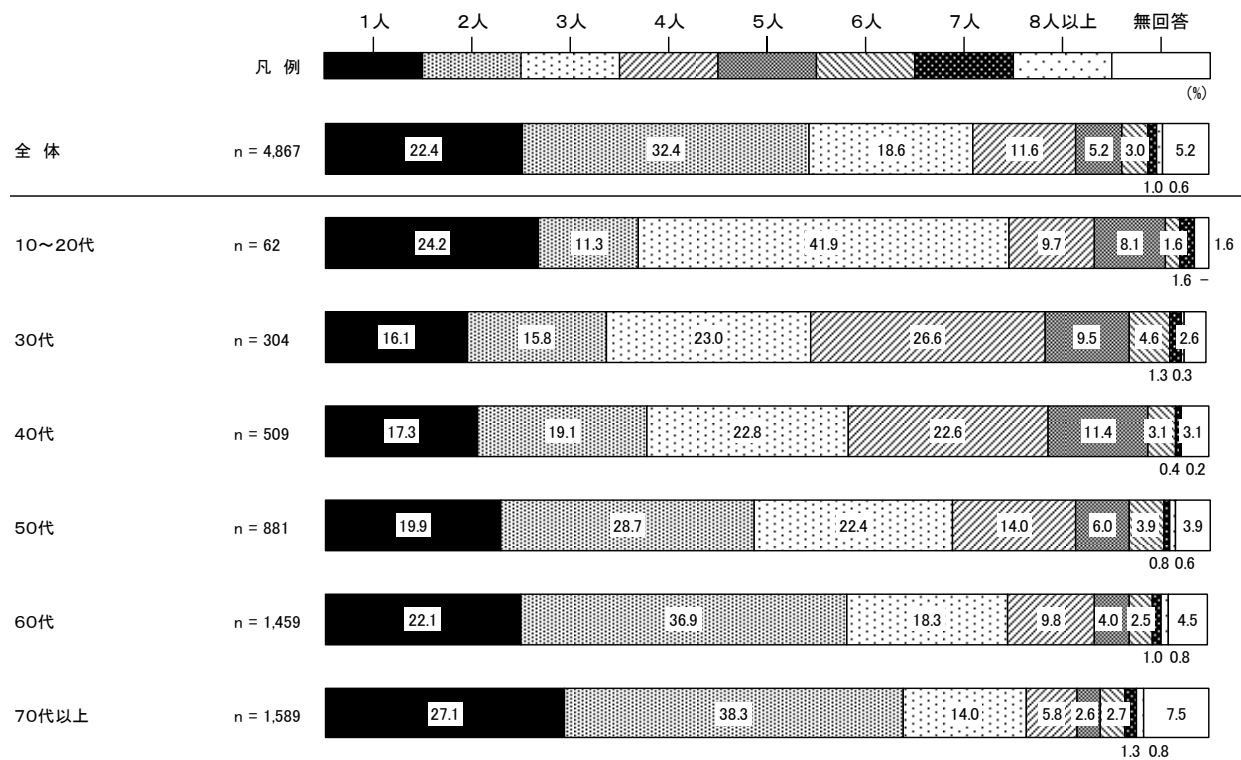


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2 人」が 32.4%と最も高く、次いで「1 人」が 22.4%、「3 人」が 18.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「1 人」は 10～20 代（24.2%）、70 代以上（27.1%）、「2 人」は 60 代（36.9%）、70 代以上（38.3%）、「3 人」は 10～20 代（41.9%）、「4 人」は 30 代（26.6%）、40 代（22.6%）が他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表 3-1-2-6 現在の世帯人数（年齢別）＞



3-1-3 職業

(1) 現在の職業（就業形態）

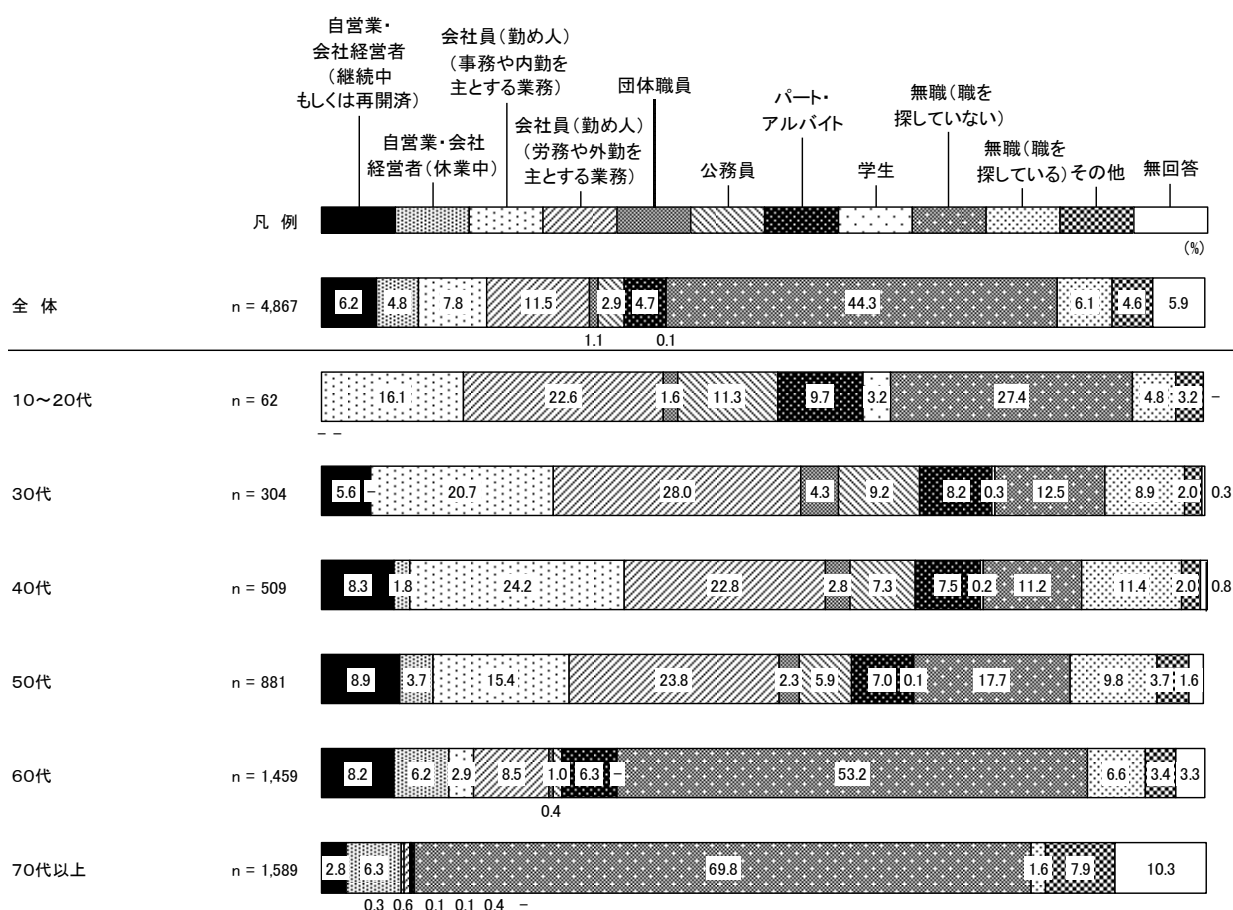
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種と今後の継続意向も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）（〇は1つ）

現在の職業（就業形態）については、無職以外では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が11.5%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が7.8%となっている。

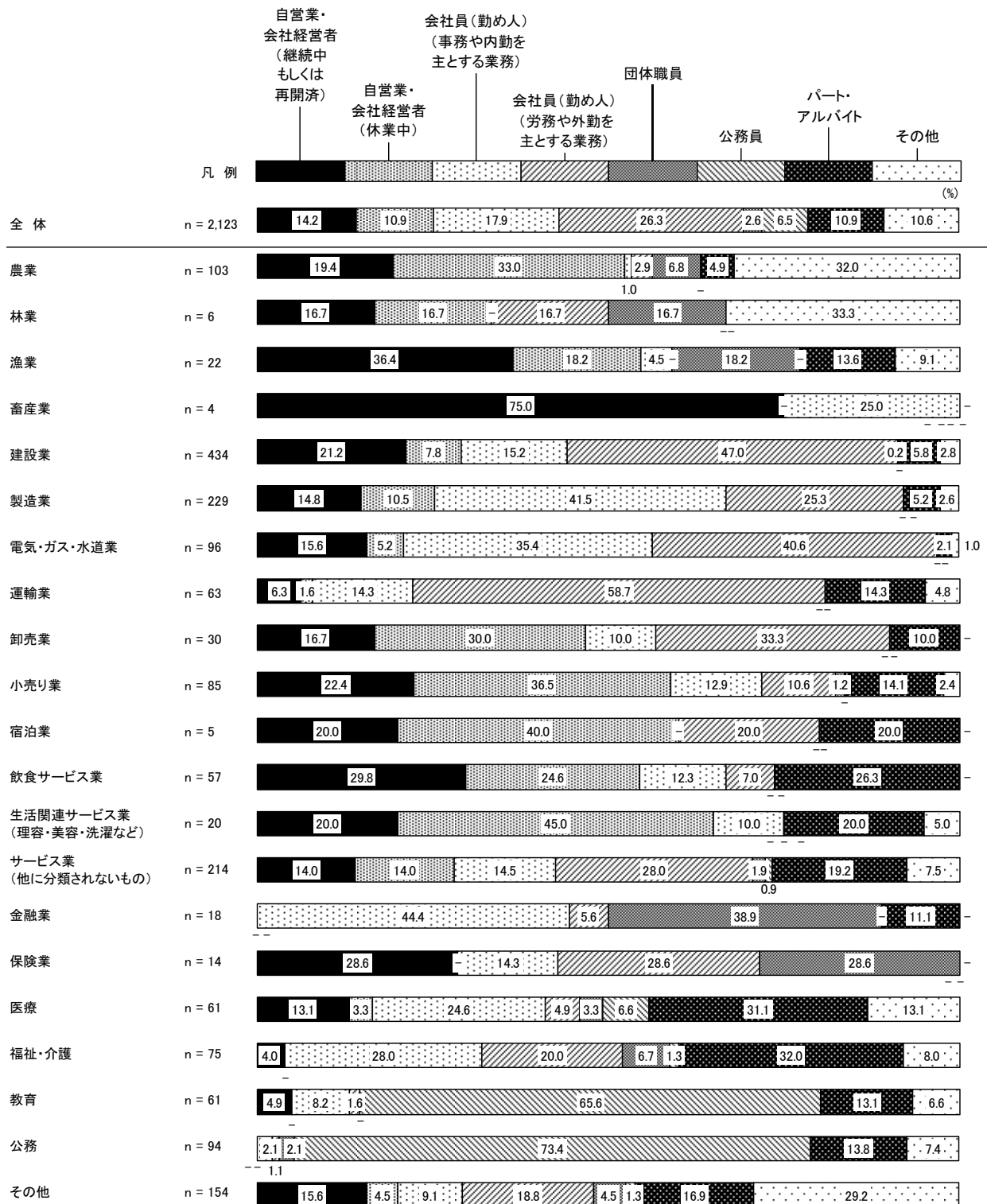
回答者の年齢別にみると、それぞれ最も高い割合を占めている職業は、10～20代で「無職（職を探していない）」が27.4%、30代で「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が28.0%、40代で「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が24.2%、50代で「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が23.8%、60代で「無職（職を探していない）」が53.2%、70代で「無職（職を探していない）」が69.8%となっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（47.0%）、運輸業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（58.7%）、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（41.5%）が他の業種と比べ高くなっている。

＜図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）＞



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種と今後の継続意向も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

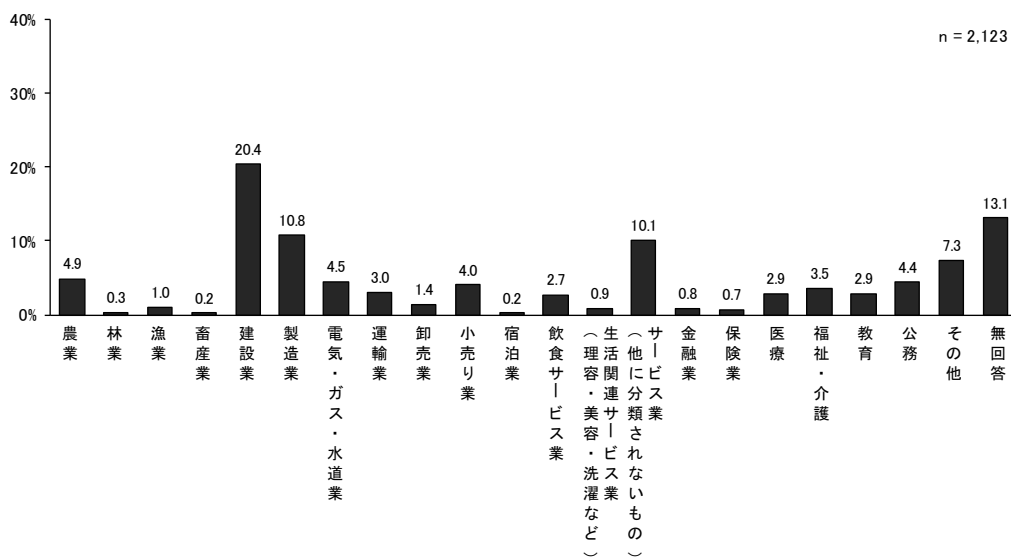
【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」が20.4%と最も高く、次いで「製造業」が10.8%、「サービス業（他に分類されないもの）」が10.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、60代が28.1%、「製造業」は、10～20代が20.0%と高くなっている。

＜図表3-1-3-3 業種＞



＜図表3-1-3-4 業種（年齢別）＞

																						(%)	
	n	農業	林業	漁業	畜産業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	運輸業	卸売業	小売業	宿泊業	飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	情報・通信業	金融業	保険業	医療	福祉・介護	教育	公務	その他	無回答
全 体	2,123	4.9	0.3	1.0	0.2	20.4	10.8	4.5	3.0	1.4	4.0	0.2	2.7	0.9	10.1	0.8	0.7	2.9	3.5	2.9	4.4	7.3	13.1
10～20代	40	-	2.5	-	-	7.5	20.0	10.0	2.5	-	2.5	-	15.0	-	5.0	2.5	-	5.0	-	2.5	10.0	2.5	12.5
30代	237	0.8	0.4	0.4	-	16.0	14.3	9.7	1.7	1.3	2.1	-	3.4	0.8	11.0	0.8	0.8	6.3	6.3	5.5	5.9	5.9	6.3
40代	389	0.8	-	1.0	-	19.3	15.7	5.9	4.1	0.5	3.9	0.3	1.8	1.0	9.0	1.3	0.3	3.1	5.4	3.6	6.9	3.9	12.3
50代	624	3.4	0.2	1.0	0.3	20.5	11.5	4.8	4.2	1.9	2.7	0.2	1.8	0.6	11.5	1.0	0.6	2.6	3.5	3.7	5.1	5.3	13.6
60代	538	5.9	0.2	1.5	0.4	28.1	6.9	2.8	2.6	1.5	5.2	0.6	3.5	0.7	10.2	0.7	1.3	2.6	2.6	1.5	2.8	10.8	8.2
70代以上	291	15.5	0.7	1.0	-	13.1	5.8	0.3	0.3	1.7	6.5	-	2.1	2.1	8.2	-	-	1.7	0.7	0.7	0.7	11.0	27.8

(3) 今後の継続意向

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種と今後の継続意向も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

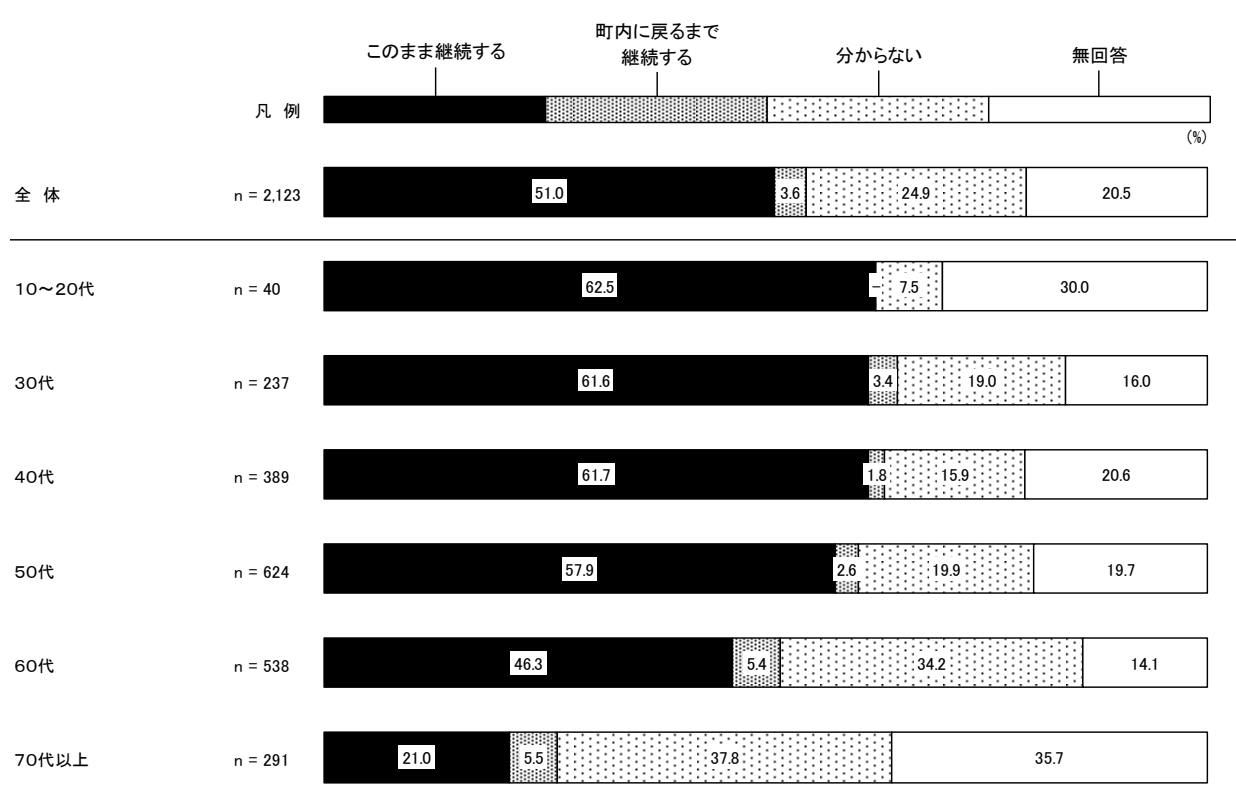
【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(3) 今後の継続 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の今後の継続意向については、「このまま継続する」が51.0%と最も高く、次いで「分からない」が24.9%、「町内に戻るまで継続する」が3.6%となっている。

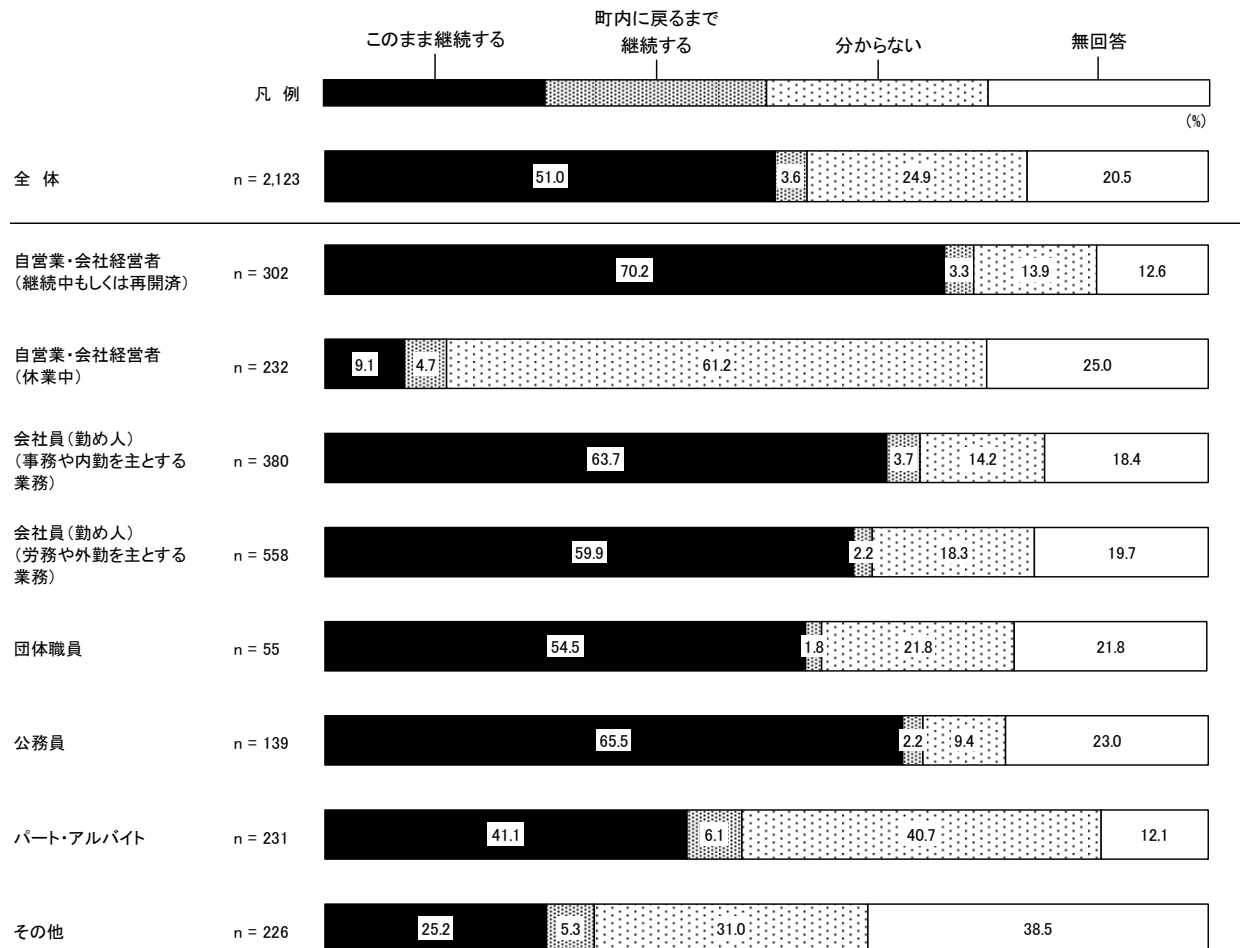
回答者の年齢別にみると、「このまま継続する」は10～20代、30代、40代で6割以上となっている。「分からない」は70代以上で37.8%、60代で34.2%と、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-1-3-5 今後の継続意向(年齢別)>



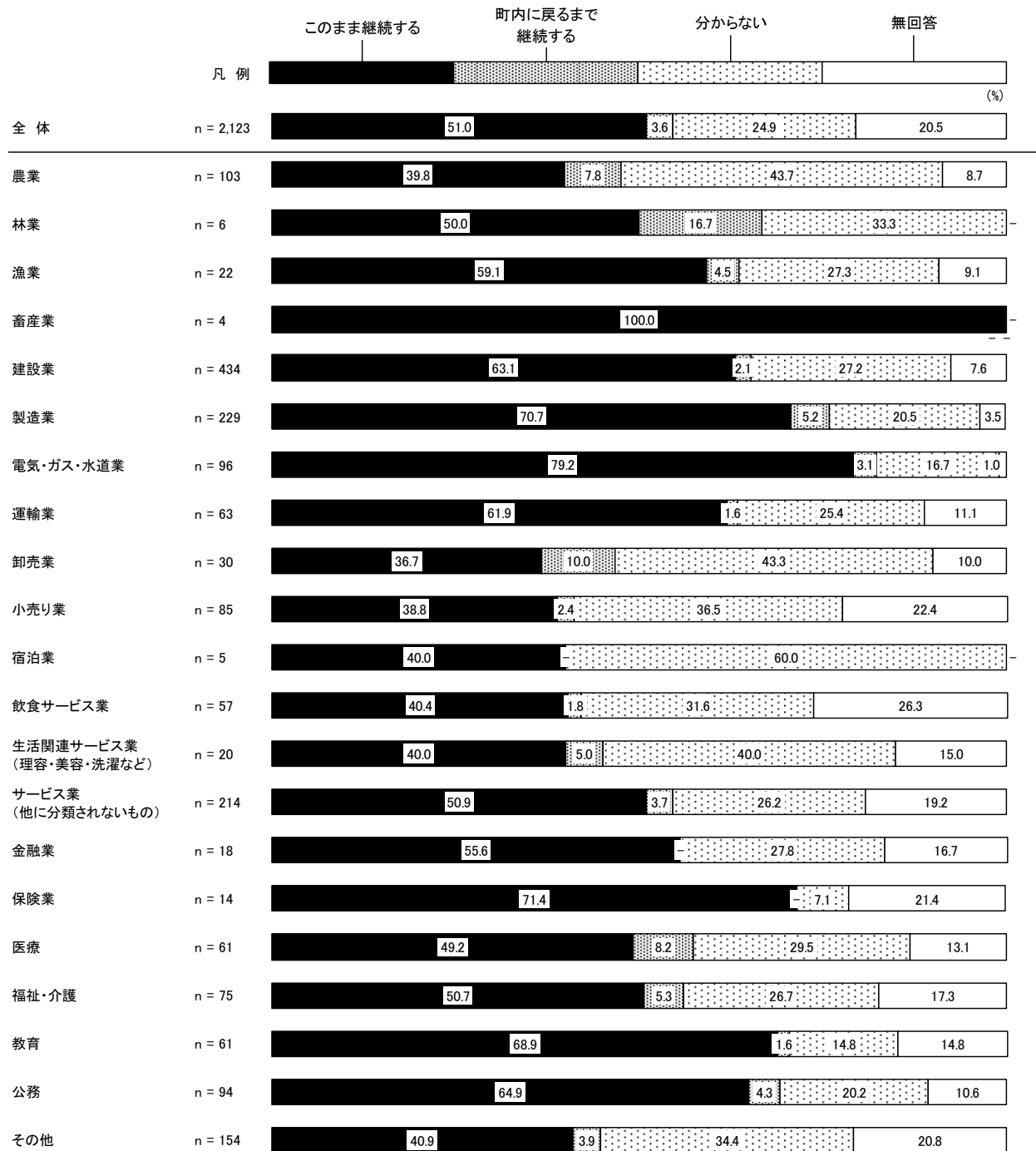
職業別にみると、「このまま継続する」は自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）で70.2%と、他に比べ高くなっている。「分からない」は自営業・会社経営者（休業中）で61.2%、パート・アルバイトで40.7%と、他に比べ高くなっている。

＜図表3-1-3-6 今後の継続意向（職業別）＞



業種別にみると、「このまま継続する」は電気・ガス・水道業で79.2%と、他に比べ高くなっている。

＜図表3-1-3-7 今後の継続意向（業種別）＞



3-1-4 震災発生当時の住宅の状況

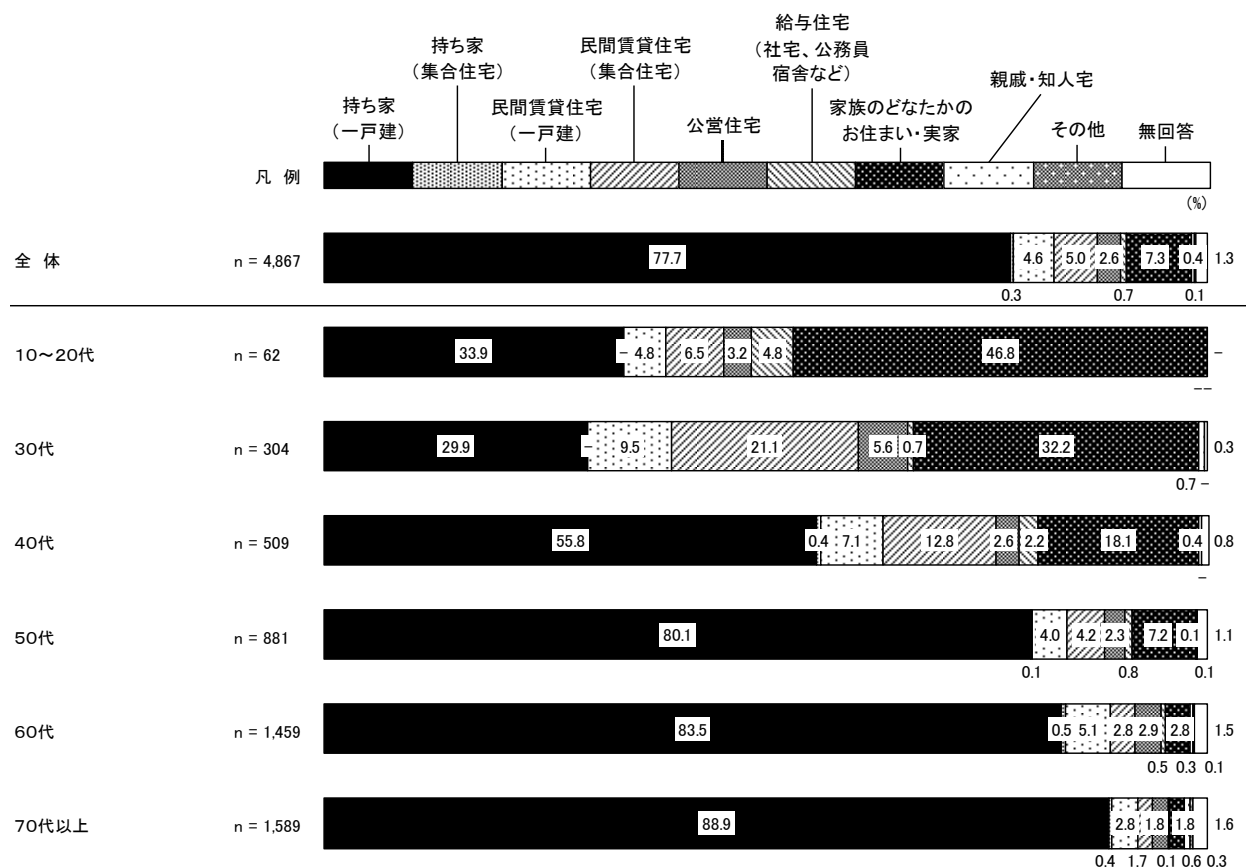
(1) 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が77.7%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(0.3%)を合わせた<持ち家>は78.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では88.9%と9割近くを占める。一方、「民間賃貸住宅(集合住宅)」、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代、30代、40代で高く、「民間賃貸住宅(集合住宅)」は10~20代で6.5%、30代で21.1%、40代で12.8%、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代で46.8%、30代で32.2%、40代で18.1%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態(年齢別)>



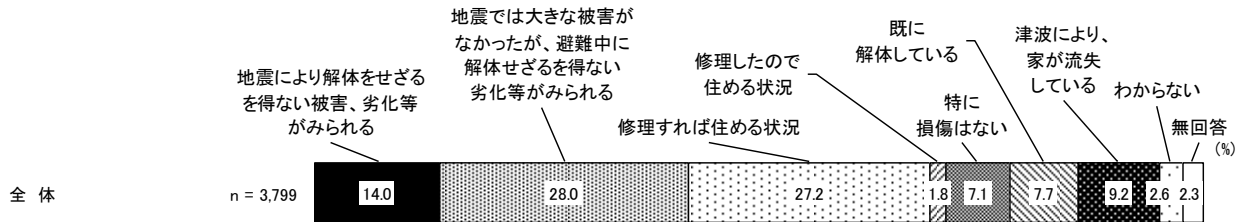
(2) 震災発生当時の住宅の状況

【問4で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問4-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(〇は1つ)

震災発生当時の住宅の状況については、「地震では大きな被害がなかったが、避難中に解体せざるを得ない劣化等がみられる」が28.0%と最も高く、次いで「修理すれば住める状況」が27.2%となっている。

＜図表3-1-4-2 震災発生当時の住宅の状況＞



(3) 震災発生当時の住宅の今後の所有

【問4-1で「1」から「6」、「8」と回答した方にうかがいます。】

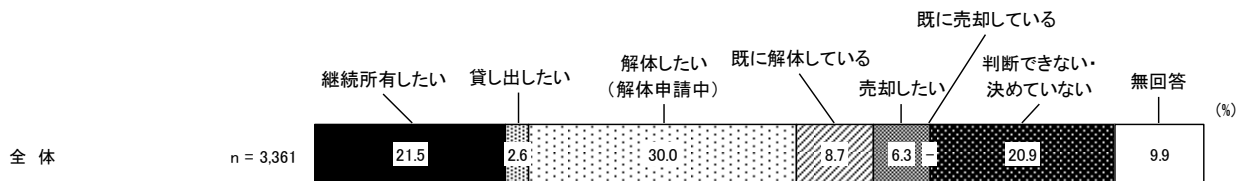
問4-2 震災発生当時にお住まいだった住宅について、今後の所有をどのようにお考えですか。

(「1. 建物」「2. 宅地」それぞれについて、表内の該当するところに〇)

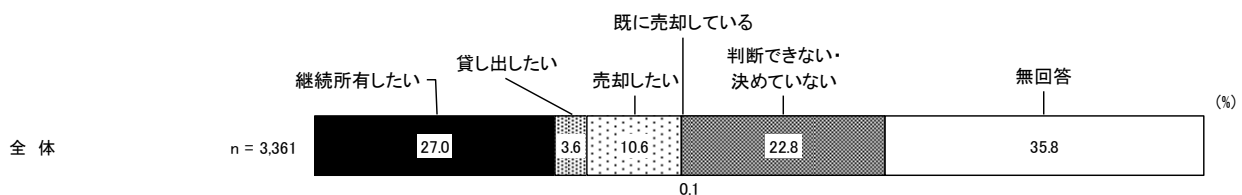
震災発生当時の住宅(建物)の今後の所有については、「解体したい(解体申請中)」が30.0%と最も高く、次いで「継続所有したい」が21.5%となっている。

震災発生当時の住宅(宅地)の今後の所有については、「継続所有したい」が27.0%と最も高く、次いで「判断できない・決めていない」が22.8%となっている。

＜図表3-1-4-3 震災発生当時の住宅の今後の所有(建物)＞



＜図表3-1-4-4 震災発生当時の住宅の今後の所有(宅地)＞



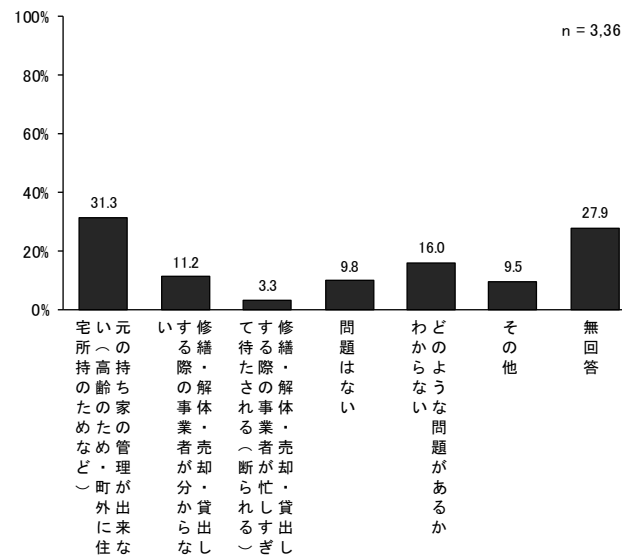
(4) 震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題

【問4-1で「1」から「6」、「8」と回答した方にうかがいます。】

問4-3 持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却をするにあたっての問題はどのようなものがありますか。(〇はいくつでも)

震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題については、「元の持ち家の管理が出来ない」が31.3%と最も高く、次いで「修繕・解体・売却・貸出しする際の事業者が分からない」が11.2%となっている。また、「どのような問題があるかわからない」は16.0%となっている。

<図表3-1-4-5 震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題>



3-1-5 現在の住居形態

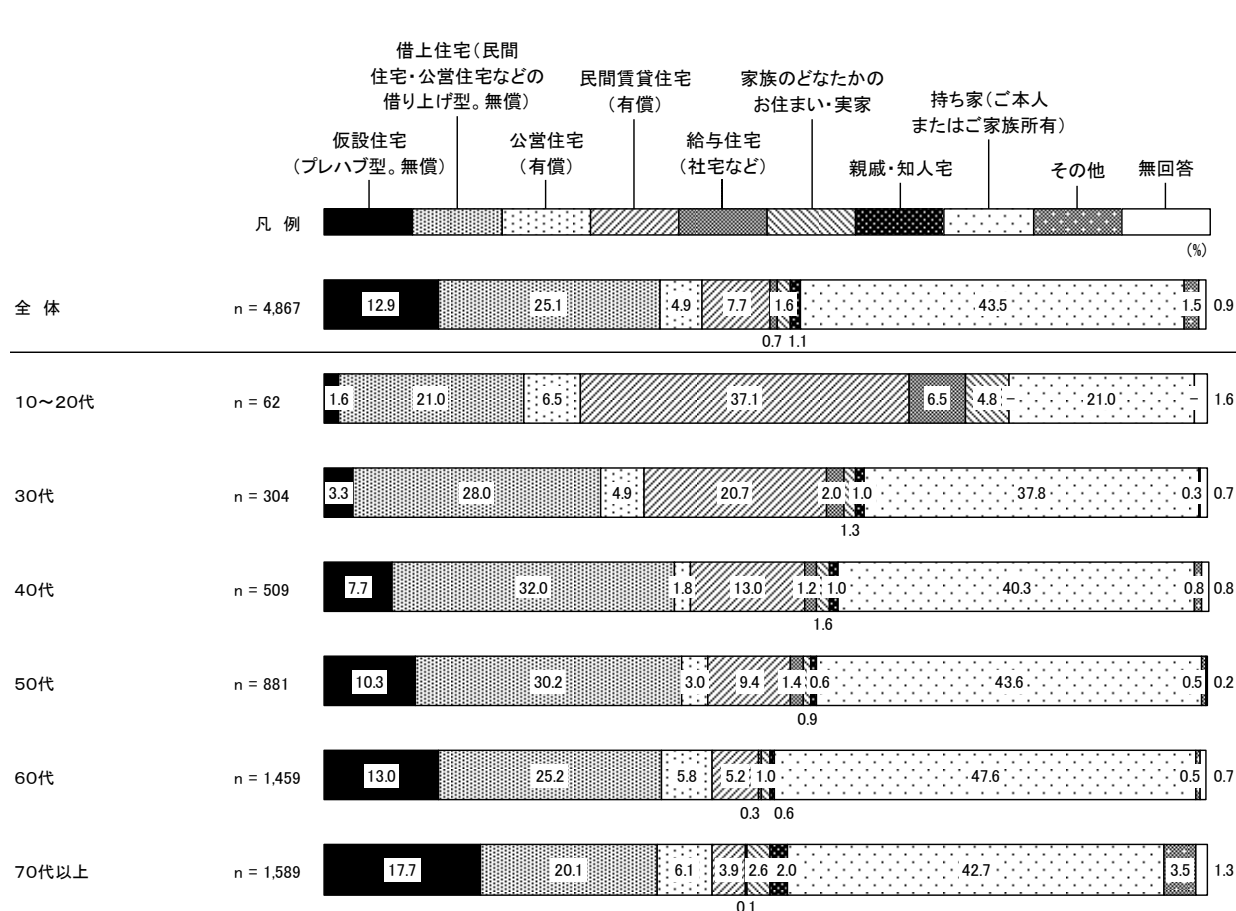
(1) 現在の住居形態

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が 43.5%と最も高く、次いで「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が 25.1%、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」が 12.9%となっている。

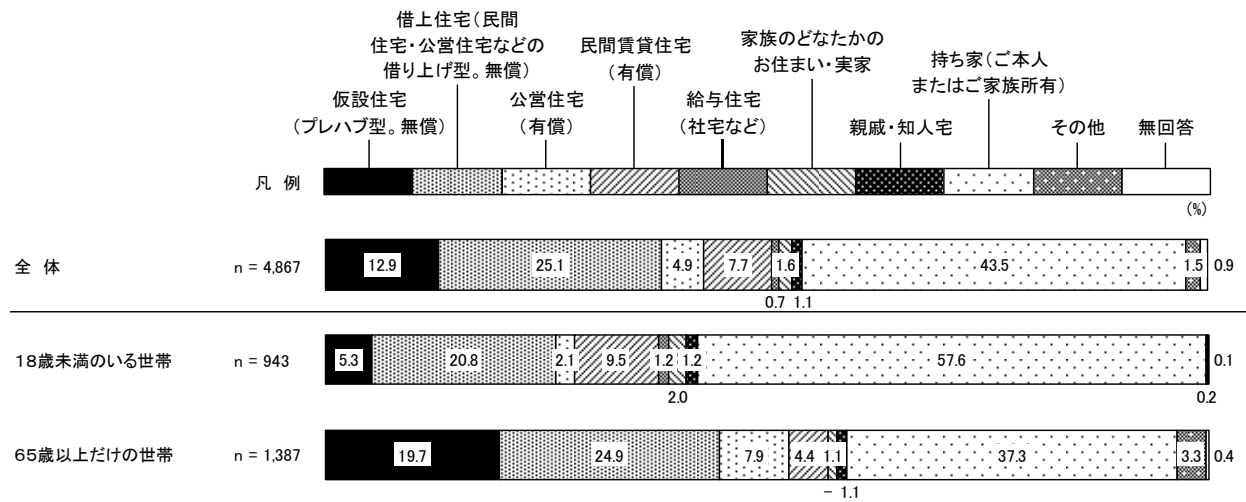
回答者の年齢別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では 17.7%となっている。一方、「民間賃貸住宅（有償）」は若年層で高く、10～20代が 37.1%、30代が 20.7%となっている。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



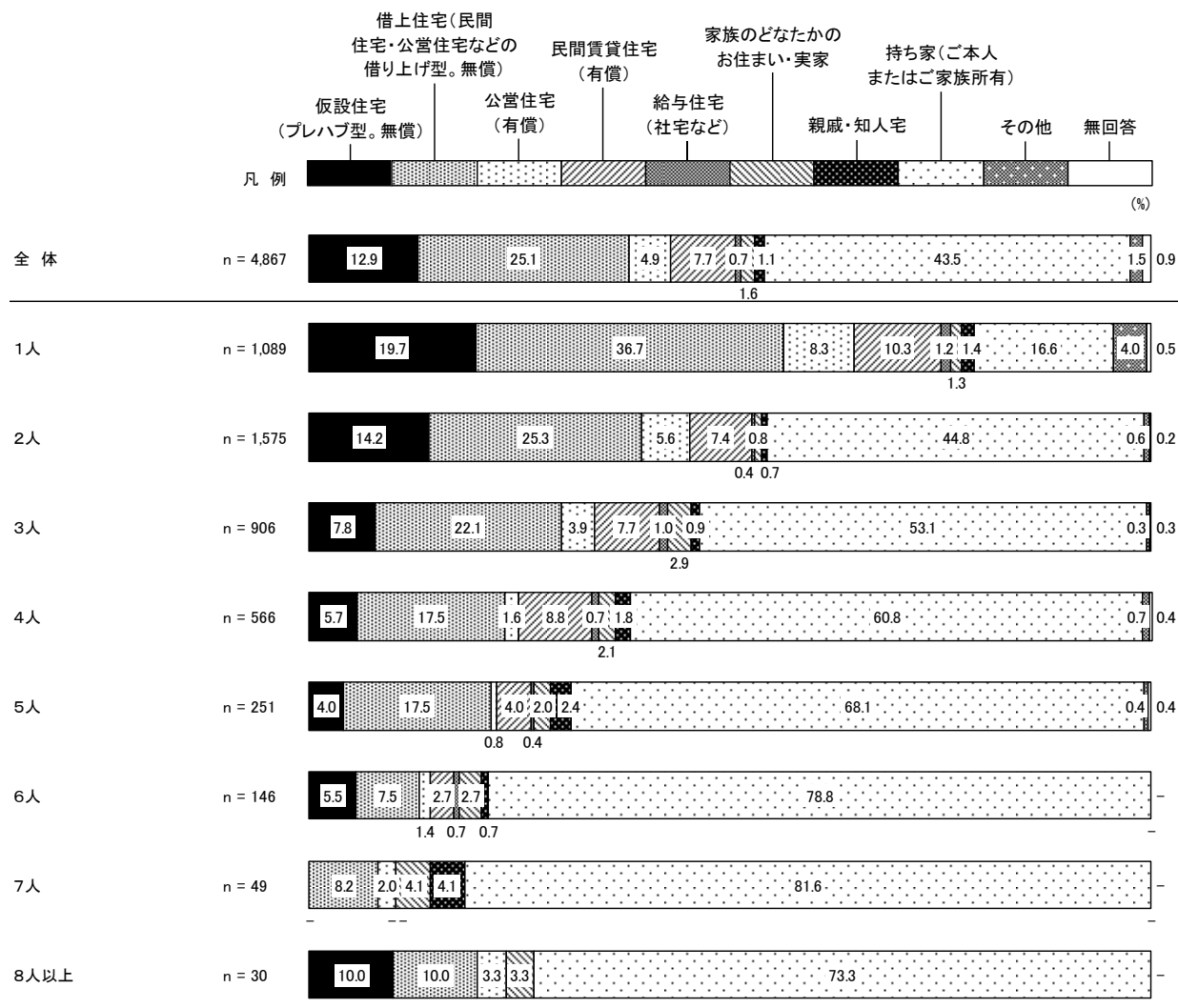
世帯構成別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、65 歳以上だけの世帯が 19.7%と高くなっている。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18 歳未満のいる世帯が 57.6%と高くなっている。

＜図表 3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）＞



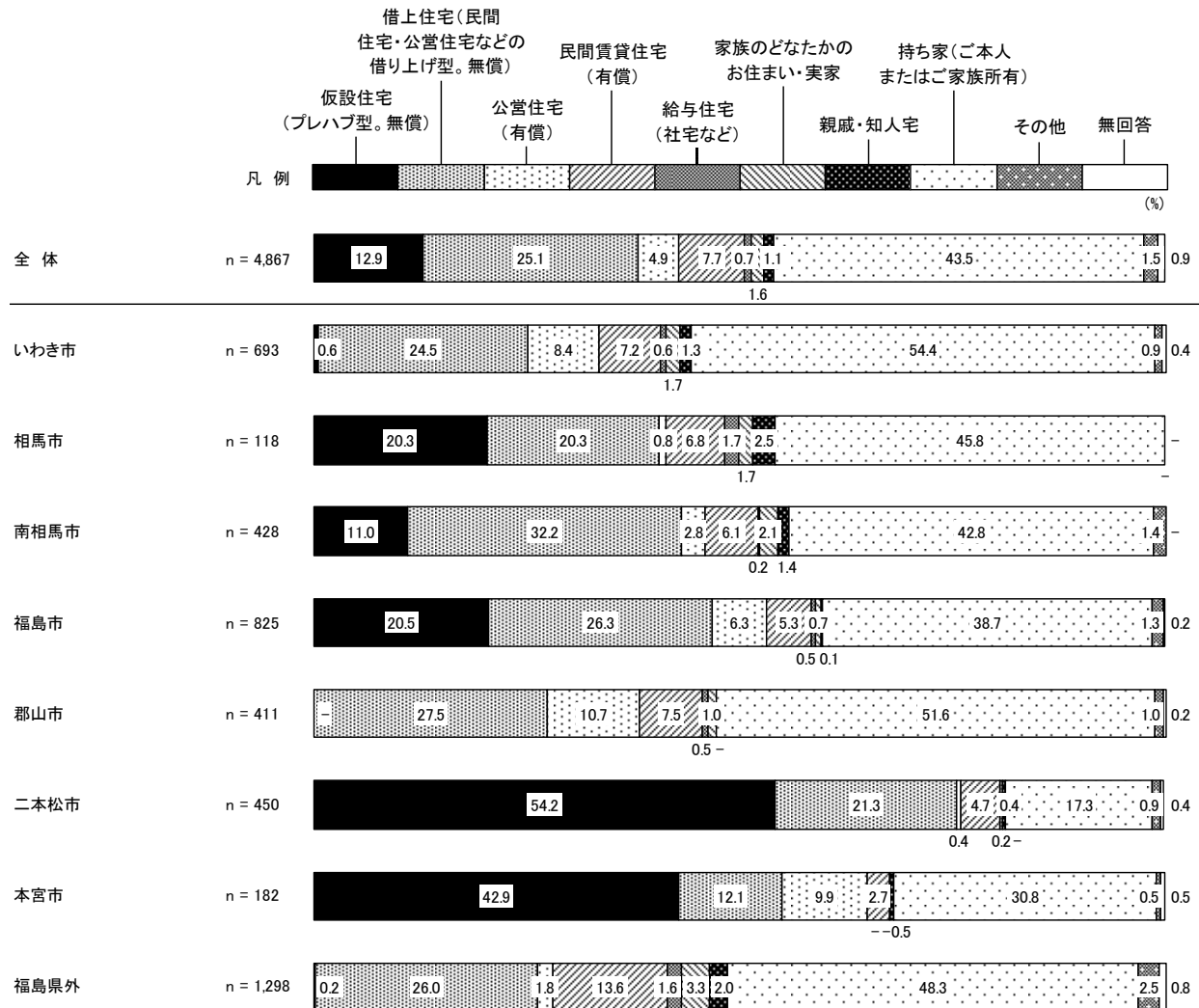
世帯人数別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、世帯人数が多くなるにつれ割合が低くなり、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は二本松市（54.2%）、本宮市（42.9%）、
「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は南相馬市（32.2%）、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」はいわき市（54.4%）、郡山市（51.6%）で高くなっている。

<図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



(2) 現在の持ち家の取得形態や入居後の問題点

【問7で「8.持ち家（ご本人またはご家族所有）」と回答した方にうかがいます。】

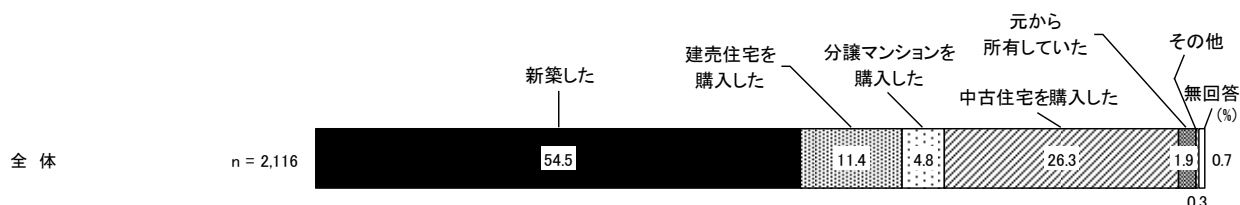
問7-1 現在お住まいになっている持ち家についての状況をお答えください。（それぞれ〇は1つ）

現在の持ち家の取得形態については、「新築した」が54.5%と最も高く、次いで「中古住宅を購入した」が26.3%、「建売住宅を購入した」が11.4%となっている。

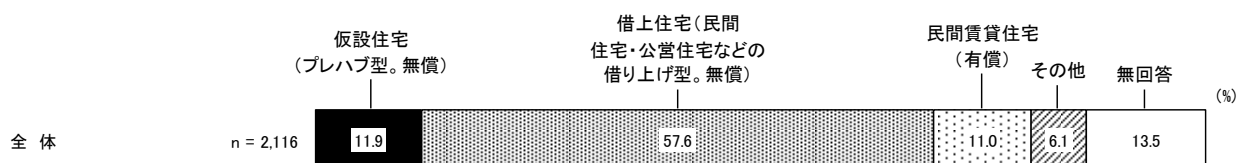
取得前の居住形態については、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が57.6%と最も高く、次いで「仮設住宅（プレハブ型。無償）」が11.9%、「民間賃貸住宅（有償）」が11.0%となっている。

入居後の問題点については、「特に問題はない」が32.7%と最も高く、次いで「地域の方と打ち解けられない」が27.8%、「原子力発電所事故による避難者ということを知られたくない」が27.5%となっている。

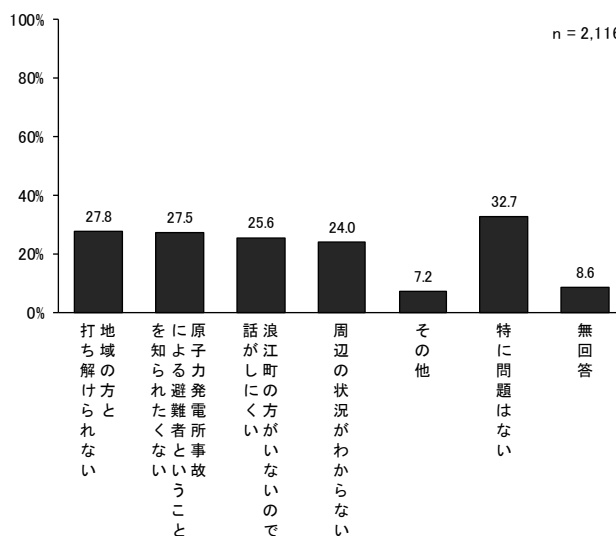
＜図表3-1-5-5 現在の持ち家の取得形態＞



＜図表3-1-5-6 現在の持ち家の取得前の居住形態＞



＜図表3-1-5-7 入居後の問題点＞



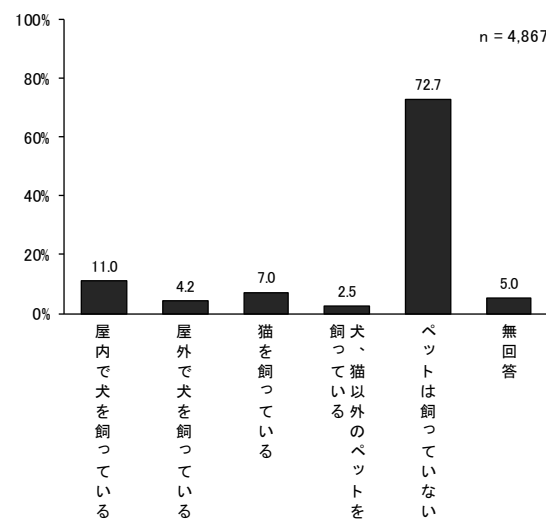
※入居後の問題点については複数回答可

3-1-6 現在のペットの飼育状況

問8 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

現在のペットの飼育状況については、ペットは飼っていない世帯が72.7%と最も高く、次いで、犬を飼っている世帯（「屋内で犬を飼っている」、「屋外で犬を飼っている」）が15.2%、猫を飼っている世帯が7.0%となっている。

＜図表3-1-6-1 現在のペットの飼育状況＞



3-2 将来の意向

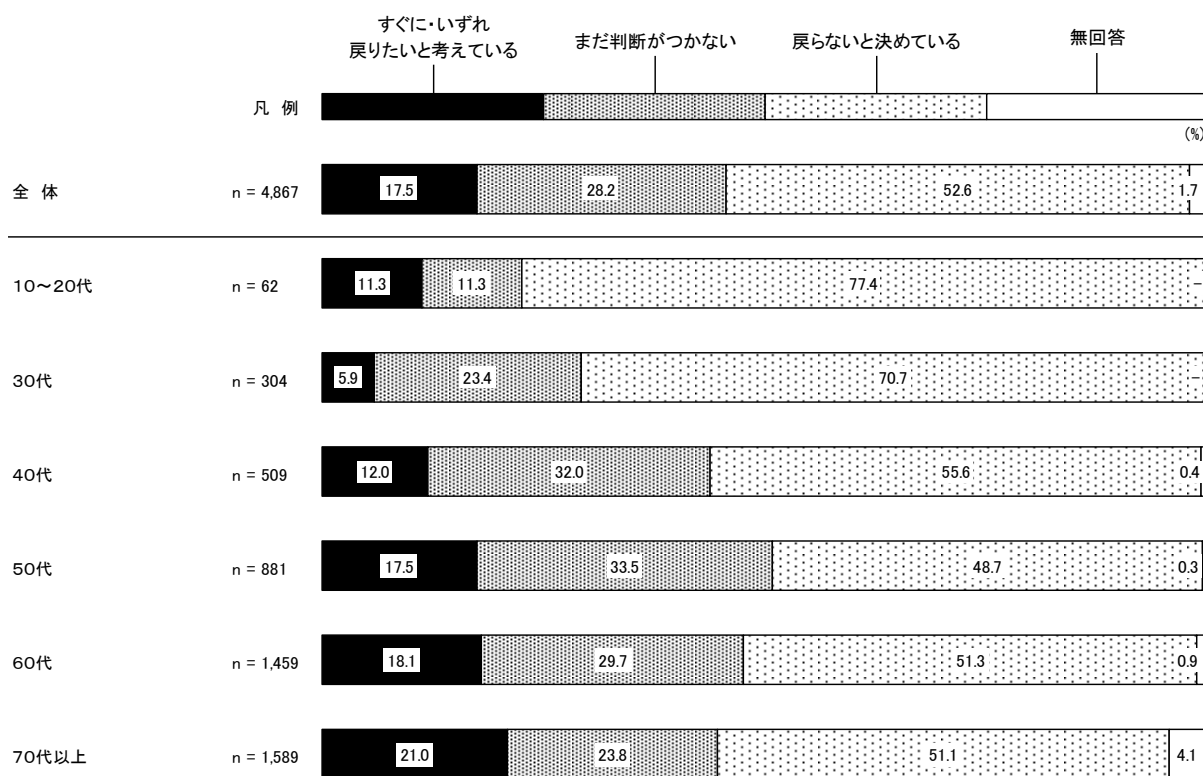
3-2-1 浪江町への帰還意向

問9 将来、浪江町の避難指示が解除された後の浪江町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。（現在一緒にお住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください）（〇は1つ）

将来、浪江町の避難指示が解除された後の帰還意向については、「戻らないと決めている」が52.6%と最も高く、次いで、「まだ判断がつかない」が28.2%、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」が17.5%となっている。

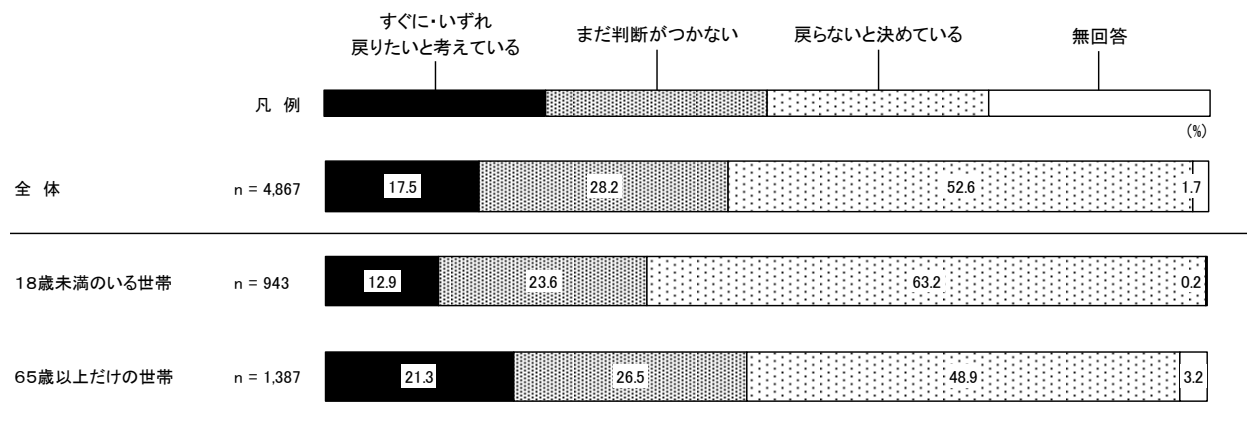
回答者の年齢別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなっており、70代以上では21.0%となっている。一方、「戻らないと決めている」は、10～20代では77.4%、30代では70.7%と7割を超えており、他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-2-1-1 浪江町への帰還意向（年齢別）＞



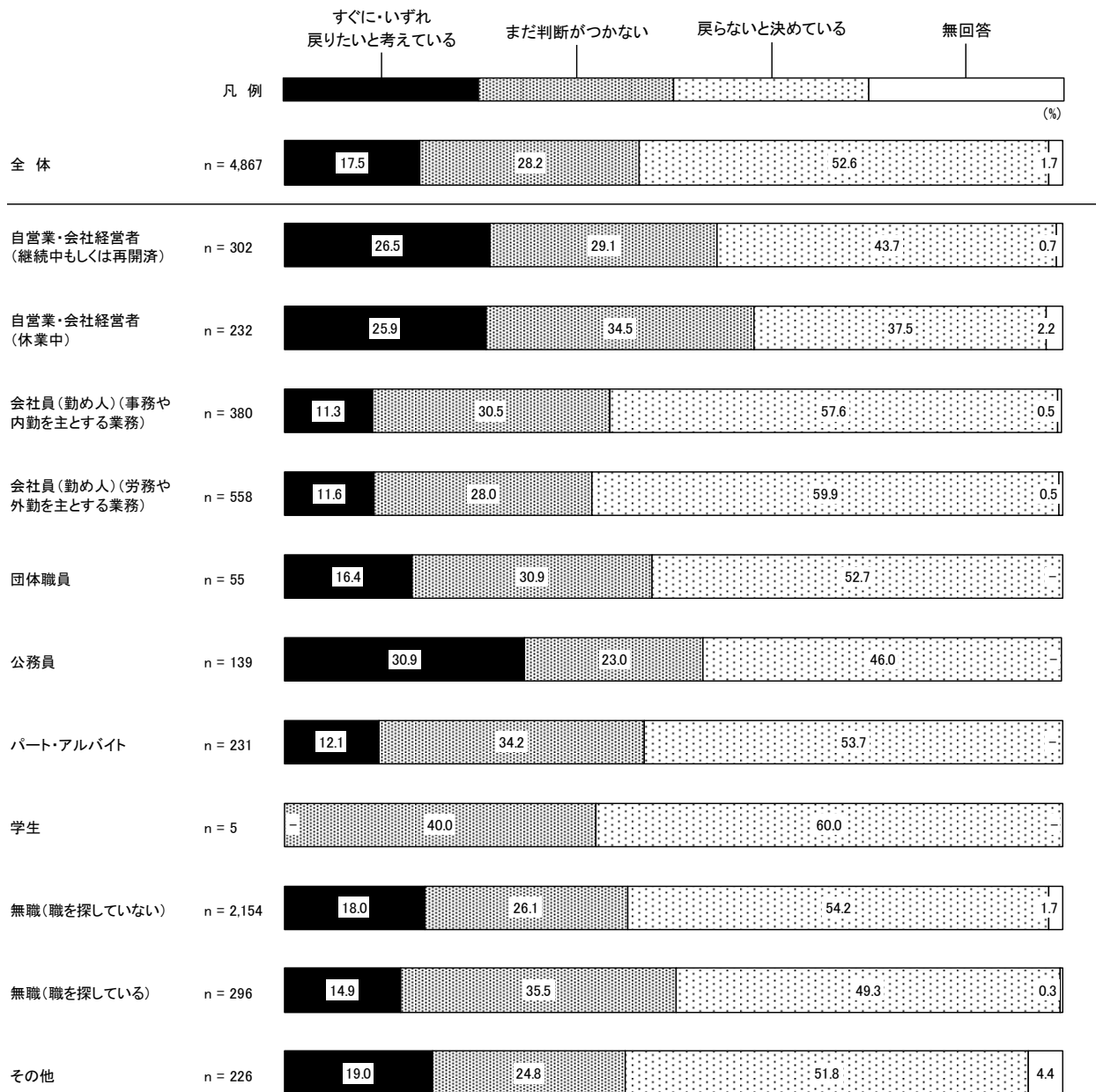
世帯構成別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、65 歳以上だけの世帯で 21.3%と高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は、18 歳未満のいる世帯で 63.2%と6割を超えており、高くなっている。

＜図表3－2－1－2 浪江町への帰還意向（世帯構成別）＞



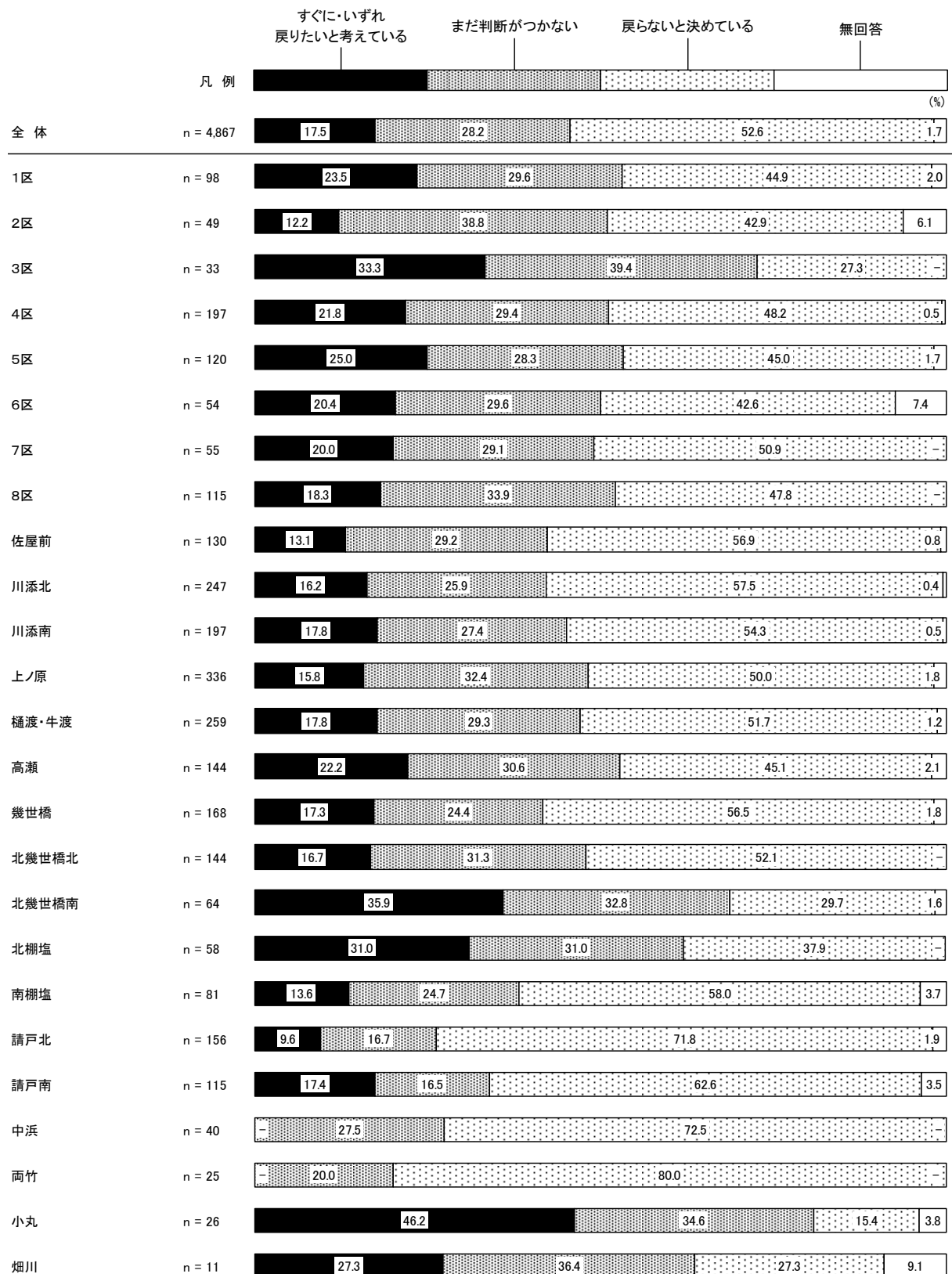
職業別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、公務員が 30.9%と最も高く、次いで、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）が 26.5%、自営業・会社経営者（休業中）が 25.9%となっている。一方、「戻らないと決めている」は会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）（59.9%）、会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）（57.6%）で高くなっている。

＜図表 3-2-1-3 浪江町への帰還意向（職業別）＞

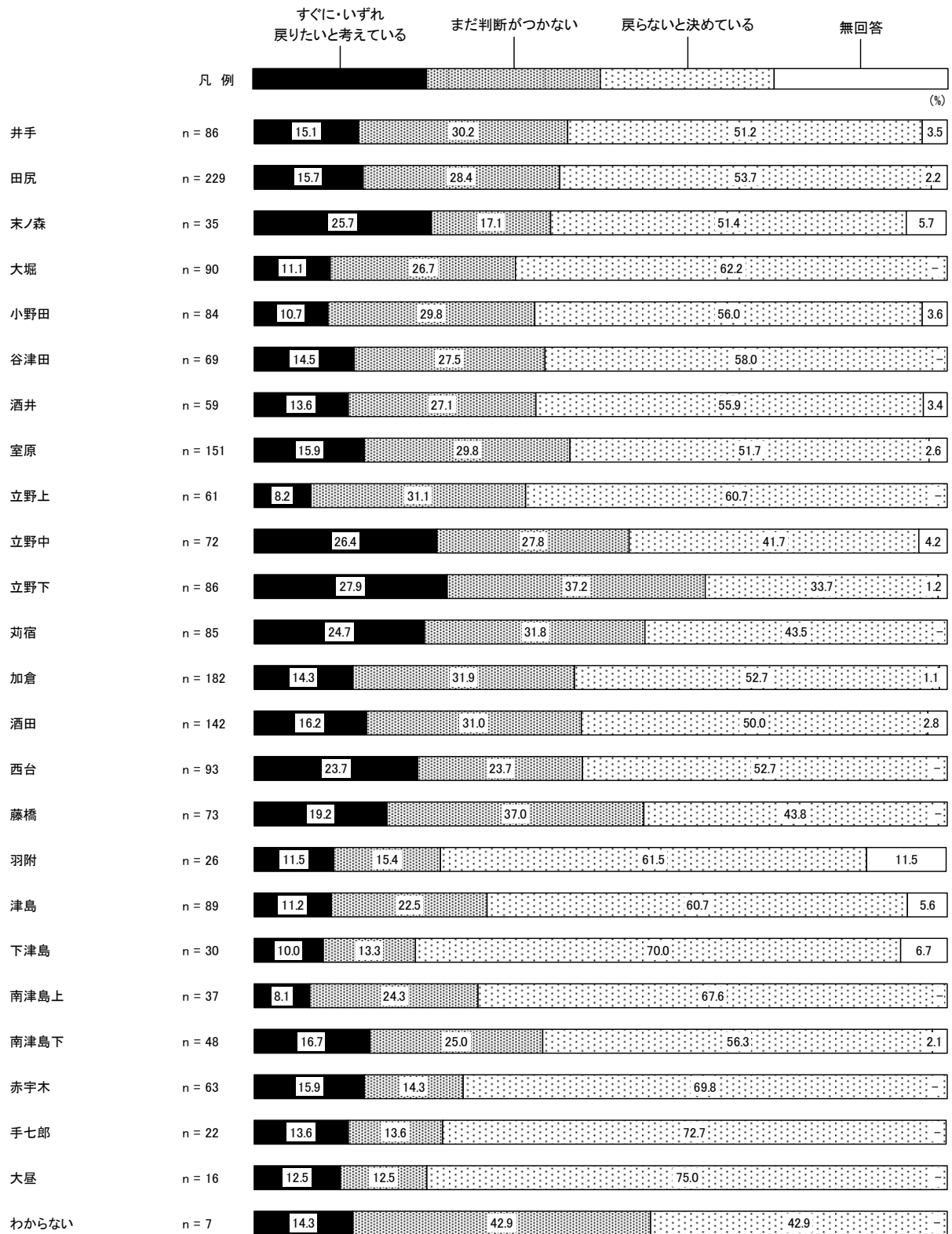


震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、小丸（46.2%）、北幾世橋南（35.9%）、3区（33.3%）、北棚塩（31.0%）で3割強から4割強と高くなっている。

＜図表3-2-1-4 浪江町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

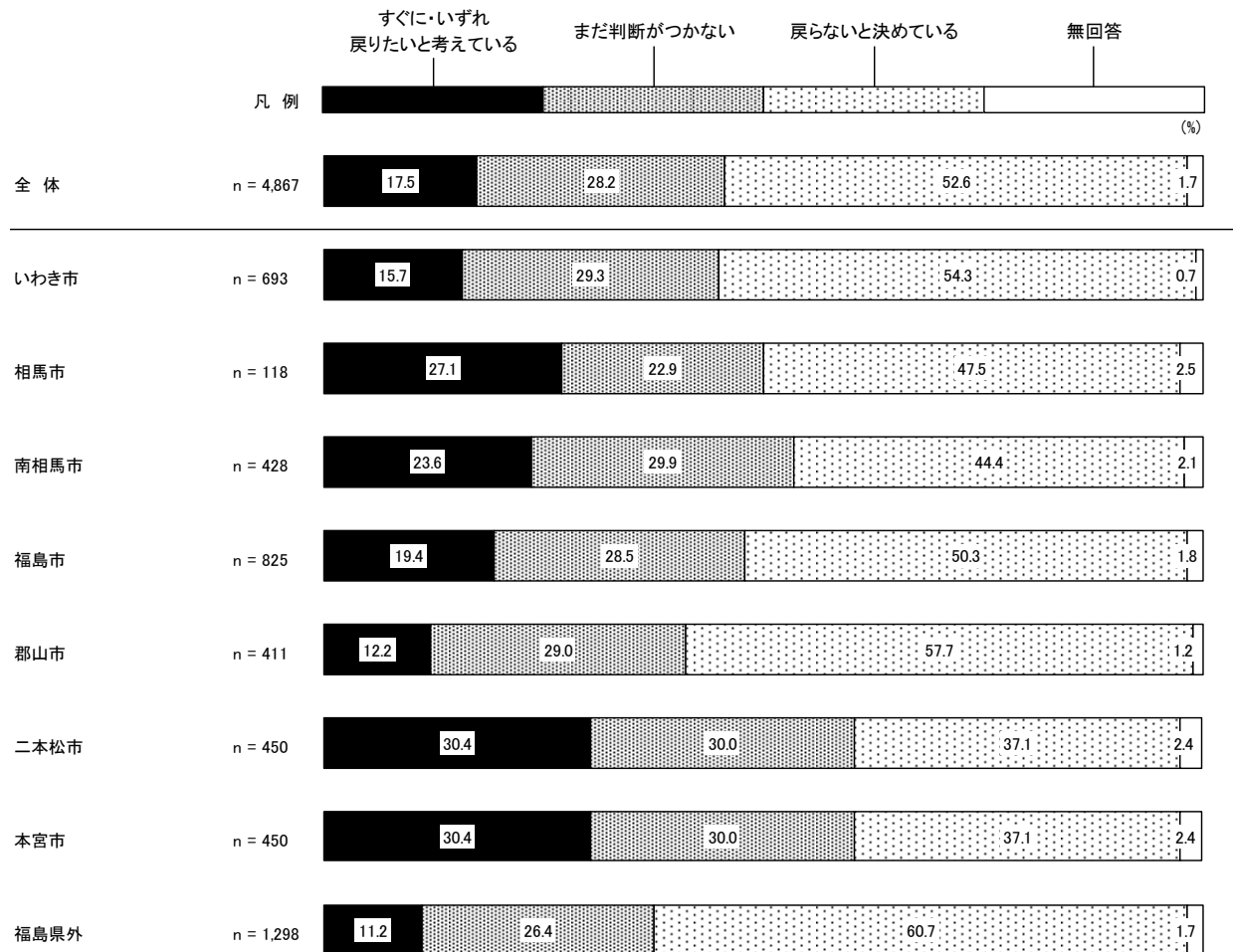


＜図表３－２－１－４ 浪江町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）続き＞



主な避難先自治体別にみると、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、二本松市、本宮市では 30.4%、相馬市では 27.1%となっており、他の避難先自治体に比べやや高くなっている。

＜図表3－2－1－5 浪江町への帰還意向（主な避難先自治体別）＞



3-2-2 浪江町への帰還時期

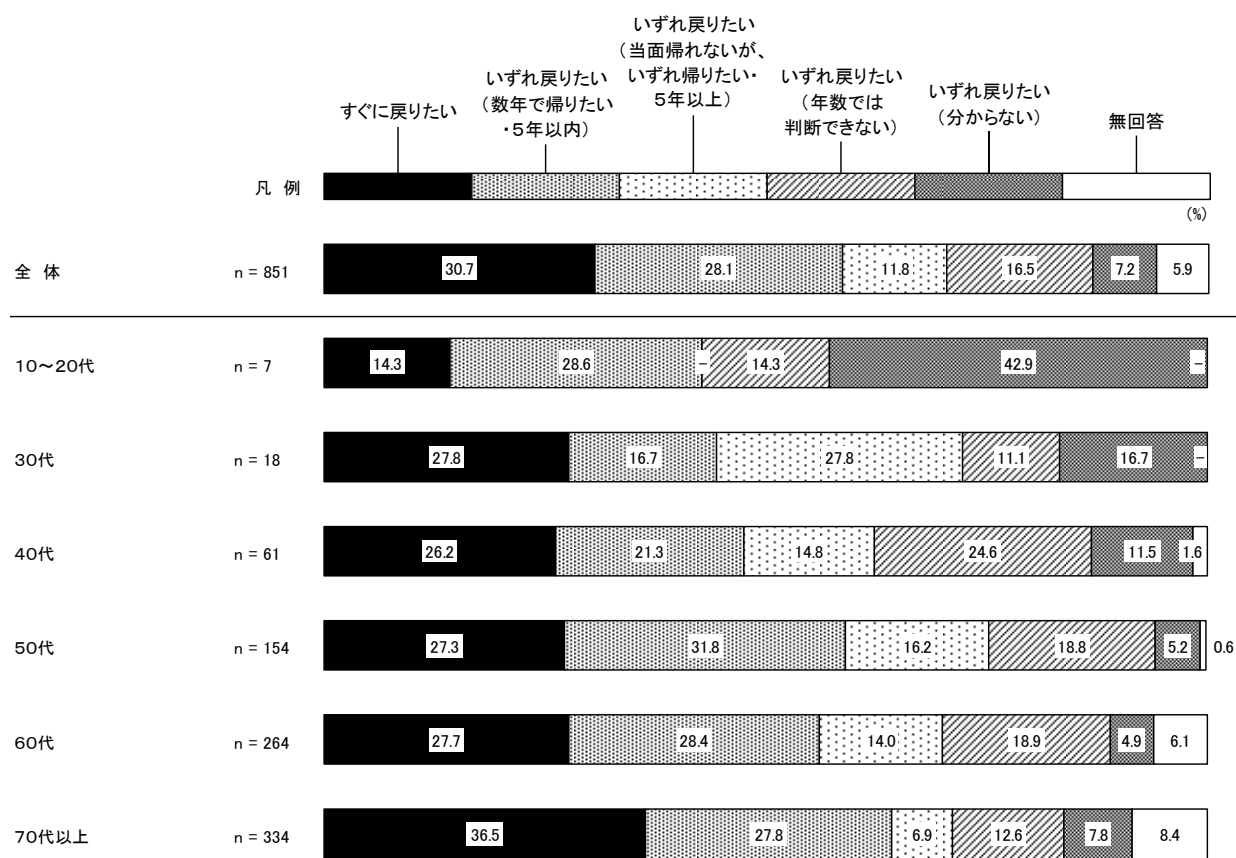
【問9で「1.すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問9-6 浪江町へ戻る時期を教えてください。(〇は1つ)

浪江町への帰還時期については、「すぐに戻りたい」が30.7%と最も高く、次いで「いずれ戻りたい(数年で帰りたい・5年以内)」が28.1%、「いずれ戻りたい(年数では判断できない)」が16.5%となっている。

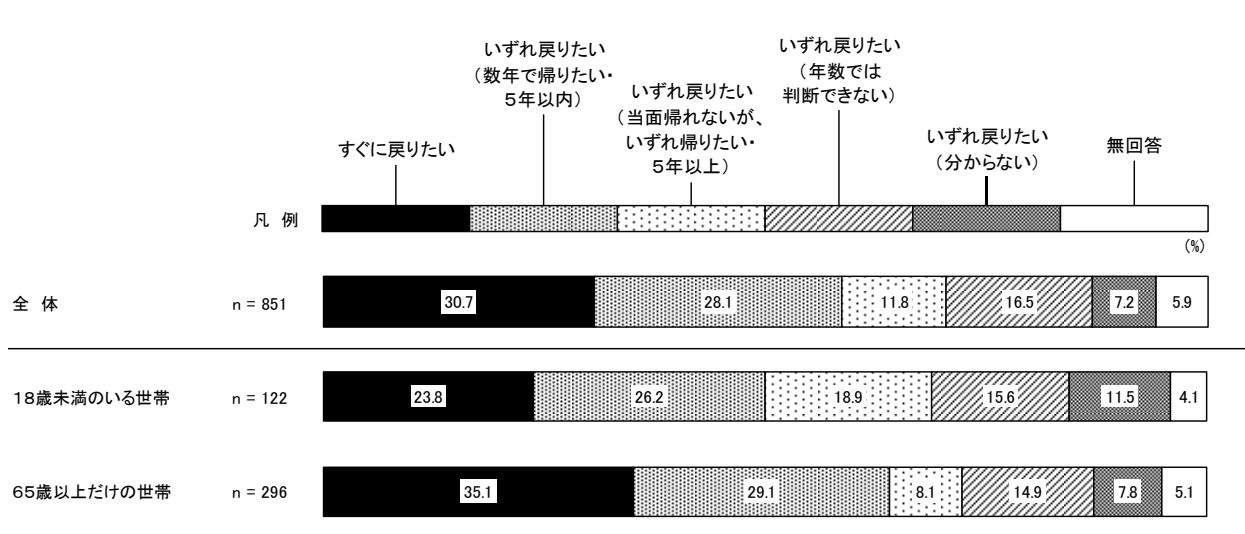
回答者の年齢別にみると、「すぐに戻りたい」は70代以上で36.5%と、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-2-1 浪江町への帰還時期(年齢別)>



世帯構成別にみると、「すぐに戻りたい」は65歳以上の世帯が35.1%と高くなっている。

＜図表3-2-2-2 浪江町への帰還時期（世帯構成別）＞



3-2-3 浪江町へ戻る場合の家族

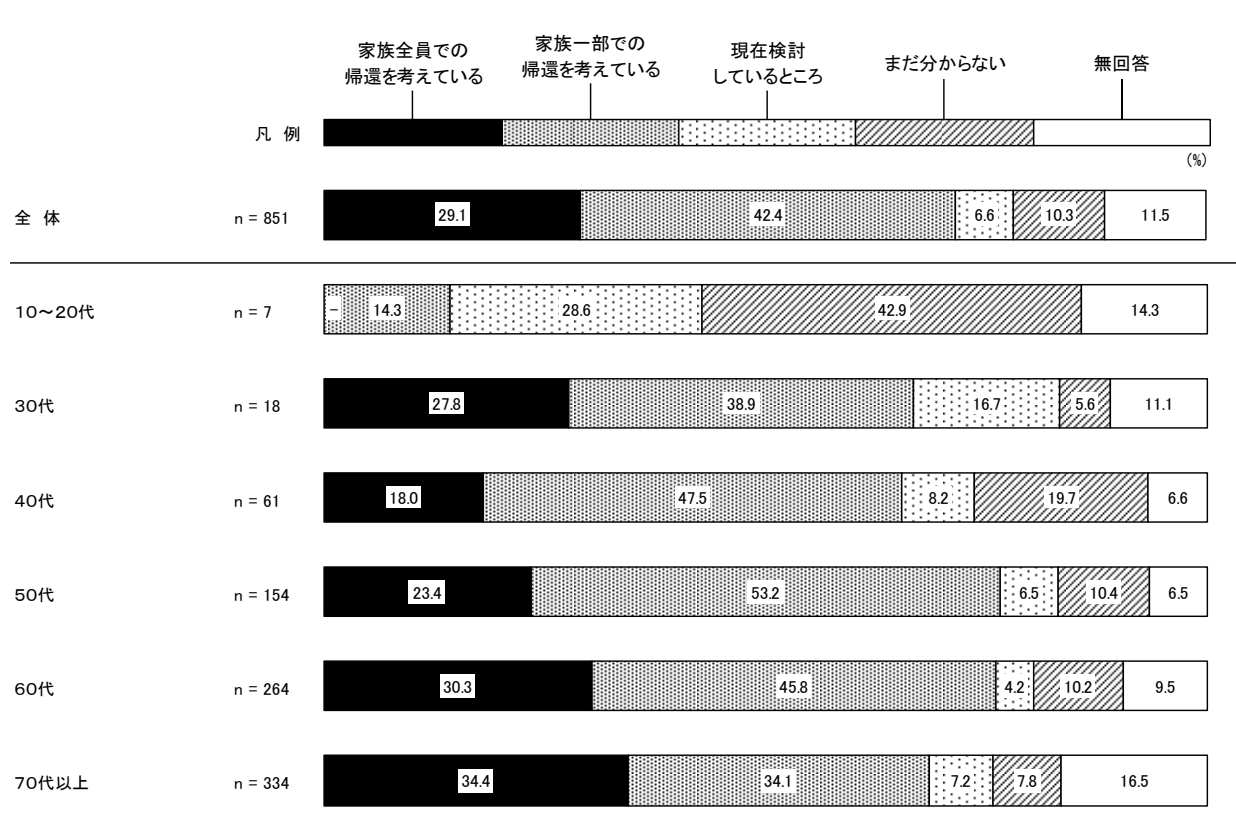
【問 9 で「1.すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(〇は1つ)

浪江町へ戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が42.4%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が29.1%、「現在検討しているところ」と「まだ分からない」が合わせて16.9%となっている。

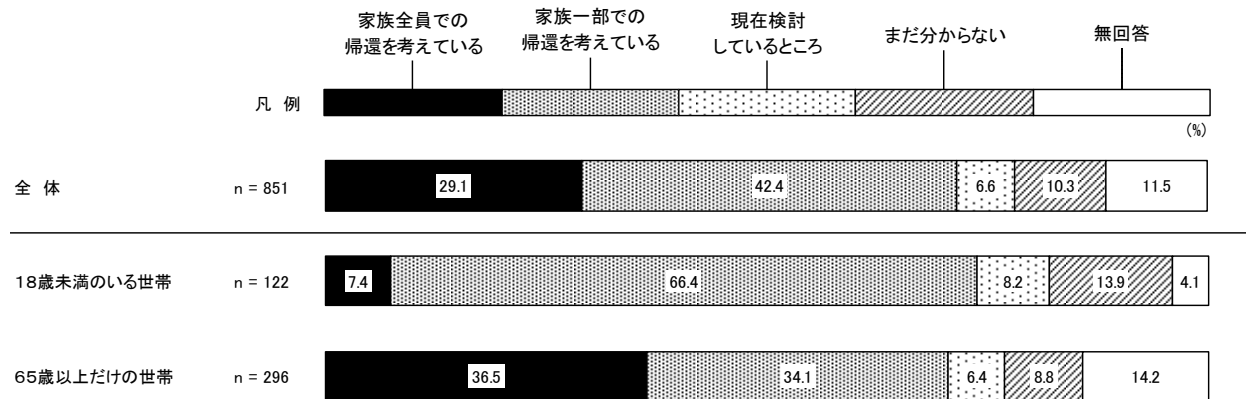
回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、70代以上が34.4%と高くなっている。「家族一部での帰還を考えている」は50代が53.2%と5割を超えている。

＜図表3-2-3-1 浪江町へ戻る場合の家族（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、65 歳以上の世帯が 36.5%を占めるが、18 歳未満のいる世帯では 7.4%と 1 割以下にとどまる。一方、「家族一部での帰還を考えている」は 18 歳未満のいる世帯で 66.4%と高くなっている。

＜図表 3－2－3－2 浪江町へ戻る場合の家族（世帯構成別）＞



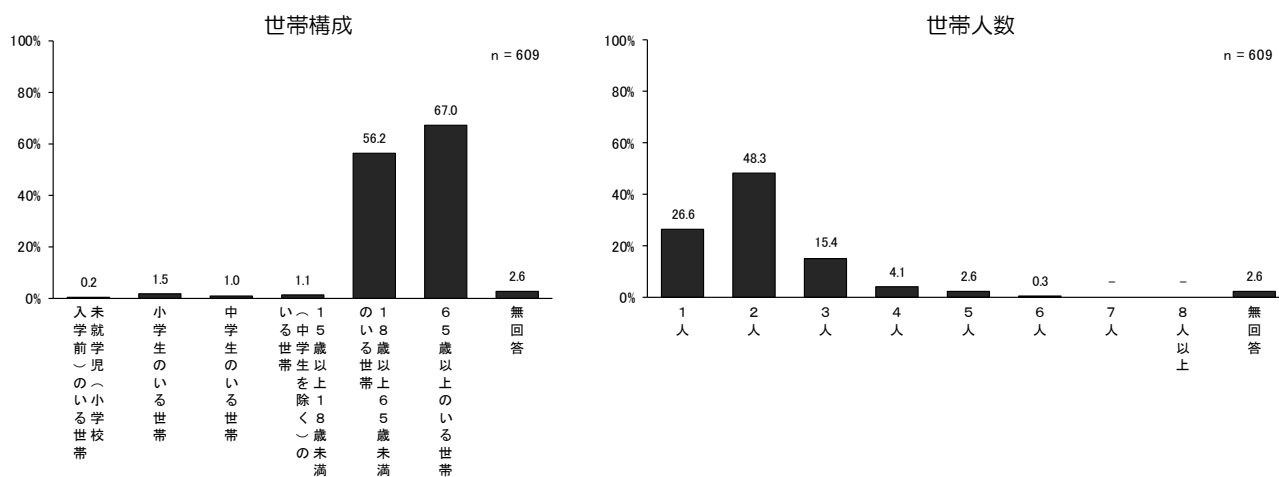
3-2-4 浪江町へ戻る場合の世帯構成・人数

【問9-2で「1.家族全員での帰還を考えている」「2. 家族一部での帰還を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問9-3 戻る予定の家族の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

浪江町へ戻る場合の世帯構成については、「65 歳以上のいる世帯」（67.0%）、「18 歳以上 65 歳未満のいる世帯」（56.2%）が 6 割前後と高く、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15 歳以上 18 歳未満のいる世帯」は 1%前後とほとんどいない。世帯人数については、「2 人」が 48.3%と最も高く、次いで「1 人」が 26.6%、「3 人」が 15.4%となっている。

＜図表3-2-4-1 浪江町へ戻る場合の世帯構成・人数＞



3-2-5 浪江町に帰還する場合に希望する職業

(1) 職業（就業形態）

【問9で「1.すぐに・いすれ戻りたい」「2.まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

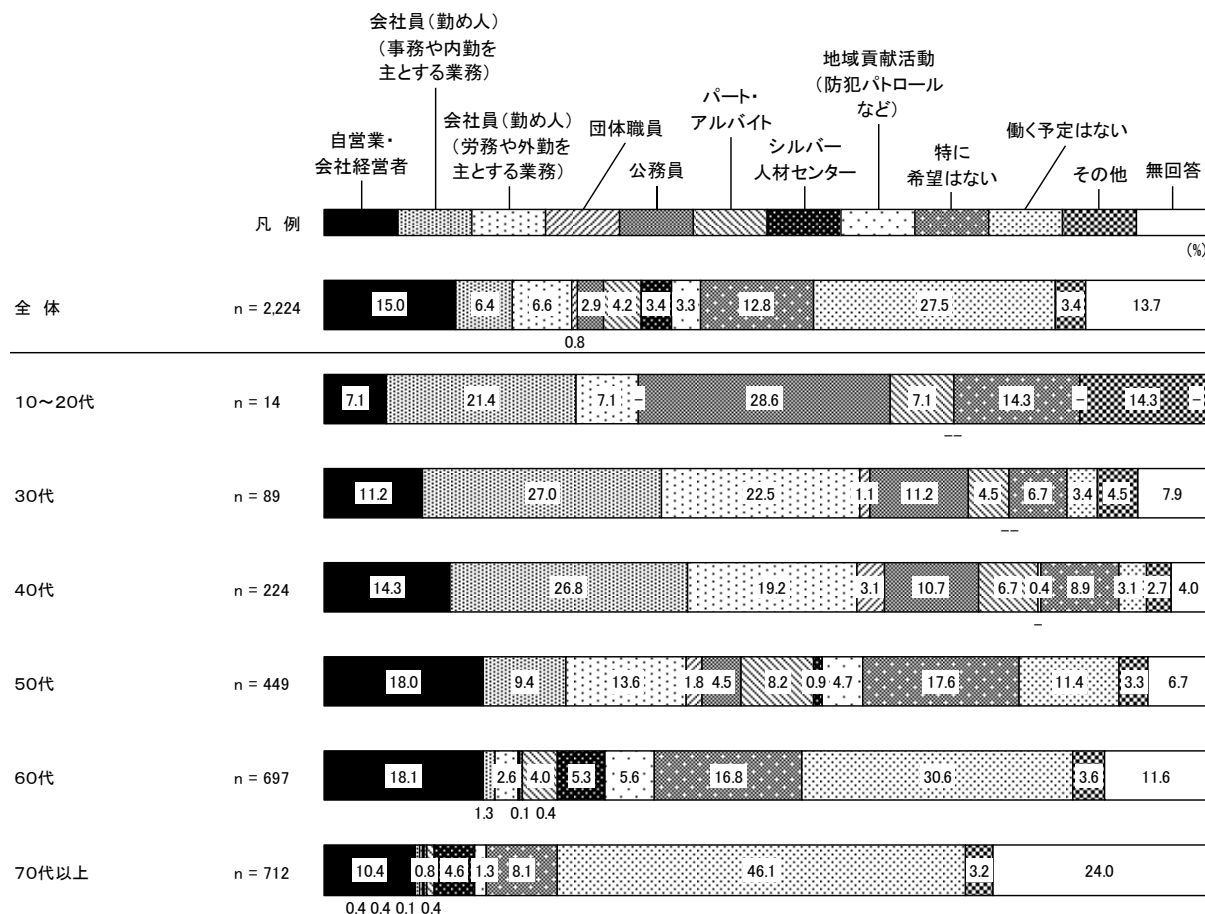
問9-1 あなたが浪江町に戻る場合に希望する職種を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

浪江町へ帰還する場合に希望する職業（就業形態）については、「自営業・会社経営者」が15.0%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が6.6%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が6.4%となっている。また、「特に希望はない」は12.8%、「働く予定はない」は27.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「自営業・会社経営者」は、60代（18.1%）、50代（18.0%）、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」は、30代（27.0%）、40代（26.8%）、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は、30代（22.5%）、40代（19.2%）が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-5-1 浪江町に帰還する場合に希望する職業（年齢別）>



(2) 業種

【問9で「1.すぐに・いずれ戻りたい」「2.まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問9-1 あなたが浪江町に戻る場合に希望する職種を教えてください。

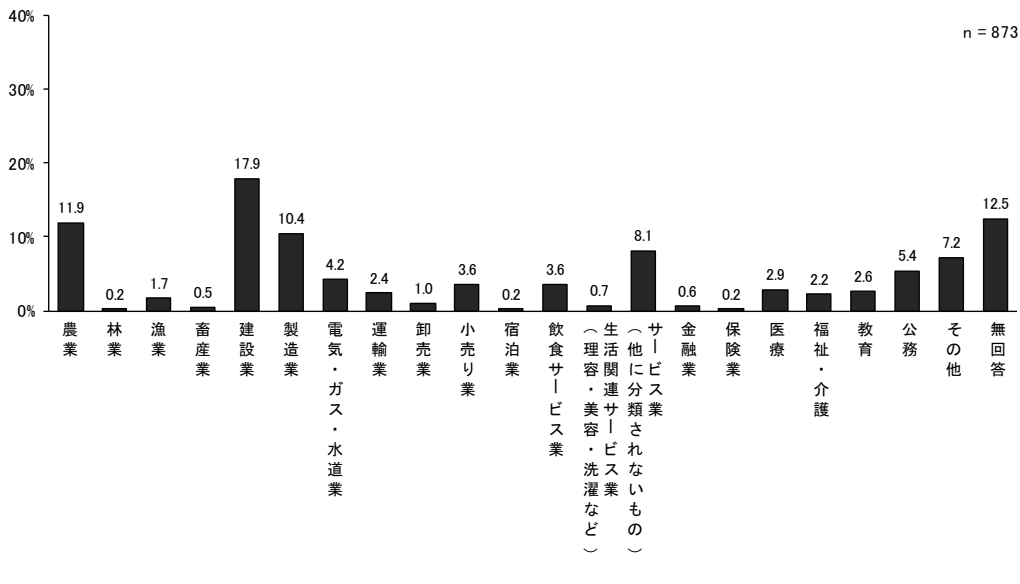
【問9-1(1)で「1」から「6」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

浪江町に帰還する場合に希望する業種については、「建設業」が17.9%と最も高く、次いで「農業」が11.9%、「製造業」が10.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、60代(23.8%)、「農業」は、60代(19.5%)、70代以上(30.1%)が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-5-2 浪江町に帰還する場合に希望する業種>



<図表3-2-5-3 浪江町に帰還する場合に希望する業種（年齢別）>

		農業	林業	漁業	畜産業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	運輸業	卸売業	小売り業	宿泊業	飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	サービス業（他に分類されないもの）	金融業	保険業	医療	福祉・介護	教育	公務	その他	無回答
	n																						(%)
全体	873	11.9	0.2	1.7	0.5	17.9	10.4	4.2	2.4	1.0	3.6	0.2	3.6	0.7	8.1	0.6	0.2	2.9	2.2	2.6	5.4	7.2	12.5
10～20代	12	8.3	-	-	-	-	25.0	8.3	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	8.3	-	-	33.3	8.3	-
30代	73	-	-	1.4	-	19.2	13.7	9.6	1.4	-	1.4	-	2.7	-	6.8	-	-	9.6	6.8	2.7	8.2	5.5	11.0
40代	187	2.1	-	1.1	-	12.8	15.0	4.8	3.7	1.1	2.7	0.5	3.7	0.5	6.4	1.1	-	2.7	4.3	2.7	11.2	7.0	16.6
50代	264	7.6	0.4	2.3	-	18.2	12.9	4.2	3.4	0.4	3.8	0.4	1.9	0.4	11.7	1.1	0.4	2.7	1.1	4.5	4.5	8.0	10.2
60代	210	19.5	0.5	2.9	1.0	23.8	5.2	3.3	1.4	0.5	4.3	-	6.7	1.0	7.1	-	0.5	1.4	1.4	0.5	1.4	7.6	10.0
70代以上	113	30.1	-	-	-	1.8	15.0	3.5	0.9	0.9	4.4	4.4	-	1.8	1.8	7.1	-	0.9	-	1.8	0.9	6.2	18.6

3-2-6 浪江町へ帰還する場合の住居形態

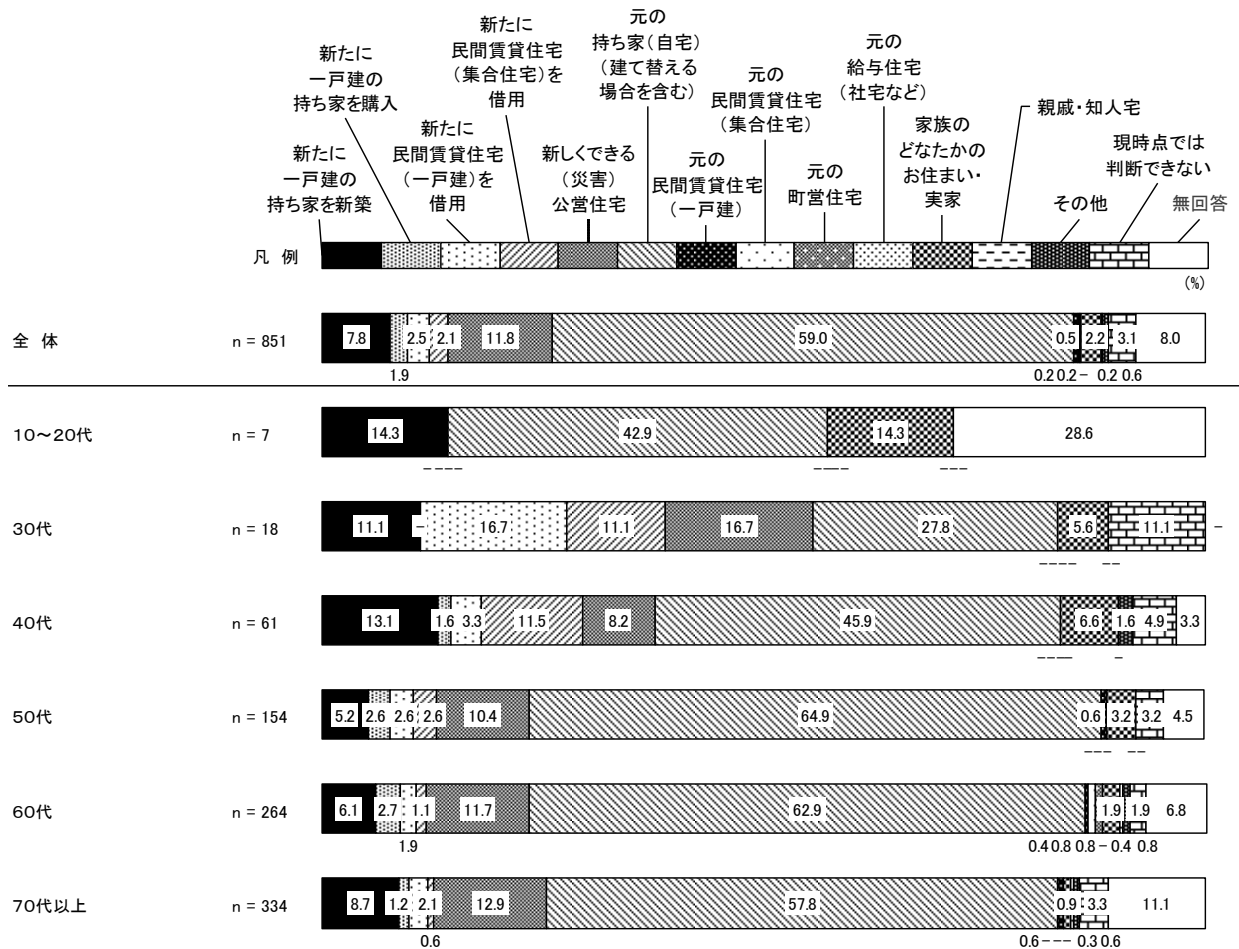
【問 9 で「1. すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(〇は1つ)

浪江町へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が 59.0% と約6割を占め、次いで「新しくできる（災害）公営住宅」が 11.8% となっている。

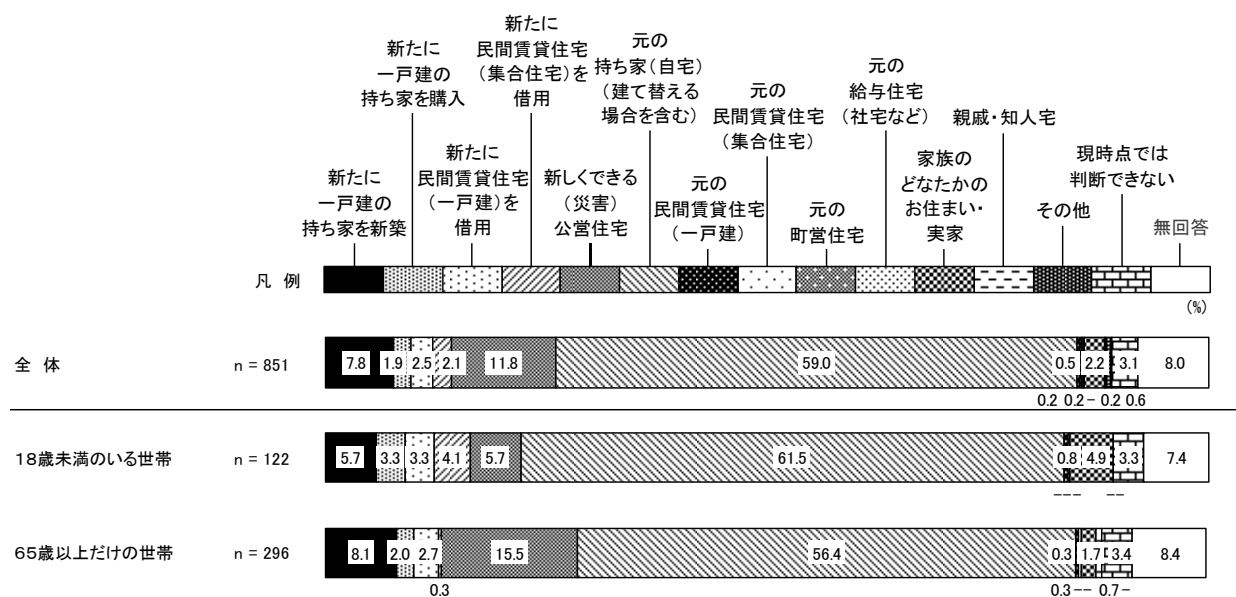
回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が最も高い。

＜図表3-2-6-1 浪江町へ帰還する場合の住居形態（年齢別）＞



世帯構成別にみても、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」はいずれの世帯構成でも最も高くなっている。

＜図表3-2-6-2 浪江町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）＞



＜図表３－２－６－３ 浪江町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

																(%)
	n	新たに一戸建の持ち家を新築	新たに一戸建の持ち家を購入	新たに民間賃貸住宅（一戸建）を借用	新たに民間賃貸住宅（集合住宅）を借用	新しくできる（災害）公営住宅	元の持ち家（自宅を含む）（建て替える場合を含む）	元の民間賃貸住宅（一戸建）	元の民間賃貸住宅（集合住宅）	元の町営住宅	元の給与住宅（社宅など）	家族のどなたかの住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断できない	無回答
全 体	851	7.8	1.9	2.5	2.1	11.8	59.0	0.5	0.2	0.2	-	2.2	0.2	0.6	3.1	8.0
1区	23	-	-	4.3	-	13.0	60.9	-	-	-	-	8.7	-	-	8.7	4.3
2区	6	16.7	-	-	-	16.7	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3区	11	9.1	-	-	-	18.2	63.6	-	-	-	-	-	-	-	-	9.1
4区	43	2.3	-	-	2.3	14.0	53.5	-	2.3	-	-	4.7	-	4.7	4.7	11.6
5区	30	3.3	-	-	3.3	3.3	70.0	-	-	-	-	-	-	-	6.7	13.3
6区	11	-	-	9.1	-	-	72.7	-	-	-	-	9.1	9.1	-	-	-
7区	11	-	-	9.1	-	18.2	54.5	9.1	-	-	-	-	-	-	-	9.1
8区	21	14.3	-	4.8	-	-	61.9	-	-	-	-	-	-	-	4.8	14.3
佐屋前	17	17.6	-	-	5.9	5.9	58.8	-	-	-	-	-	-	-	5.9	5.9
川添北	40	2.5	2.5	2.5	2.5	22.5	57.5	-	-	-	-	-	-	-	2.5	7.5
川添南	35	5.7	2.9	2.9	8.6	8.6	65.7	-	-	-	-	2.9	-	-	-	2.9
上ノ原	53	-	-	-	1.9	17.0	56.6	-	-	1.9	-	1.9	-	1.9	5.7	13.2
樋渡・牛渡	46	10.9	-	2.2	-	15.2	50.0	2.2	2.2	-	-	4.3	-	-	8.7	4.3
高瀬	32	3.1	-	-	-	6.3	78.1	3.1	-	-	-	6.3	-	-	3.1	-
幾世橋	29	17.2	-	-	6.9	13.8	51.7	-	-	-	-	-	-	-	6.9	3.4
北幾世橋北	24	8.3	-	-	-	-	83.3	-	-	-	-	-	-	-	-	8.3
北幾世橋南	23	4.3	-	-	-	8.7	69.6	-	-	-	-	4.3	-	-	-	13.0
北柳塩	18	5.6	-	-	-	5.6	72.2	-	-	-	-	-	-	-	5.6	11.1
南柳塩	11	-	27.3	-	-	45.5	9.1	-	-	-	-	-	-	-	9.1	9.1
請戸北	15	20.0	13.3	20.0	-	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7
請戸南	20	10.0	5.0	15.0	5.0	60.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0
中浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
両竹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小丸	12	8.3	8.3	16.7	-	-	41.7	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0
畑川	3	66.7	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
井手	13	23.1	-	-	-	30.8	38.5	-	-	-	-	-	-	-	-	7.7
田尻	36	16.7	2.8	2.8	2.8	5.6	61.1	-	-	-	-	2.8	-	2.8	-	2.8
末ノ森	9	-	-	-	-	11.1	66.7	-	-	-	-	-	-	11.1	-	11.1
大堀	10	10.0	-	20.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	10.0	-	10.0	-
小野田	9	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
谷津田	10	20.0	-	-	-	-	70.0	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0
酒井	8	-	12.5	-	-	12.5	75.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
室原	24	-	-	-	8.3	8.3	70.8	-	-	-	-	-	-	-	8.3	4.2
立野上	5	40.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-
立野中	19	5.3	5.3	-	-	10.5	63.2	-	-	-	-	5.3	-	-	-	10.5
立野下	24	12.5	-	-	4.2	4.2	70.8	-	-	-	-	-	-	-	-	8.3
苅宿	21	19.0	4.8	-	4.8	4.8	57.1	-	-	-	-	-	-	-	4.8	4.8
加倉	26	7.7	3.8	-	3.8	11.5	50.0	-	-	-	-	7.7	-	-	3.8	11.5
酒田	23	-	4.3	-	-	4.3	73.9	-	-	4.3	-	-	-	-	-	13.0
西台	22	-	-	4.5	-	13.6	77.3	-	-	-	-	-	-	-	-	4.5
藤橋	14	14.3	-	-	-	7.1	50.0	-	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3
羽附	3	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
津島	10	20.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	10.0	-	-	-	20.0
下津島	3	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南津島上	3	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南津島下	8	12.5	-	12.5	-	12.5	37.5	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0
赤宇木	10	-	-	10.0	10.0	-	70.0	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0
手七郎	3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大屋	2	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
わからない	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

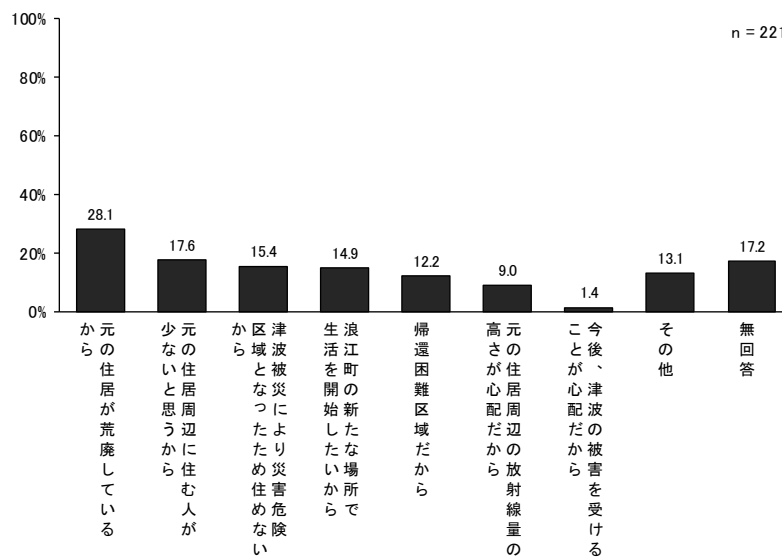
3-2-7 浪江町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

問9-4で「1」から「5」と回答した方にうかがいます。

問9-5 元の住居と違う場所を希望される理由は、何ですか。（〇はいくつでも）

浪江町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の住居が荒廃しているから」が28.1%と最も高く、次いで「元の住居周辺に住む人が少ないと思うから」が17.6%、「津波被災により災害危険区域となったため住めないから」が15.4%となっている。

<図表3-2-7-1 浪江町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



3-2-8 浪江町へ帰還する場合に不足していると感じる支援

【問9-6で「1.すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

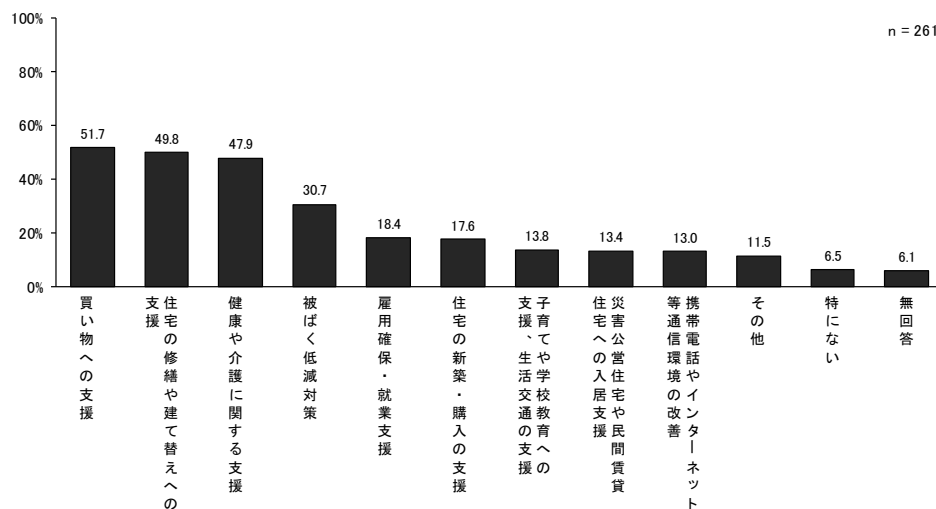
問9-7 浪江町に戻る場合に、同封資料を見て不足していると感じるものを教えてください。

(〇はいくつでも)

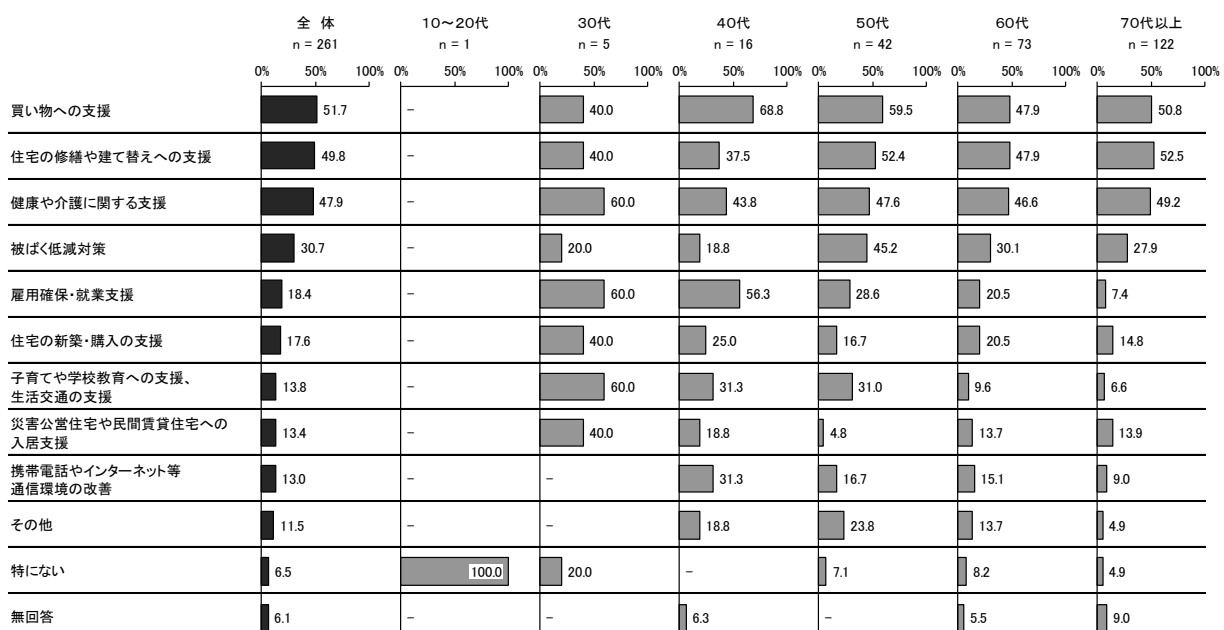
浪江町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「買い物への支援」が51.7%と最も高く、次いで「住宅の修繕や建て替えへの支援」が49.8%、「健康や介護に関する支援」が47.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、50代では「被ばく低減対策」(45.2%)、「雇用確保・就業支援」(28.6%)、「子育てや学校教育への支援、生活交通の支援」(31.0%)が全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表3-2-8-1 浪江町へ帰還する場合に不足していると感じる支援＞

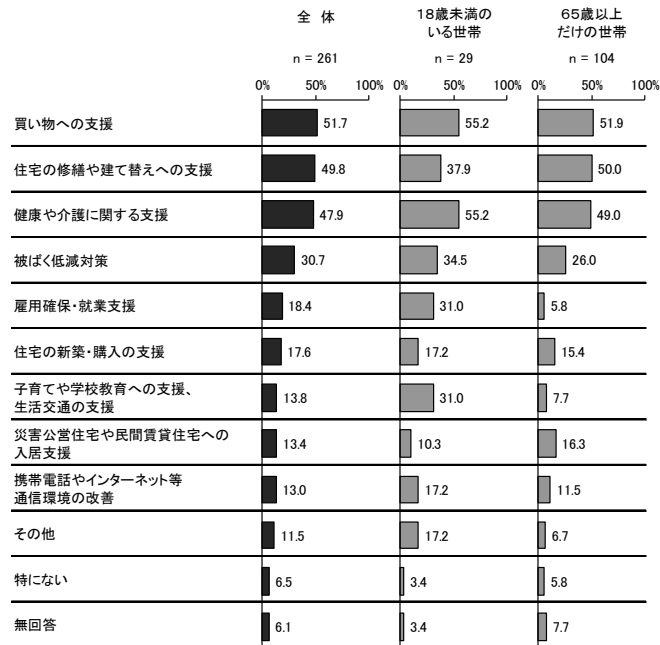


＜図表3-2-8-2 浪江町へ帰還する場合に不足していると感じる支援（年齢別）＞



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「健康や介護に関する支援」（55.2%）、「雇用確保・就業支援」（31.0%）、「子育てや学校教育への支援、生活交通の支援」（31.0%）が全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表3-2-8-3 浪江町へ帰還する場合に不足していると感じる支援（世帯構成別）＞



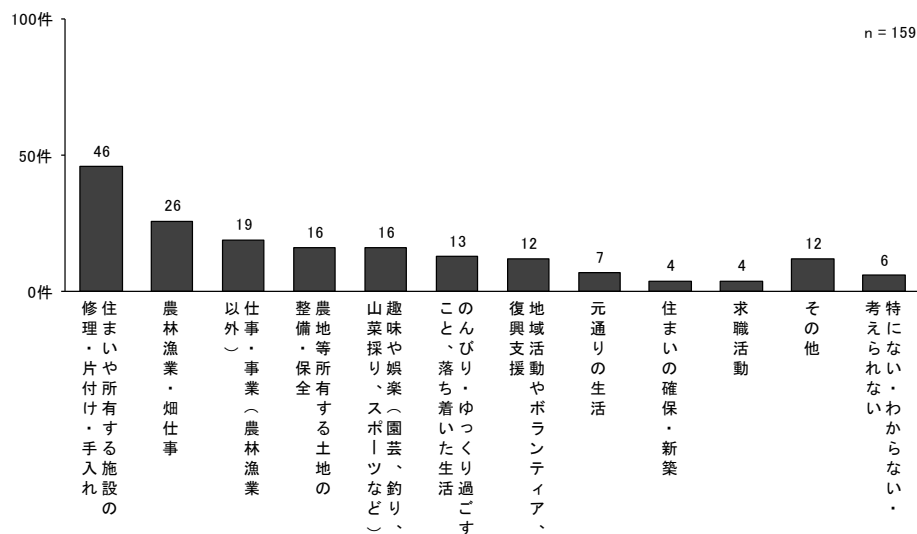
3-2-9 浪江町へ帰還する場合にすぐにでもやりたいこと

【問9-6で「1.すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問9-8 浪江町に戻ったら、すぐにでもやりたいことを教えてください。（自由記載）

浪江町へ帰還する場合にすぐにでもやりたいことについて、159 世帯から回答があり、分類の結果、「住まいや所有する施設の修理・片付け・手入れ」が46件と最も多く、次いで「農林漁業・畑仕事」が26件、「仕事・事業（農林漁業以外）」が19件などとなっている。

＜図表3-2-9-1 浪江町帰還する場合にすぐにでもやりたいことの分類結果＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【住まいや所有する施設の修理・片付け・手入れ】

- ・ 家と家財の手入れ。（40代）
- ・ リフォームをやりたい。修繕をやりたい（現在、建物の除染が終わっていない）。（50代）。
- ・ 自宅と店が一緒になっているので、まず自宅そしてお店の片付け。（60代）

【農林漁業・畑仕事】

- ・ 農業の再開、事業拡大。（50代）
- ・ 除染後再測定してもらって、基準以下なら野菜や米を作る。（70代以上）
- ・ 米作りをやりたい。（60代）

【仕事・事業（農林漁業以外）】

- ・ 自営業の再開。（50代）
- ・ 仮設商業施設で飲食店を出店。（60代）
- ・ 工場を作って、建具業をしたいです。（60代）

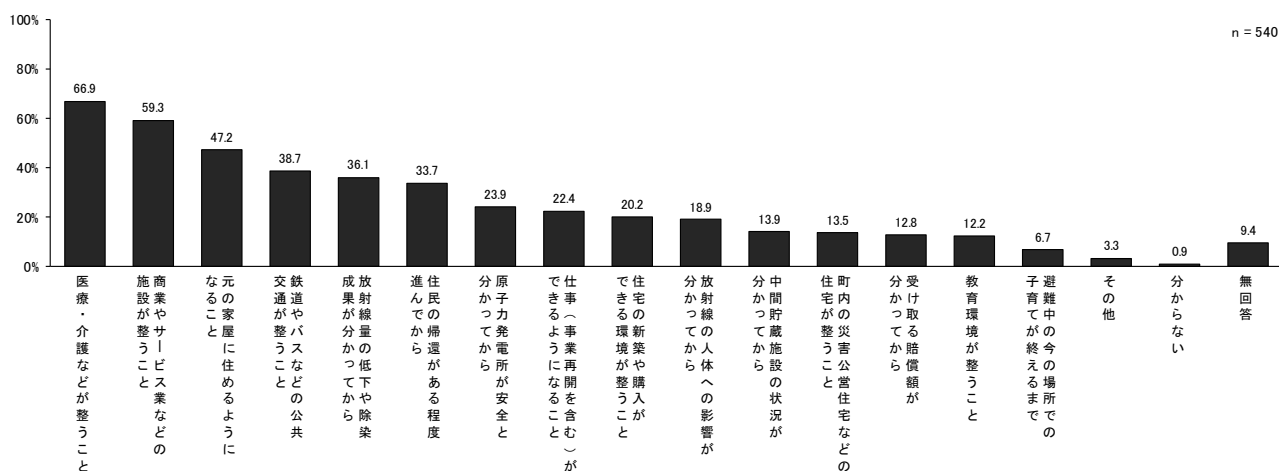
3-2-10 浪江町へいずれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件

【問9-6で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問9-9 同封資料を見て戻る時期を判断する条件を教えてください。(〇はいくつでも)

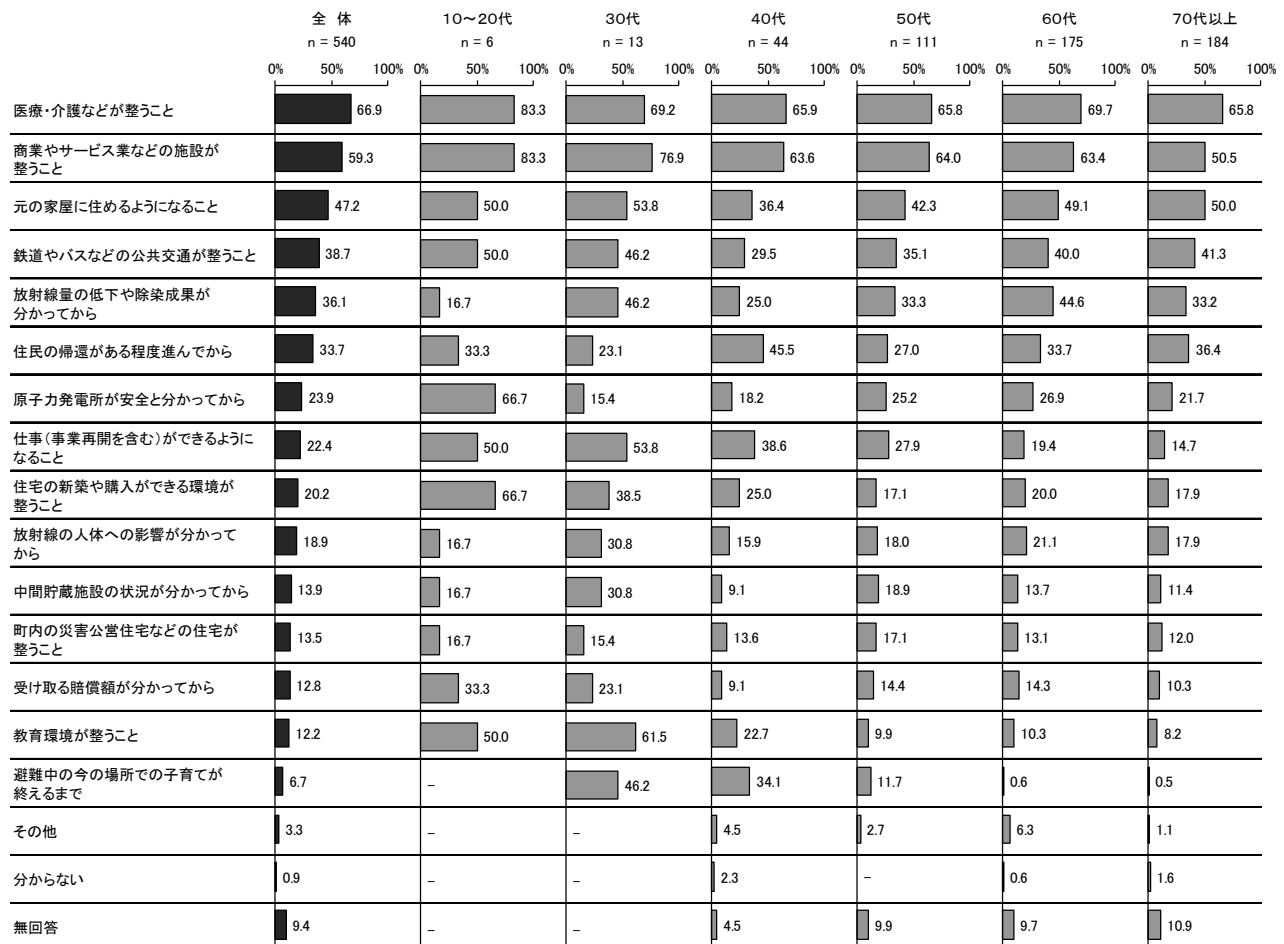
浪江町へいずれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件については、「医療・介護などが整うこと」が66.9%と最も高く、次いで「商業やサービス業などの施設が整うこと」が59.3%、「元の家屋に住めるようになること」が47.2%となっている。

＜図表3-2-10-1 浪江町へいずれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件＞



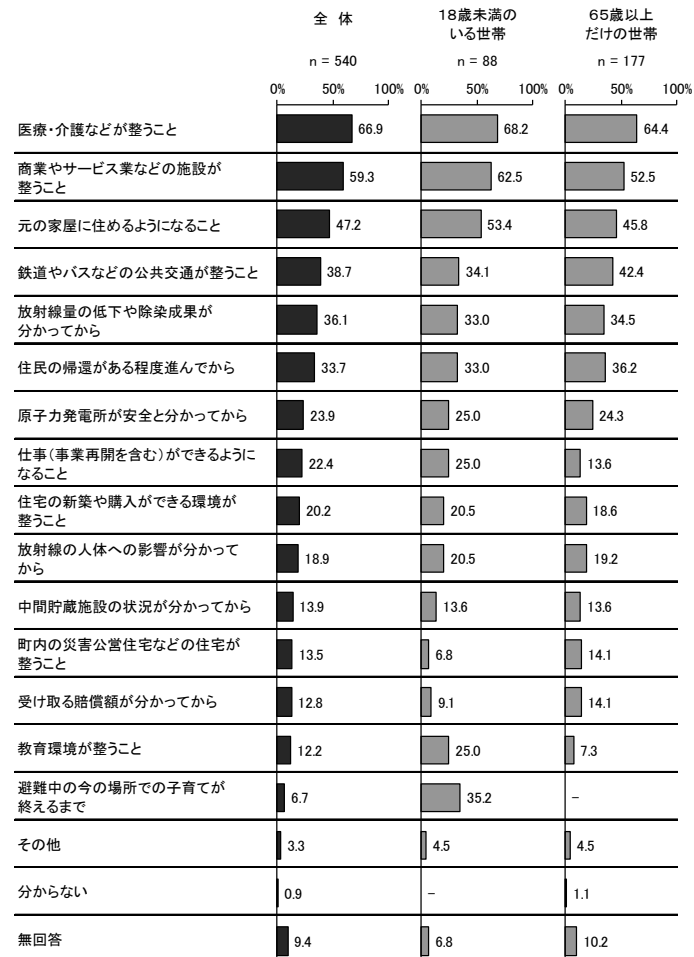
回答者の年齢別にみると、「元の家屋に住めるようになること」は60代(49.1%)、70代以上(50.0%)が他の年齢に比べ高くなっている。また、40代では「住民の帰還がある程度進んでから」(45.5%)、「仕事(事業再開を含む)ができるようになること」(38.6%)が他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-2-10-2 浪江町へいずれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件(年齢別)＞



世帯構成別にみると、65 歳以上だけの世帯は「鉄道やバス等の公共交通が整うこと」（42.4％）が全体の割合に比べ高くなっている。一方、18 歳未満のいる世帯では「元の家屋に住めるようになること」（53.4％）、「教育環境が整うこと」（25.0％）、「避難中の今の場所での子育てが終えるまで」（35.2％）が全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表３－２－１０－３ 浪江町へいずれ戻りたい場合の帰還時期を判断する条件（世帯構成別）＞



3-2-11 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報

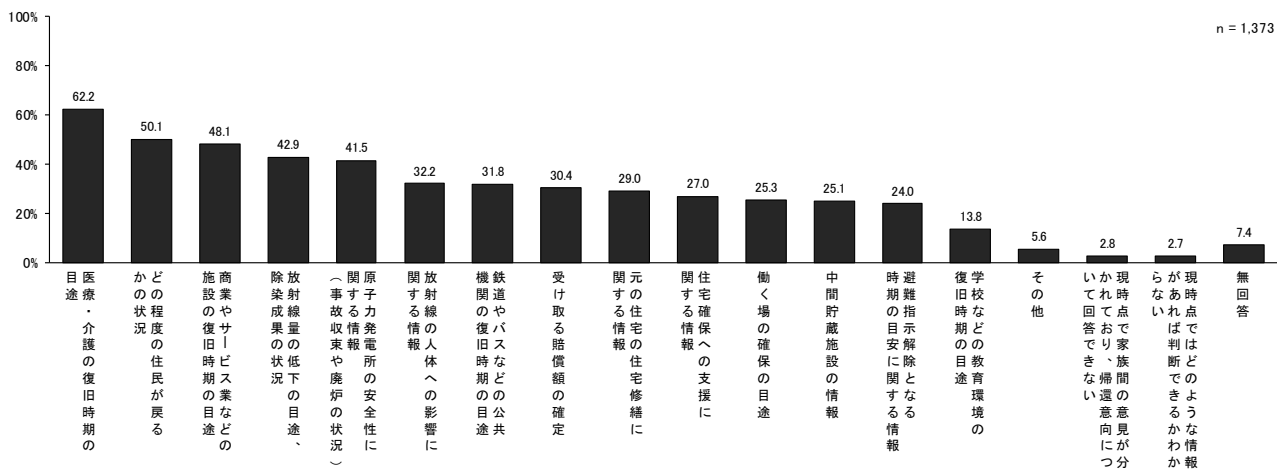
【問9で「2.まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問9-10 同封資料を見て浪江町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。

(〇はいくつでも)

浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「医療・介護の復旧時期の目途」が62.2%と最も高く、次いで、「どの程度の住民が戻るかの状況」が50.1%、「商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途」が48.1%となっている。

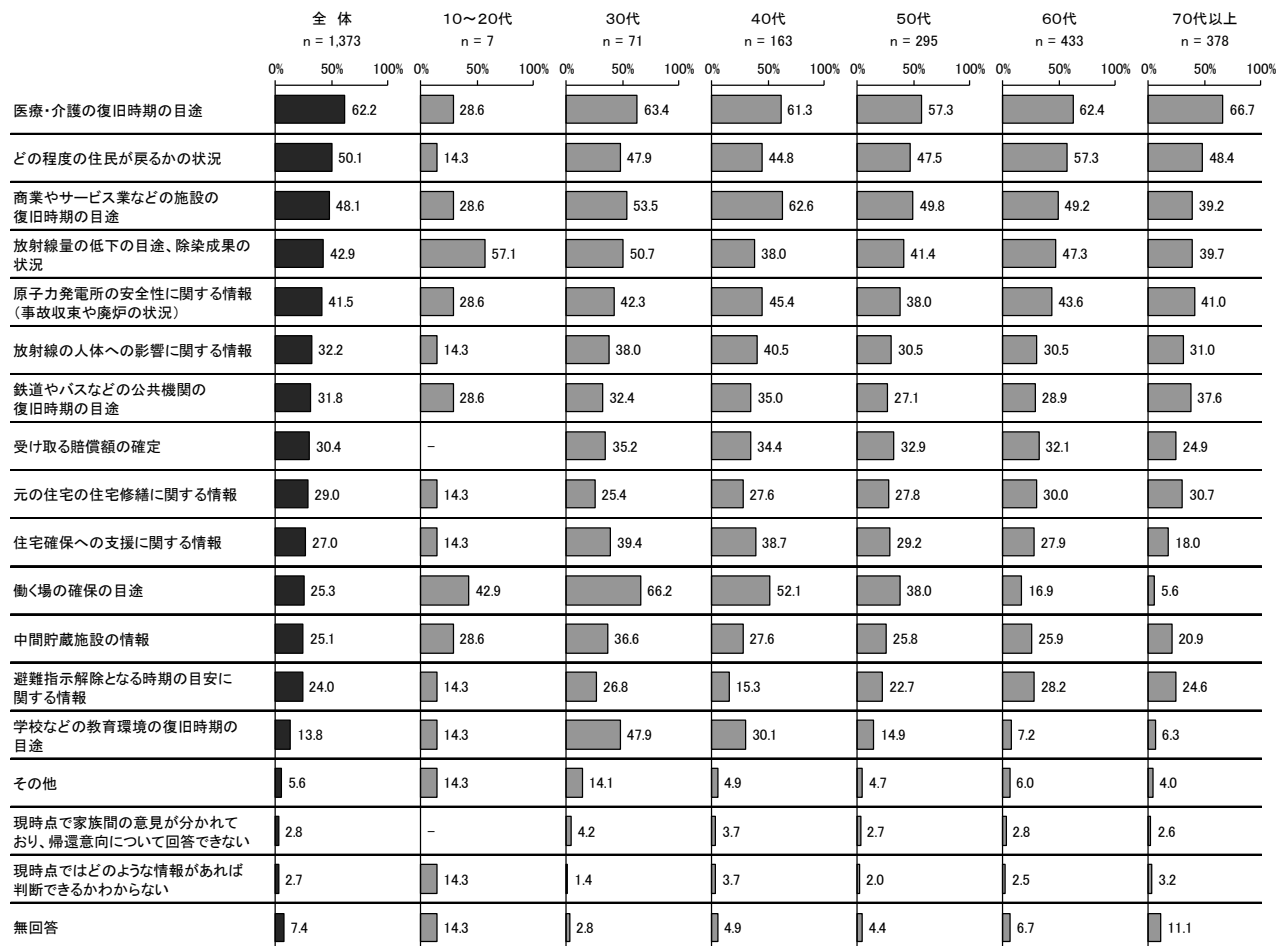
＜図表3-2-11-1 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報＞



III 調査結果

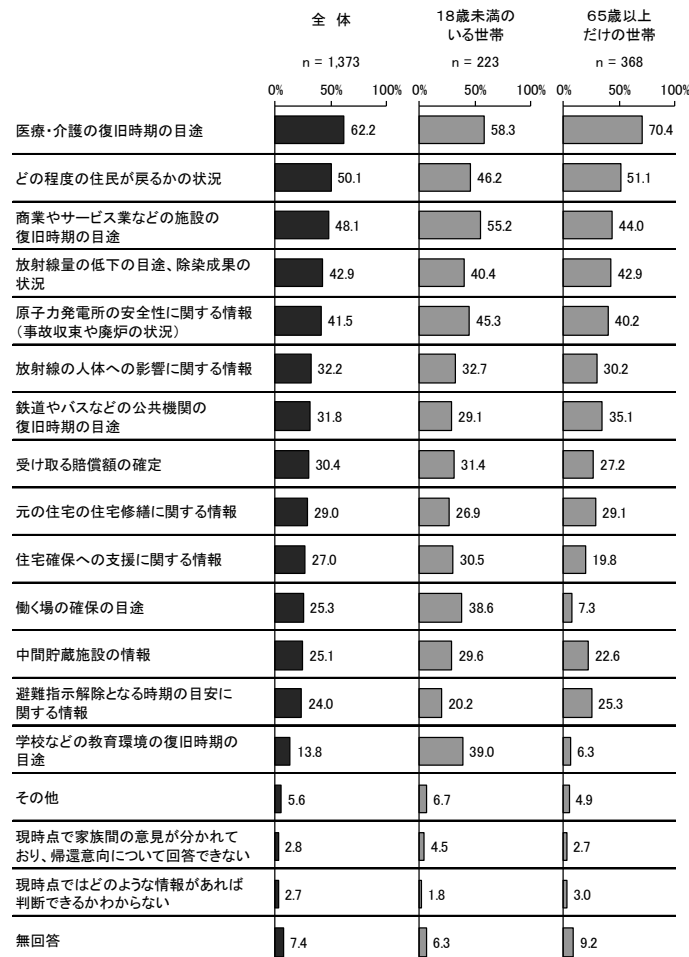
回答者の年齢別にみると、「どの程度の住民が戻るかの状況」は60代（57.3%）、「商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途」は40代（62.6%）、「働く場の確保の目途」は30代（66.2%）、40代（52.1%）、50代（38.0%）、「学校などの教育環境の復旧時期の目途」は30代（47.9%）、40代（30.1%）で高くなっている。

＜図表3－2－11－2 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）＞



世帯構成別にみると、65 歳以上だけの世帯では「医療・介護の復旧時期の目途」(70.4%)が高くなっている。一方、18 歳未満のいる世帯では「商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途」(55.2%)、「働く場所の確保の目途」(38.6%)、「学校などの教育環境の復旧時期の目途」(39.0%)が全体の割合に比べ高い。

＜図表 3-2-11-3 浪江町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）＞



3-2-12 現時点で戻らないと決めている理由

【問9で「3.戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

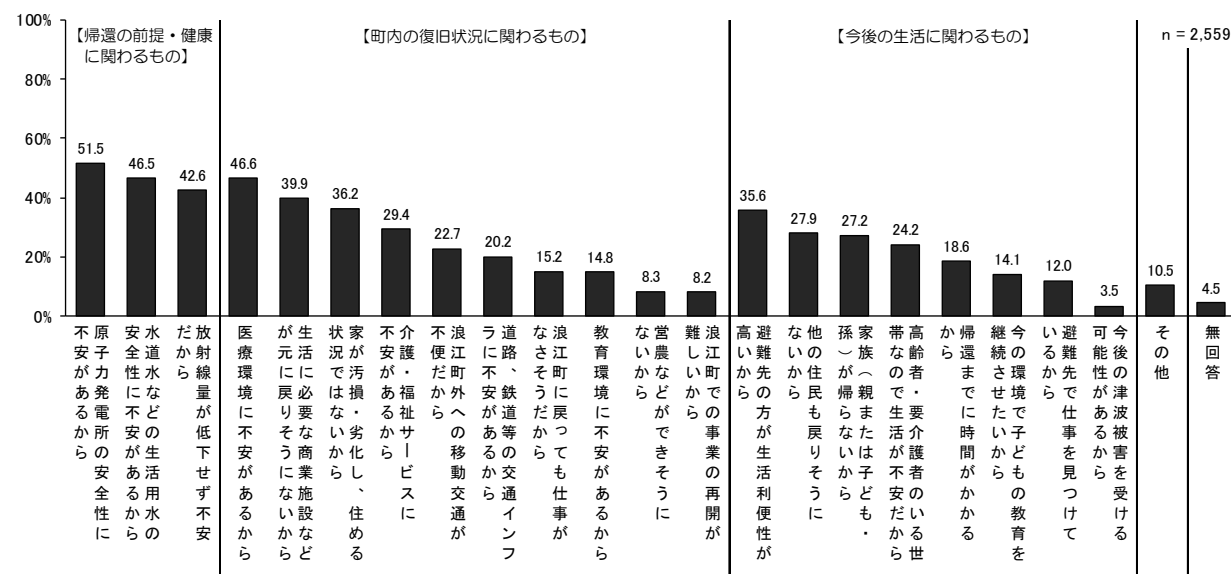
問9-11 同封資料を見て現時点で戻らないと決めている理由を教えてください。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」が51.5%と最も高く、次いで「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が46.5%、「放射線量が低下せず不安だから」が42.6%となっている。

【浪江町内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が46.6%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が39.9%、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が36.2%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活利便性が高いから」が35.6%と最も高く、次いで「他の住民も戻りそうにないから」が27.9%、「家族（親または子ども・孫）が帰らないから」が27.2%となっている。

＜図表3-2-12-1 現時点で戻らないと決めている理由＞

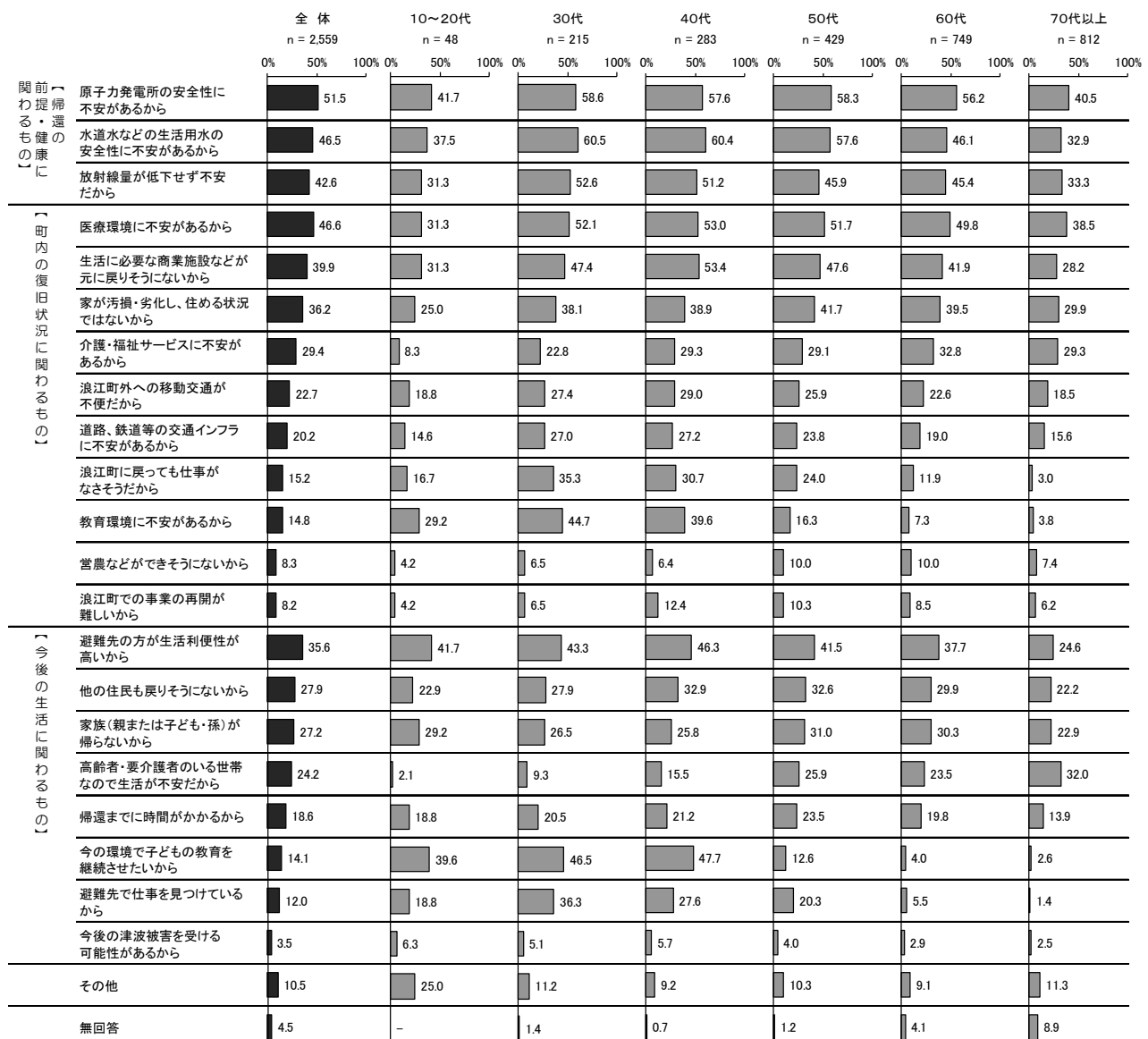


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は、30代（60.5%）、40代（60.4%）で6割を超えており、他の年齢と比べ高くなっている。

【浪江町内の復旧状況に関わるもの】では、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」は、40代（53.4%）、「浪江町に戻っても仕事になさそうだから」は、30代（35.3%）、40代（30.7%）、「教育環境に不安があるから」は10～20代（29.2%）、30代（44.7%）、40代（39.6%）で他の年齢と比べ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」は、50代（25.9%）、60代（23.5%）、70代以上（32.0%）、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、10～20代（39.6%）30代（46.5%）、40代（47.7%）、「避難先で仕事を見つけているから」は、30代（36.3%）、40代（27.6%）で他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-2-12-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>

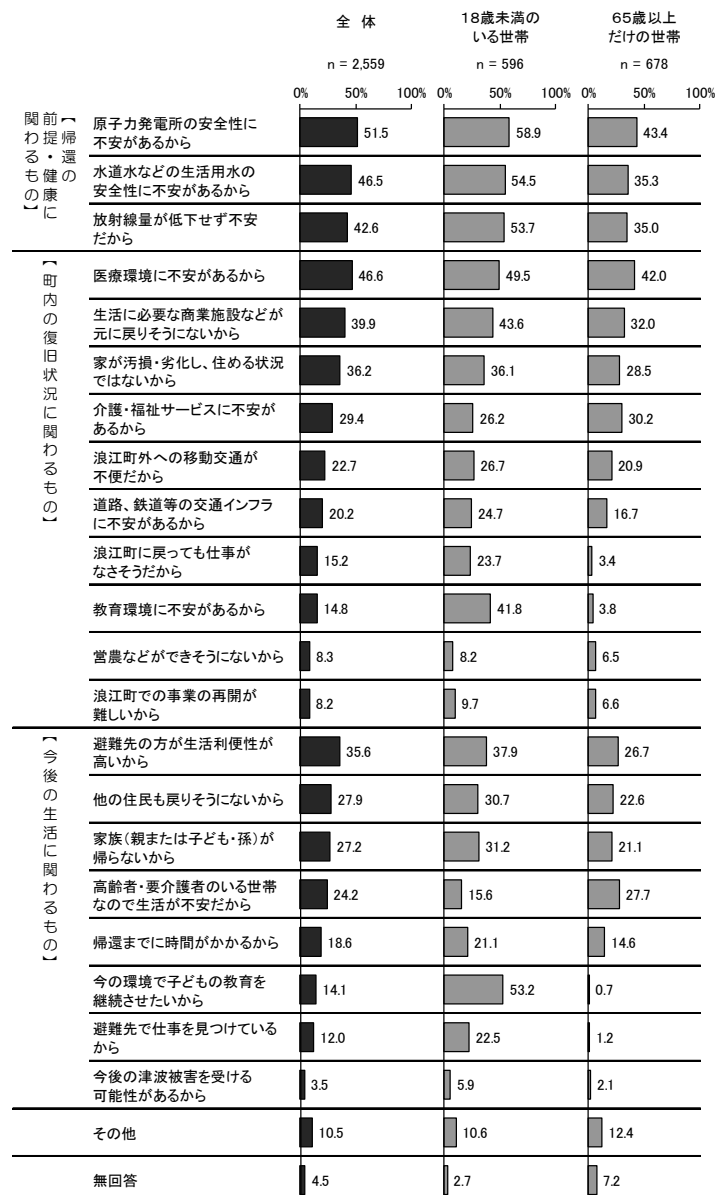


世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」について、18歳未満のいる世帯は5割以上であり、全体の割合と比べ高くなっている。

【浪江町内の復旧状況に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯で「教育環境に不安があるから」(41.8%)が、全体の割合と比べ高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯で「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(53.2%)、「避難先で仕事を見つけているから」(22.5%)が、全体の割合と比べ高くなっている。

＜図表3-2-12-3 現時点で戻らないと決めている理由（世帯構成別）＞



3-2-13 浪江町へ帰還するうえで必要な職業

(1) 職業（就業形態）

【問9-11で「4」から「6」と回答した方にうかがいます。】

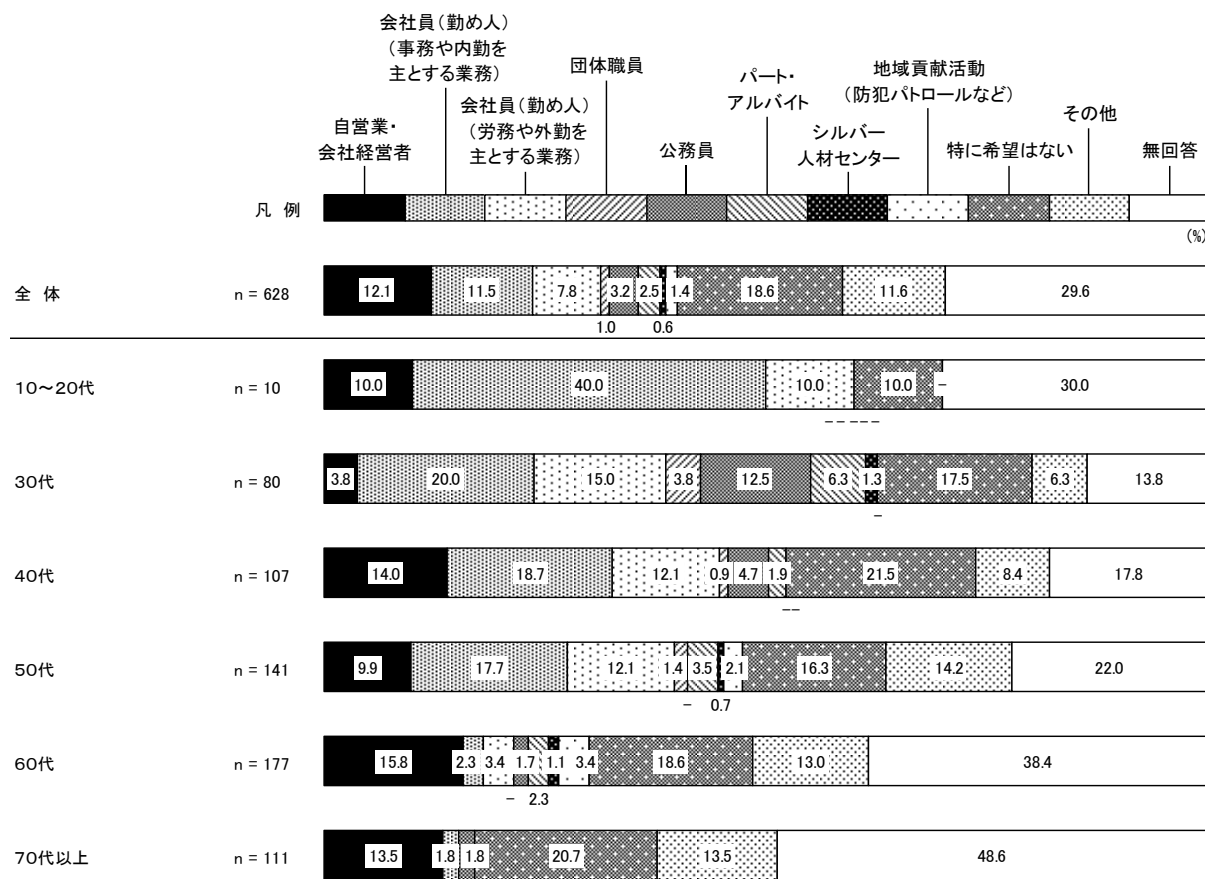
問9-12 町内でどのような職種に就くことができれば、浪江町に戻りたいと思いますか。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

浪江町へ帰還するうえで必要な職業（就業形態）については、「自営業・会社経営者」が12.1%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が11.5%、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が7.8%となっている。また、「特に希望はない」は18.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、30代では、「公務員」（12.5%）、「パート・アルバイト」（6.3%）が他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-2-13-1 浪江町へ帰還するうえで必要な職業（年齢別）>



(2) 業種

【問9-11で「4」から「6」と回答した方にうかがいます。】

問9-12 町内でどのような職種に就くことができれば、浪江町に戻りたいと思いますか。

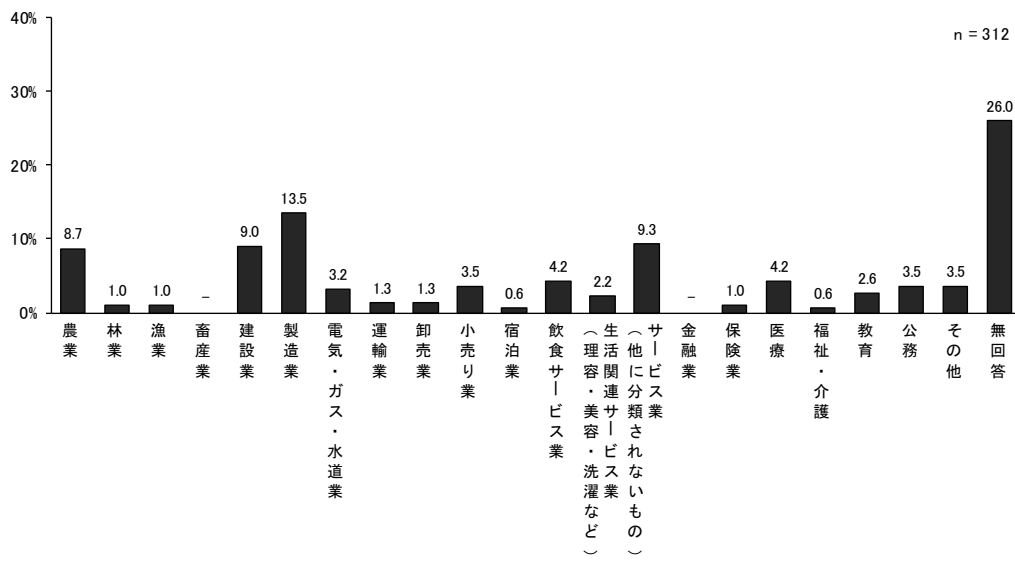
【問9-12(1)で「1」から「6」、「10」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

浪江町へ帰還するうえで必要な業種については、「製造業」が13.5%と最も高く、次いで「サービス業（他に分類されないもの）」が9.3%、「建設業」が9.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「農業」は、60代（19.1%）、70代以上（23.5%）が2割前後と高くなっている。「建設業」は、50代（12.0%）、60代（10.3%）が1割以上と高くなっている。

<図表3-2-13-2 浪江町へ帰還するうえで必要な業種>



<図表3-2-13-3 浪江町へ帰還するうえで必要な業種（年齢別）>

																						(%)
		農業	林業	漁業	畜産業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	運輸業	卸売業	小売り業	宿泊業	飲食サービス業	サービス業 （他に分類されないもの） 生活関連サービス業 （理容・美容・洗濯など）	金融業	保険業	医療	福祉・介護	教育	公務	その他	無回答
全体	n	312	8.7	1.0	1.0	-	9.0	13.5	3.2	1.3	1.3	3.5	0.6	4.2	9.3	-	1.0	4.2	0.6	2.6	3.5	26.0
10～20代	6	-	-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-	-	-	33.3
30代	54	-	-	-	-	9.3	16.7	7.4	-	-	1.9	-	3.7	1.9	9.3	-	1.9	7.4	1.9	3.7	7.4	25.9
40代	65	3.1	-	1.5	-	4.6	16.9	6.2	1.5	-	6.2	-	6.2	3.1	9.2	-	6.2	-	3.1	3.1	1.5	27.7
50代	83	3.6	1.2	1.2	-	12.0	16.9	2.4	2.4	-	3.6	2.4	1.2	2.4	9.6	-	1.2	1.2	2.4	2.4	6.0	26.5
60代	68	19.1	1.5	1.5	-	10.3	5.9	-	1.5	2.9	4.4	-	7.4	1.5	8.8	-	1.5	2.9	-	1.5	1.5	26.5
70代以上	34	23.5	2.9	-	-	8.8	8.8	-	-	5.9	-	-	-	2.9	8.8	-	-	-	2.9	5.9	8.8	20.6

3-2-14 帰還しない場合に居住を希望する自治体

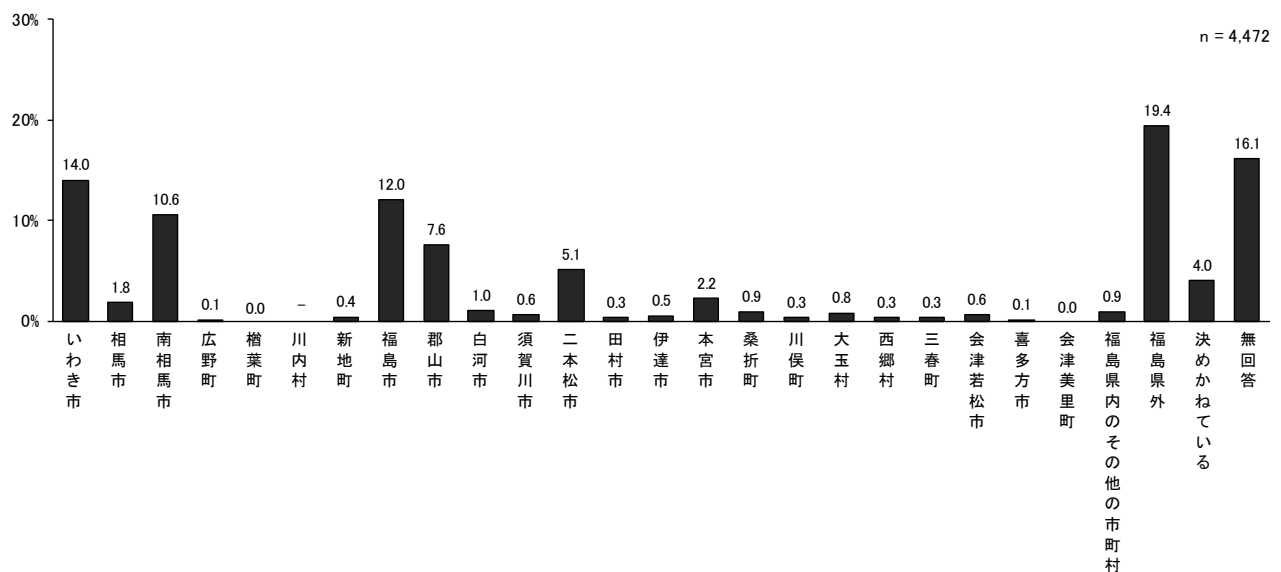
【問9で「2.まだ判断がつかない」「3.戻らないと決めている」、問9-6で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問9-13 帰還しない場合または帰還するまでの間、今後、居住を希望する市町村（現在のお住まいのままの方は現在の市町村）はどちらですか。その市町村を教えてください。（〇は1つ）

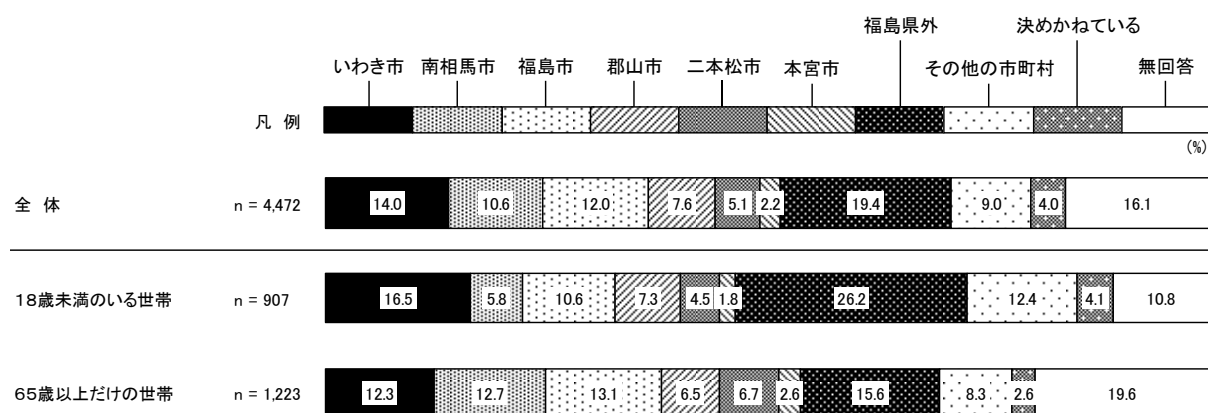
帰還しない場合に居住したい自治体については、「福島県外」が19.4%と最も高く、次いで「いわき市」が14.0%、「福島市」が12.0%となっている。

世帯構成別にみると、「福島県外」は18歳未満のいる世帯で26.2%と、全体の割合と比べ高くなっている。

＜図表3-2-14-1 帰還しない場合に居住を希望する自治体＞

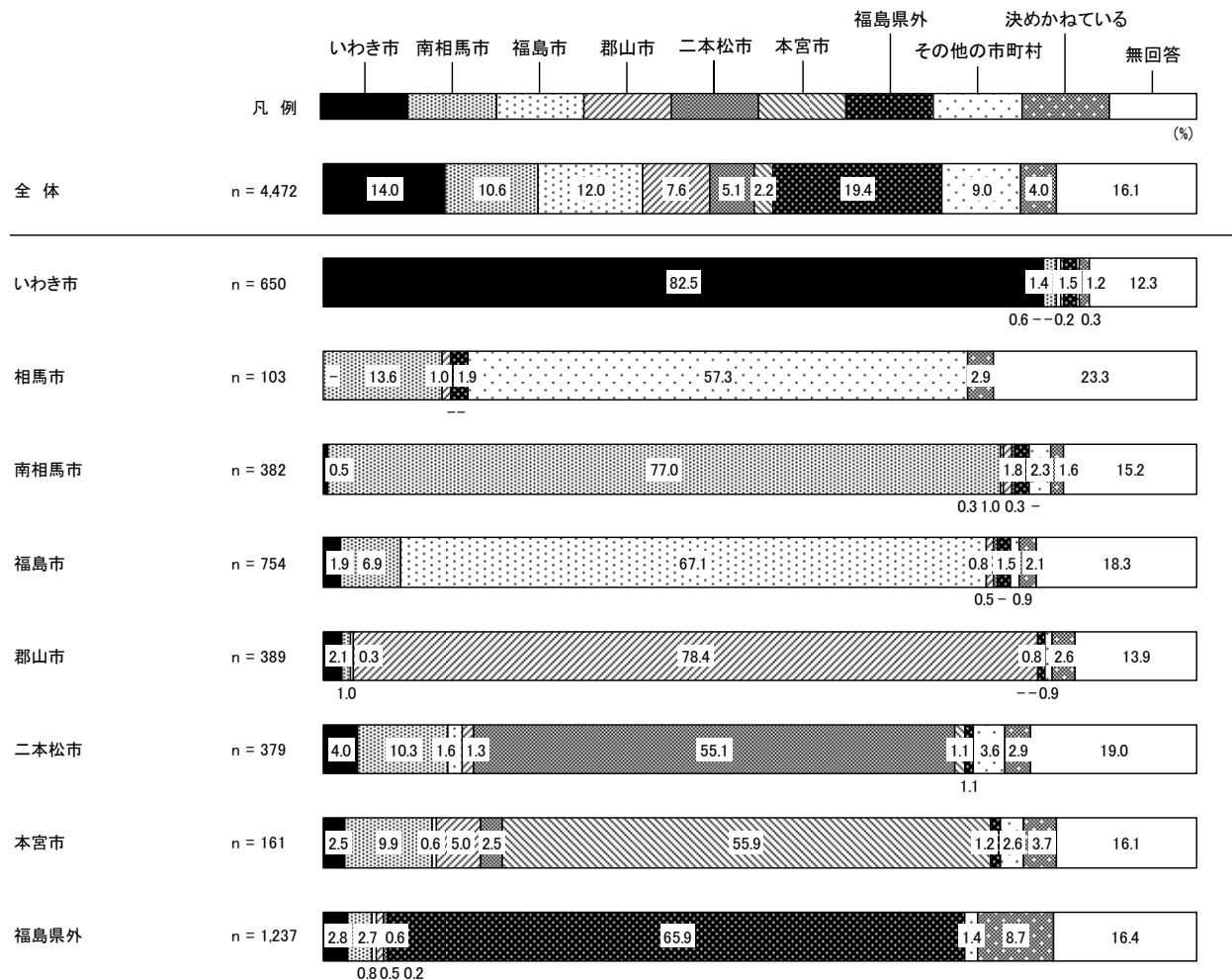


＜図表3-2-14-2 帰還しない場合に居住を希望する自治体（世帯構成別）＞



現在の主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体も避難先での居住を希望する割合が最も高いが、いわき市に避難している世帯の82.5%が同じ「いわき市」、南相馬市に避難している世帯の77.0%が同じ「南相馬市」、郡山市に避難している世帯の78.4%が同じ「郡山市」での居住を希望しており、他の避難先自治体と比べ、避難先自治体に継続して居住を希望する割合が高い。

＜図表3-2-14-3 帰還しない場合に居住を希望する自治体（主な避難先自治体別）＞



3-2-15 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

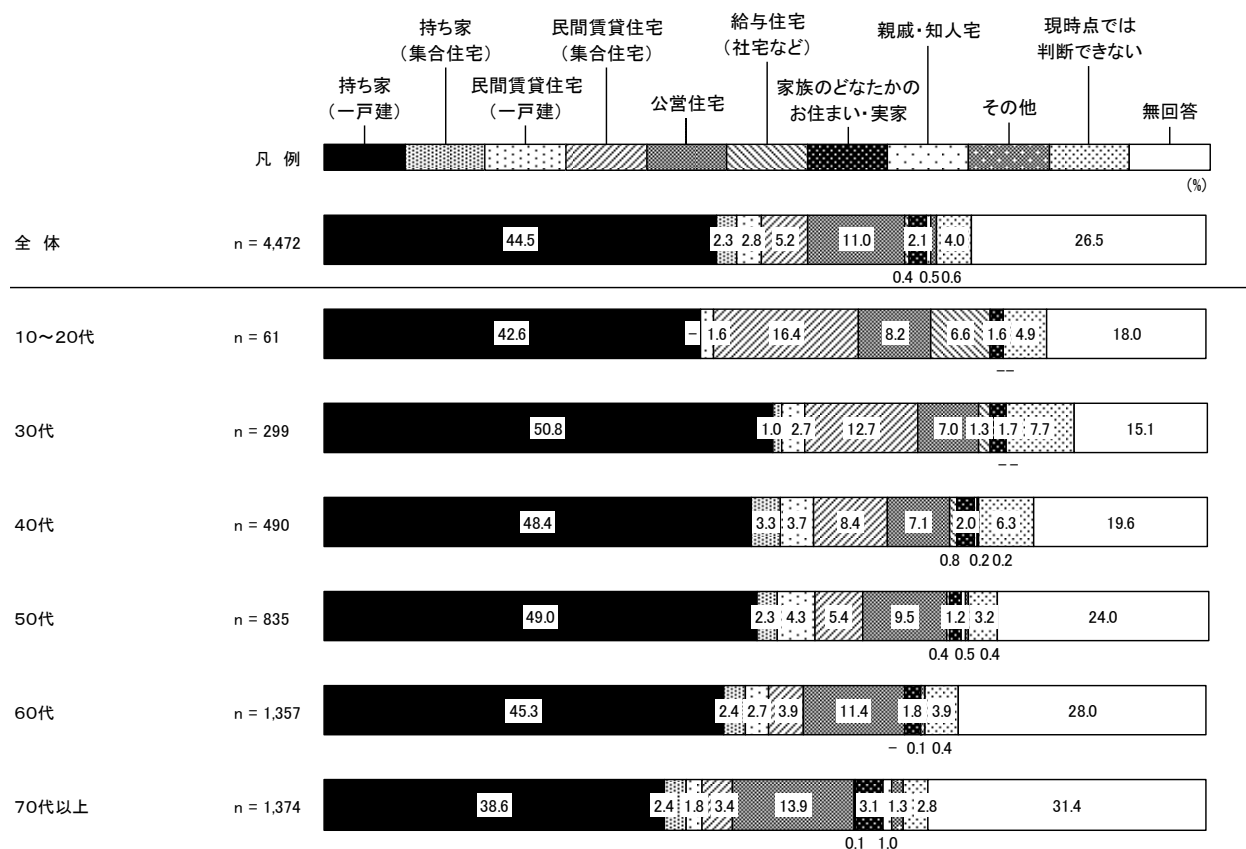
【問9で「2.まだ判断がつかない」「3.戻らないと決めている」、問9-6で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問9-14 帰還しない場合または帰還するまでの間、今後のお住まいとして、希望する（既に居住している場合を含む）住宅はどのような形態ですか。（〇は1つ）

浪江町へ帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が44.5%と最も高く、次いで「公営住宅」が11.0%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が5.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「民間賃貸住宅（集合住宅）」は若年層で高く、10～20代が16.4%、30代が12.7%となっている。一方、「公営住宅」は高齢層で高く、60代が11.4%、70代以上が13.9%となっている。

＜図表3-2-15-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）＞



3-2-16 帰還しない場合に必要な支援

(1) 浪江町との関係

【問9で「2.まだ判断がつかない」「3.戻らないと決めている」、問9-6で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

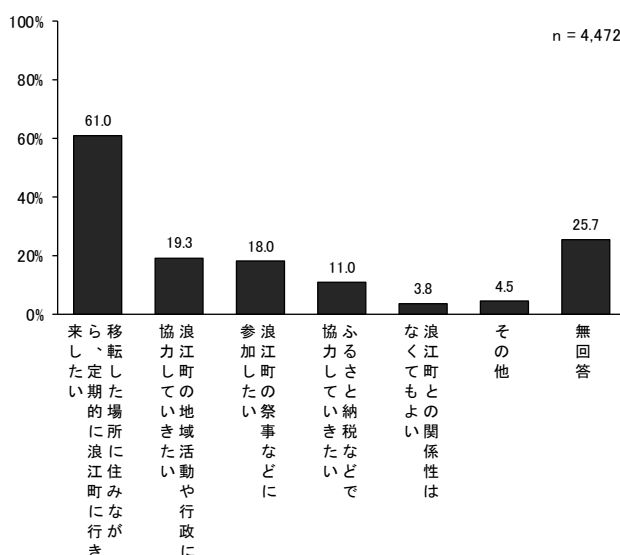
問9-15 帰還しない場合または帰還するまでの間、浪江町との関係や必要な支援について教えてください。

(1) 浪江町との関係（〇はいくつでも）

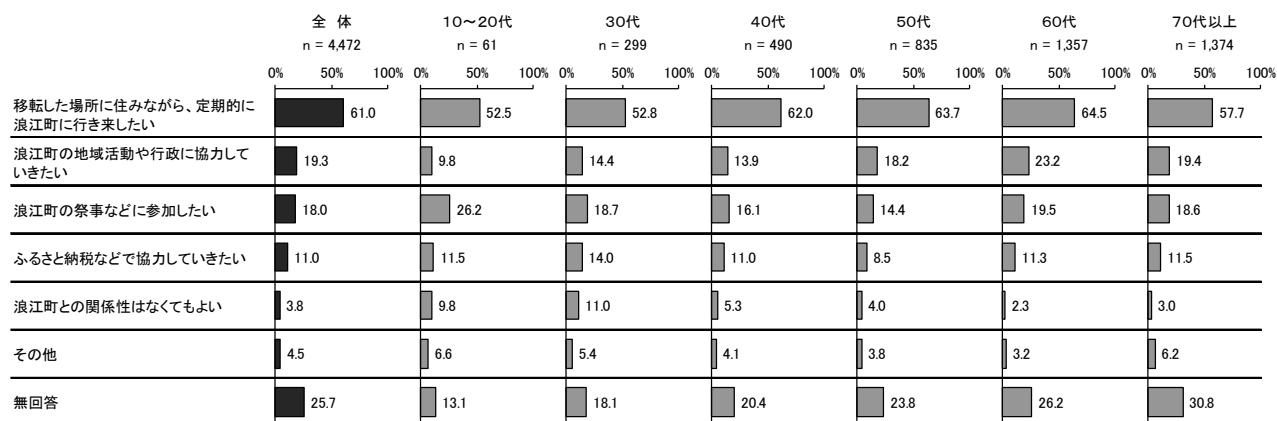
帰還しない場合の浪江町との関係については、「移転した場所に住みながら、定期的に浪江町に行き来したい」が61.0%と最も高く、次いで「浪江町の地域活動や行政に協力していきたい」が19.3%、「浪江町の祭事などに参加したい」が18.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「移転した場所に住みながら、定期的に浪江町に行き来したい」は、すべての年齢で高くなっている。「浪江町の祭事などに参加したい」は、10～20代が26.2%と、他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-2-16-1 浪江町との関係＞



＜図表3-2-16-2 浪江町との関係（年齢別）＞



(2) 必要な支援

【問9で「2.まだ判断がつかない」「3.戻らないと決めている」、問9-6で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

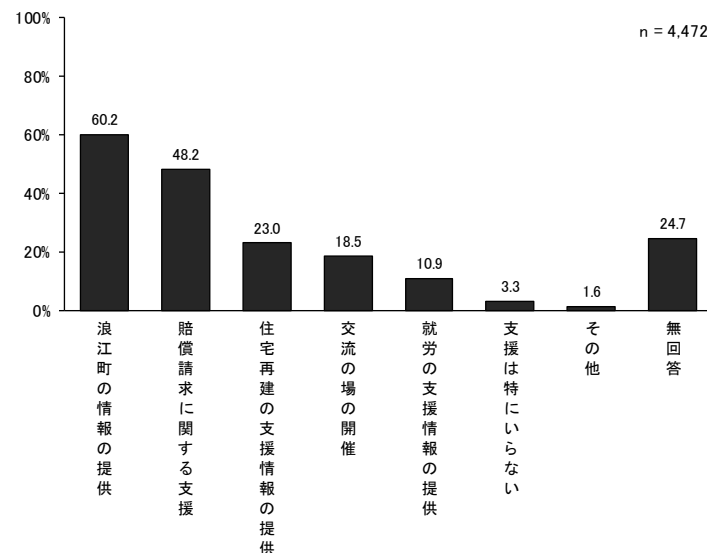
問9-15 帰還しない場合または帰還するまでの間、浪江町との関係や必要な支援について教えてください。

(1) 必要な支援 (〇はいくつでも)

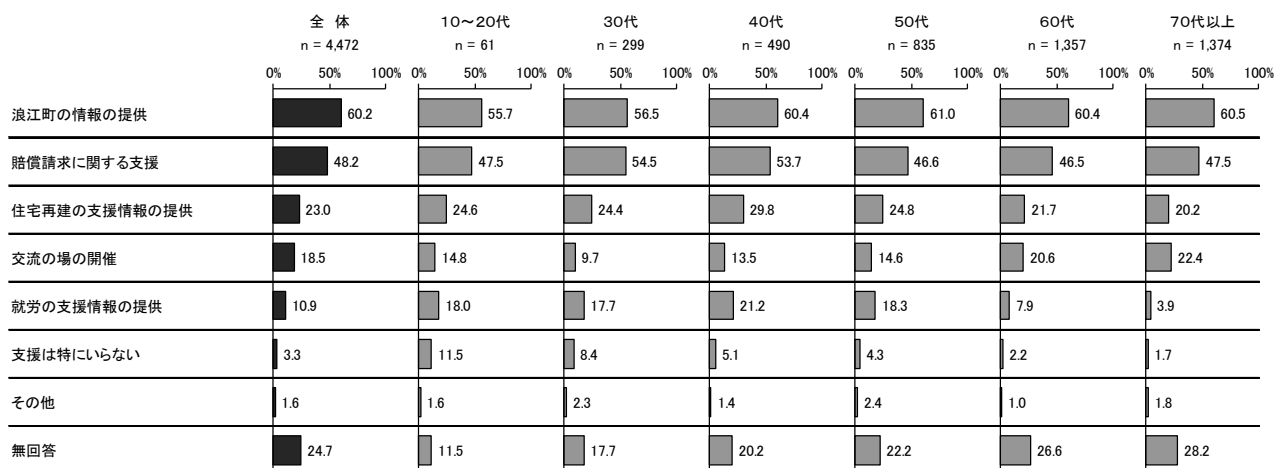
帰還しない場合に必要な支援については、「浪江町の情報の提供」が60.2%と最も高く、次いで「賠償請求に関する支援」が48.2%、「住宅再建の支援情報の提供」が23.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「賠償請求に関する支援」は、30代(54.5%)、40代(53.7%)で5割を超え高くなっている。「交流の場の開催」は、60代(20.6%)、70代以上(22.4%)で2割以上となっている。

<図表3-2-16-3 必要な支援>



<図表3-2-16-4 必要な支援(年齢別)>



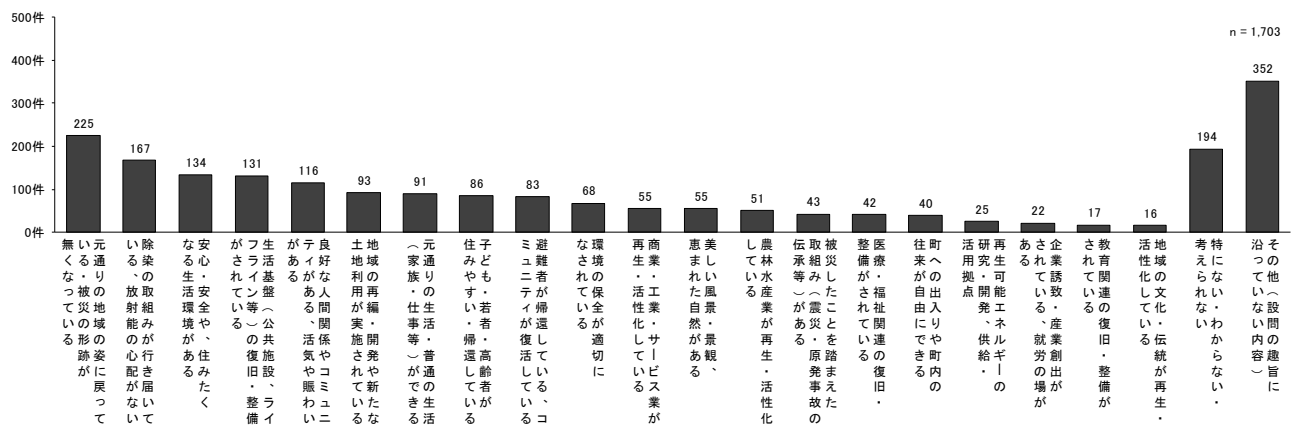
3-2-17 震災発生当時の居住地域に望む将来の姿

問9-16 震災前に浪江町でお住まいだった地区について、将来、望む姿について教えてください。
(自由記載)

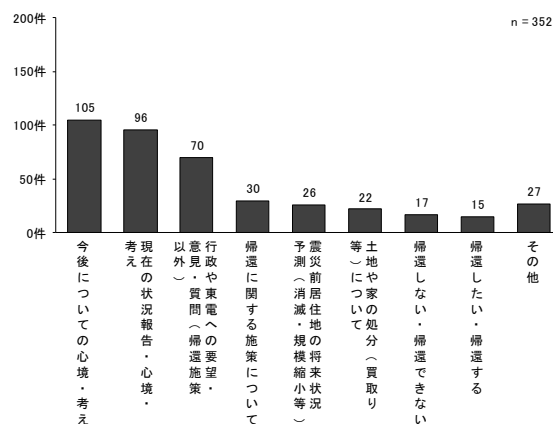
震災発生当時の居住地域に望む将来の姿について、1,703 世帯から回答があり、分類の結果、「元通りの地域の姿に戻っている・被災の形跡が無くなっている」が 225 件と最も多く、次いで「除染の取組みが行き届いている、放射能の心配がない」が 167 件、「安心・安全や、住みたくなる生活環境がある」が 134 件などとなっている。

なお、分類の結果、設問の趣旨に沿っていない内容である「その他」が 352 件と多くなったため、「その他」の内容を再分類した。「今後についての心境・考え」が 105 件と最も多く、次いで「現在の状況報告・心境・考え」が 96 件、「行政や東電への要望・意見・質問（帰還施策以外）」が 70 件などとなっている。

＜図表 3-2-17-1 震災発生当時の居住地域に望む将来の姿の分類結果＞



＜図表 3-2-17-2 震災発生当時の居住地域に望む将来の姿の分類結果（その他の再分類）＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔元通りの地域の姿に戻っている・被災の形跡が無くなっている〕

- 震災前と同じ状態に戻ってほしい。(10～20代)
- 破損した家を街並みから早くなくして、解体してほしい。復興がまだ続いているような気持ちになる。更地の方がまだ良いと思う。(60代)
- 元の姿には戻れないと思うが、それに近いような「形」にしてほしい。(70代以上)

〔除染の取組みが行き届いている、放射能の心配がない〕

- 全てを除染して震災前の放射線レベルに戻してほしい。(30代)
- 放射量、飲み水等の心配が全く心配のない町。(50代)
- 山や水田、畑等すべての除染を済ませ山菜やキノコが自由に食べられる事を願う。(70代以上)

〔安心・安全や、住みたくなる生活環境がある〕

- 元の浪江町の様に住みやすく、更に利便性が良くなれば良いと思う。(30代)
- きちんと整備された安全な地区になってほしい。(40代)
- 人口が2割程度になったとしても、便利で環境が良く、誰もが幸せそうに暮している町であってほしい。新しい日本のモデルの町を目指してほしい。(70代以上)

3-3 情報の入手とコミュニケーション

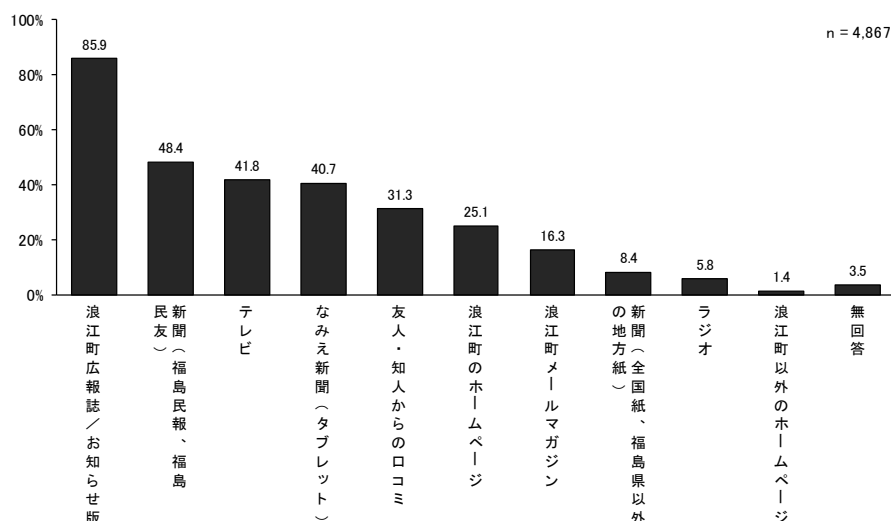
3-3-1 浪江町に関する情報の入手経路

問 10-1 普段、浪江町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(〇はいくつでも)

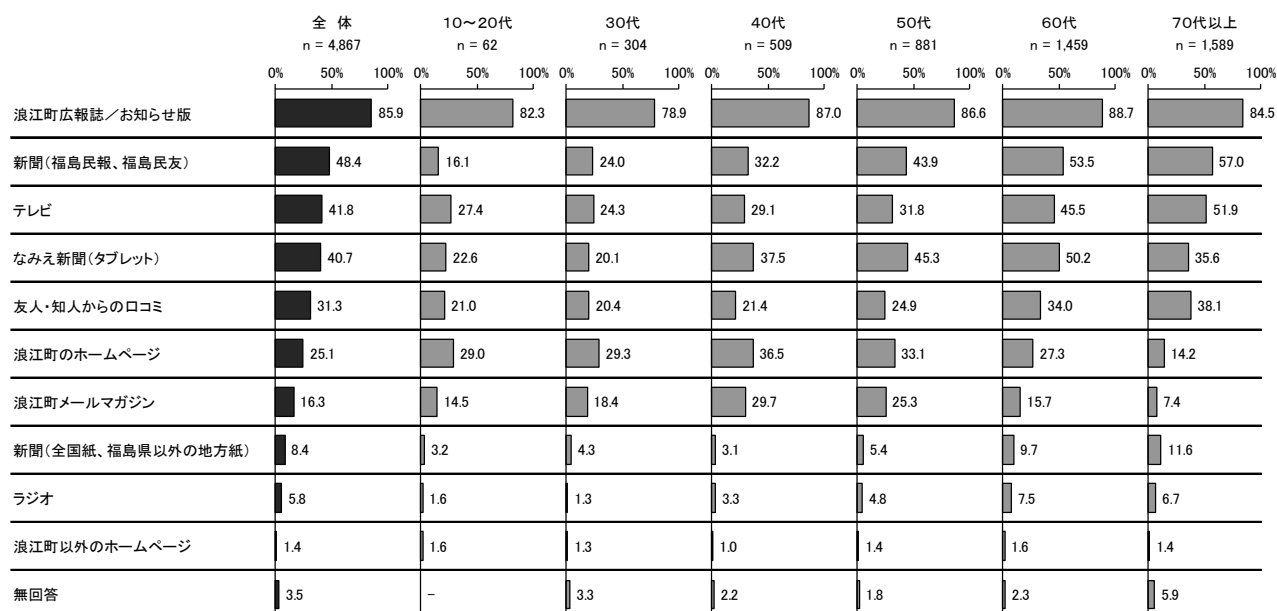
浪江町に関する情報の入手経路については、「浪江町広報誌/お知らせ版」が85.9%と最も高く、次いで「新聞（福島民報、福島民友）」が48.4%、「テレビ」が41.8%となっている。

回答者の年齢別にみても、「浪江町広報誌/お知らせ版」はすべての年齢で最も高くなっている。「新聞（福島民報、福島民友）」は60代（53.5%）、70代以上（57.0%）において過半数を占めている。また、「テレビ」は70代以上（51.9%）、「なみえ新聞（タブレット）」は60代（50.2%）が過半数と、他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-3-1-1 浪江町に関する情報の入手経路＞

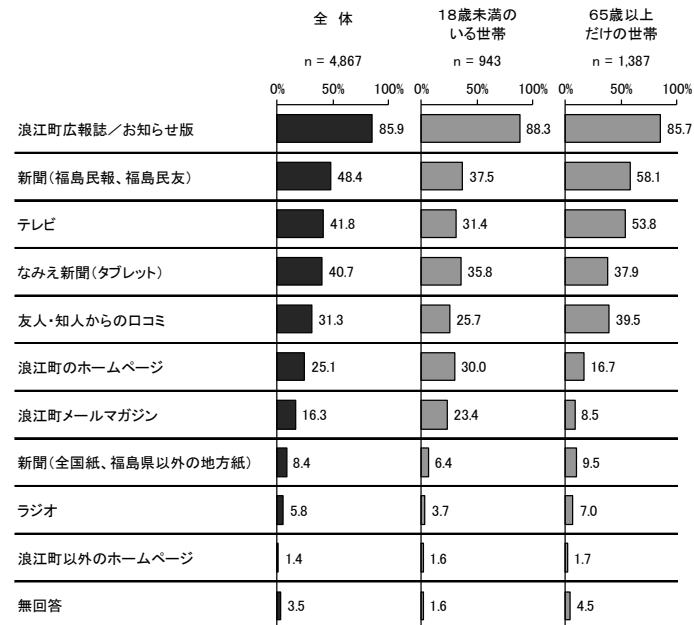


＜図表3-3-1-2 浪江町に関する情報の入手経路（年齢別）＞



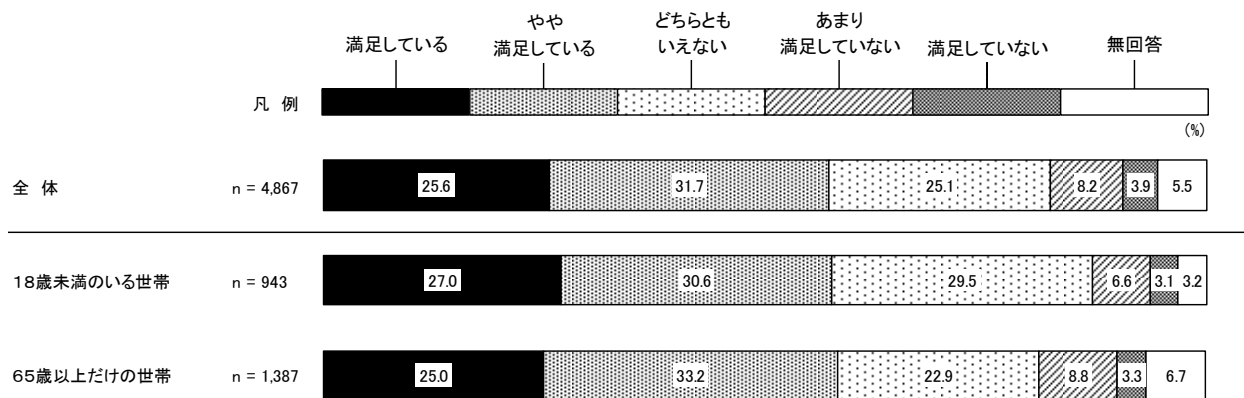
世帯構成別にみると、65 歳以上だけの世帯では「新聞(福島民報、福島民友)」(58.1%)、「テレビ」(53.8%)、「友人・知人からの口コミ」(39.5%) が全体の割合に比べ高くなっている。一方、18 歳未満のいる世帯では、「浪江町のホームページ」(30.0%)、「浪江町メールマガジン」(23.4%) が全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表 3-3-1-3 浪江町に関する情報の入手経路（世帯構成別）＞



世帯構成別にみると、世帯構成による特徴的な違いはあまり見られない。

<図表3-3-2-2 浪江町役場からの情報提供への満足度（世帯構成別）>



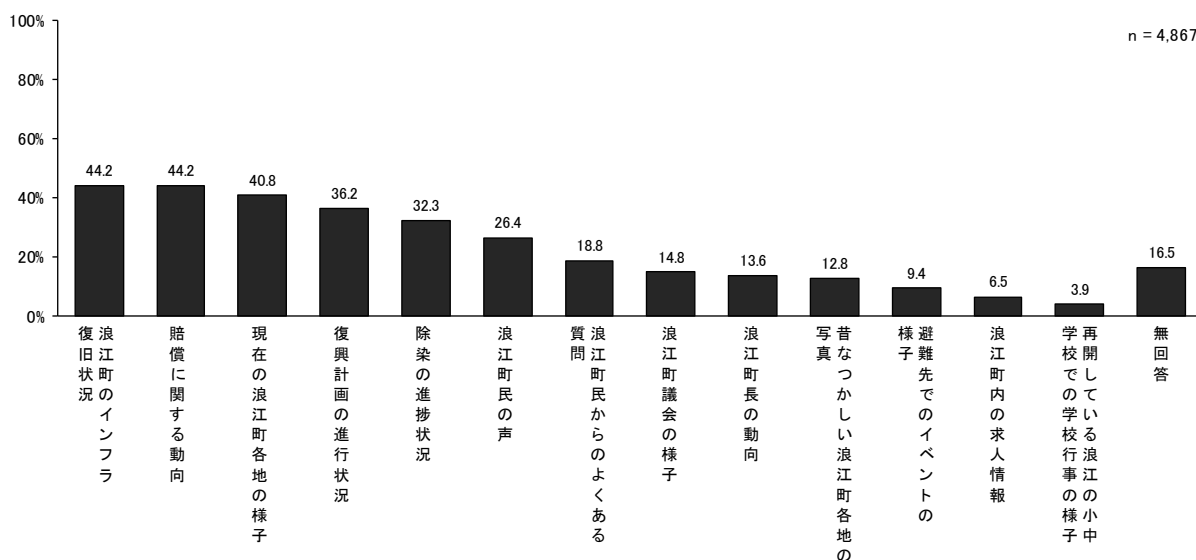
3-3-3 浪江町役場から提供してほしい情報

問 10-3 ホームページ、広報誌、タブレットを介して、浪江町役場から提供してほしい情報はありますか。
(〇はいくつでも)

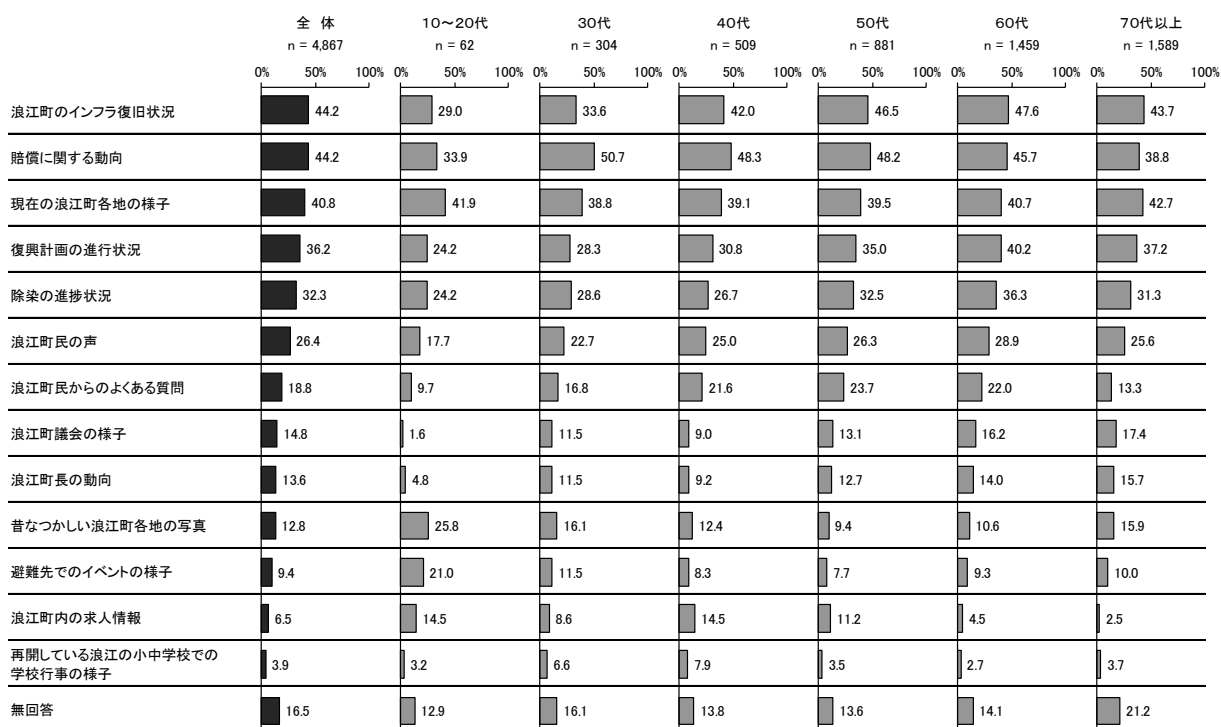
浪江町役場から提供してほしい情報については、「浪江町のインフラ復旧状況」、「賠償に関する動向」が44.2%と最も高く、次いで「現在の浪江町各地の様子」が40.8%、「復興計画の進捗状況」が36.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「賠償に関する動向」は30代で50.7%と5割以上を占めている。

＜図表3-3-3-1 浪江町役場から提供してほしい情報＞

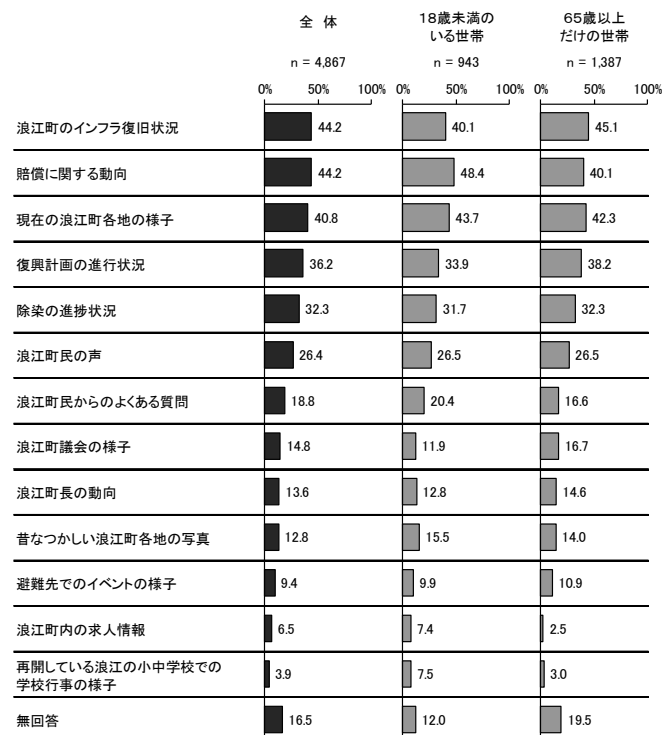


＜図表3-3-3-2 浪江町役場から提供してほしい情報（年齢別）＞



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「賠償に関する動向」が48.4%と全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表3-3-3-3 浪江町役場から提供してほしい情報（世帯構成別）＞



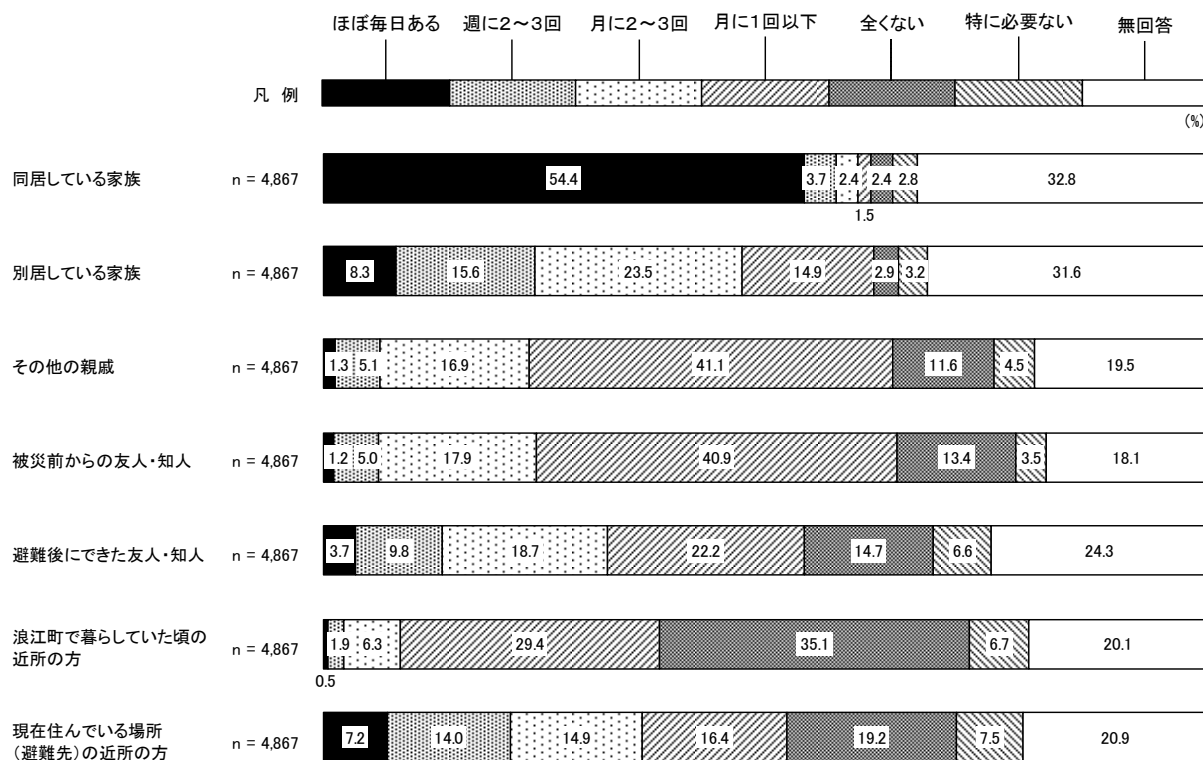
3-3-4 連絡を取り合う頻度

問 10-4 普段、以下にあげた方々（「1」～「7」）と、どの程度、連絡を取っていますか。
（それぞれ〇は1つ）

① 連絡を取り合う頻度

連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 54.4%と過半数となっているが、それ以外の方では 1 割未満と低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では現在住んでいる場所（避難先）の近所の方が 21.2%と高くなっている。また、「全くない」については、浪江町で暮らしていた頃の近所の方が 35.1%、現在住んでいる場所（避難先）の近所の方が 19.2%と他の方に比べ高くなっている。

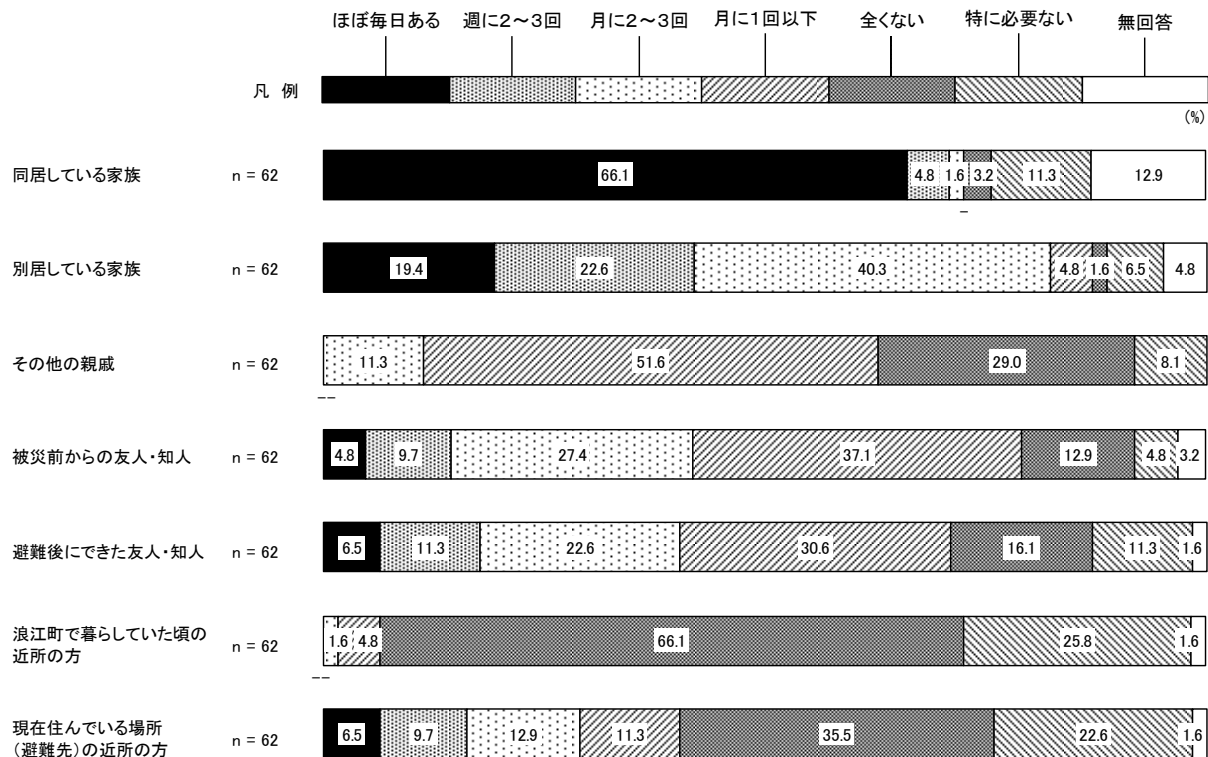
<図表 3-3-4-1 連絡を取り合う頻度>



② 連絡を取り合う頻度：回答者の年齢別

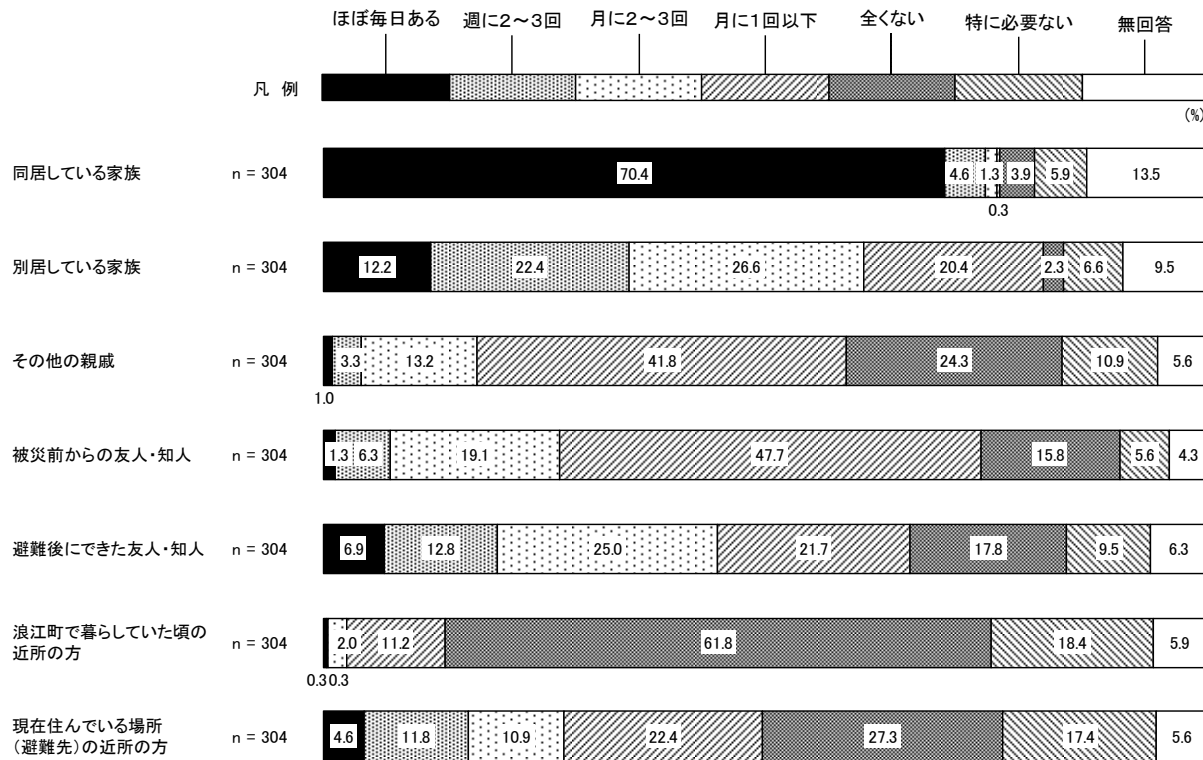
10～20代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で66.1%を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「避難後にできた友人・知人」が17.8%と高くなっている。

<図表3-3-4-2 連絡を取り合う頻度（10～20代）>



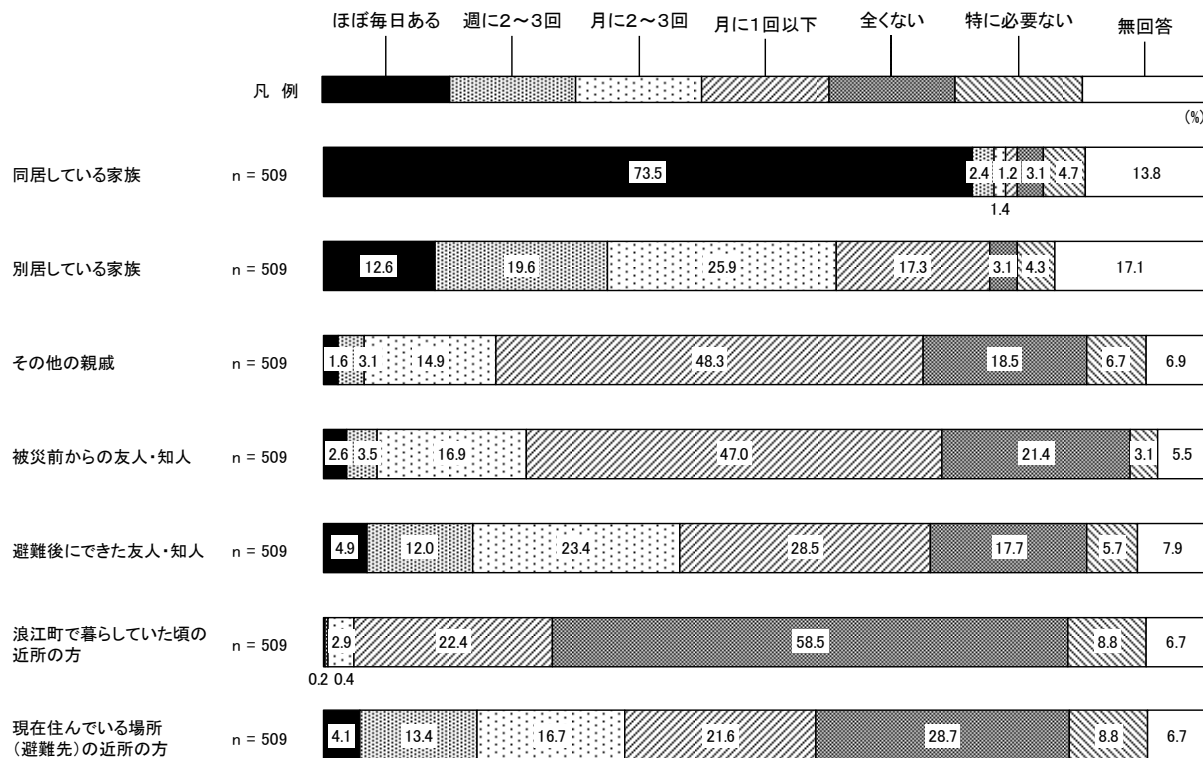
30代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で70.4%と7割以上を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「避難後にできた友人・知人」が19.7%、「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が16.4%と高くなっている。

＜図表3-3-4-3 連絡を取り合う頻度（30代）＞



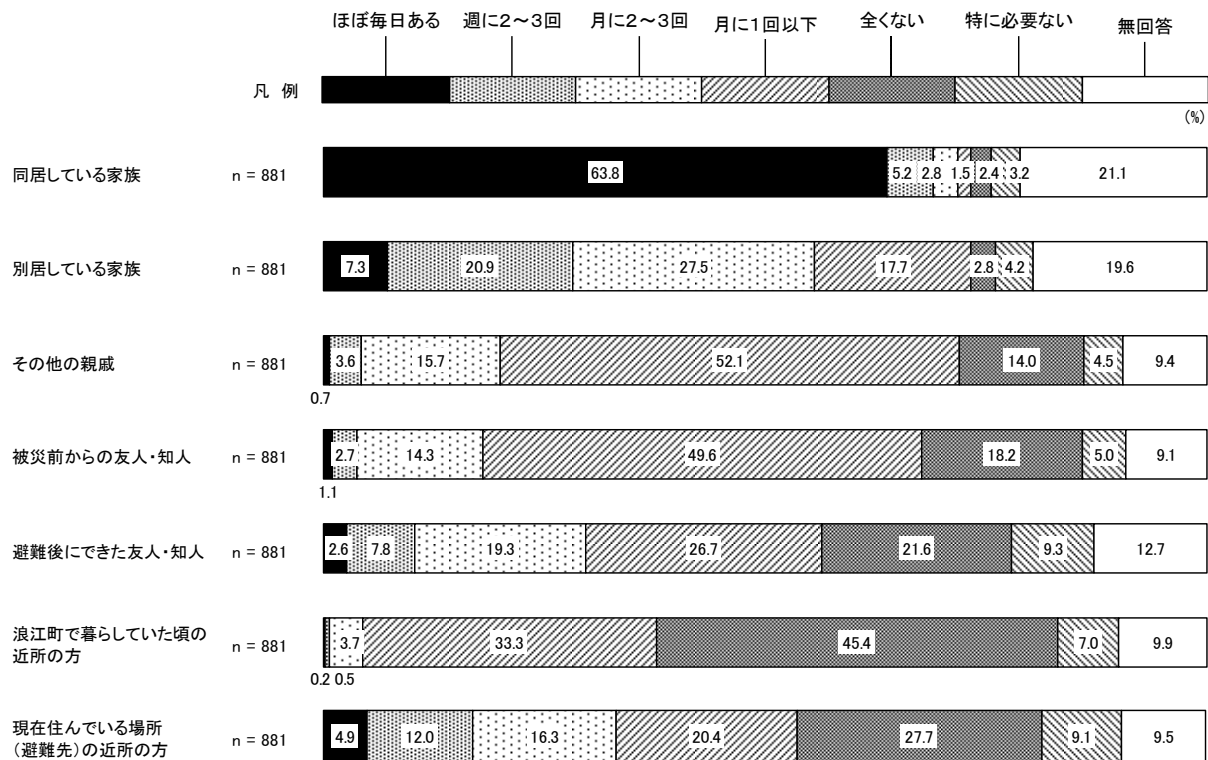
40代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で73.5%と7割以上を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が17.5%、「避難後にできた友人・知人」が16.9%と高くなっている。

＜図表3-3-4-4 連絡を取り合う頻度（40代）＞



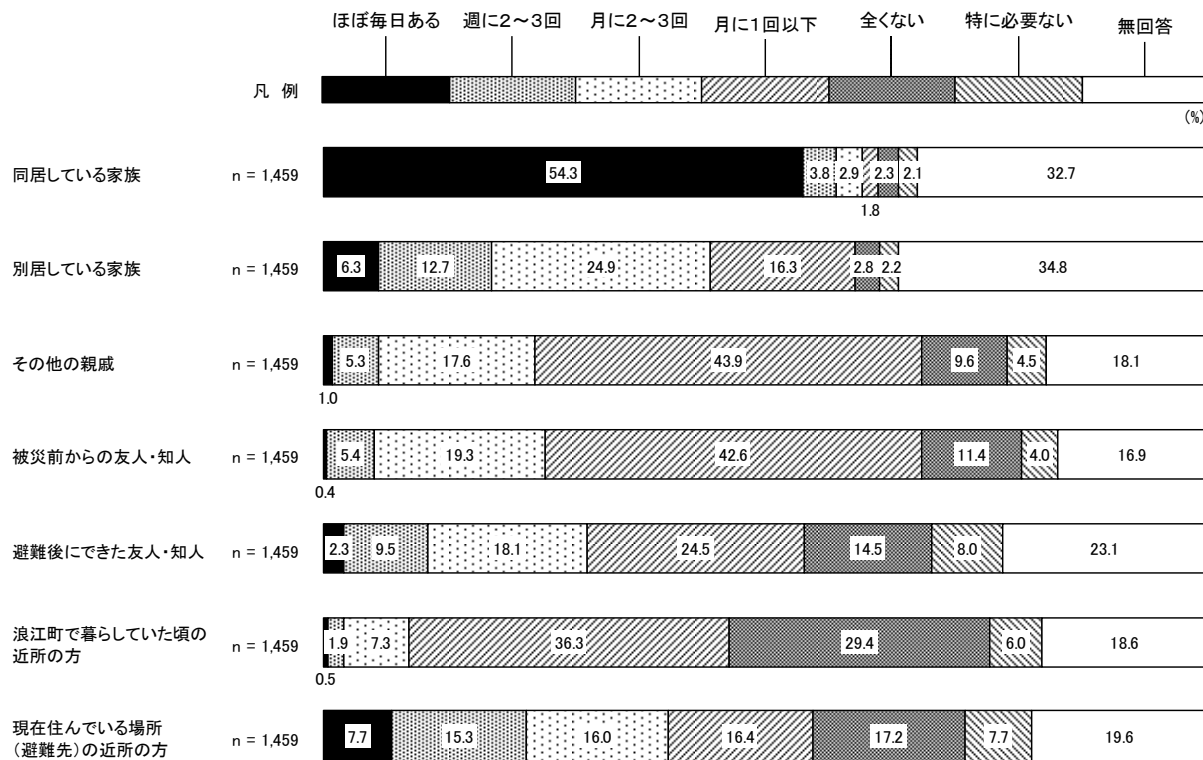
50代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で63.8%と6割以上を占めるが、それ以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が16.9%、「避難後にできた友人・知人」が10.4%と高くなっている。

＜図表3-3-4-5 連絡を取り合う頻度（50代）＞



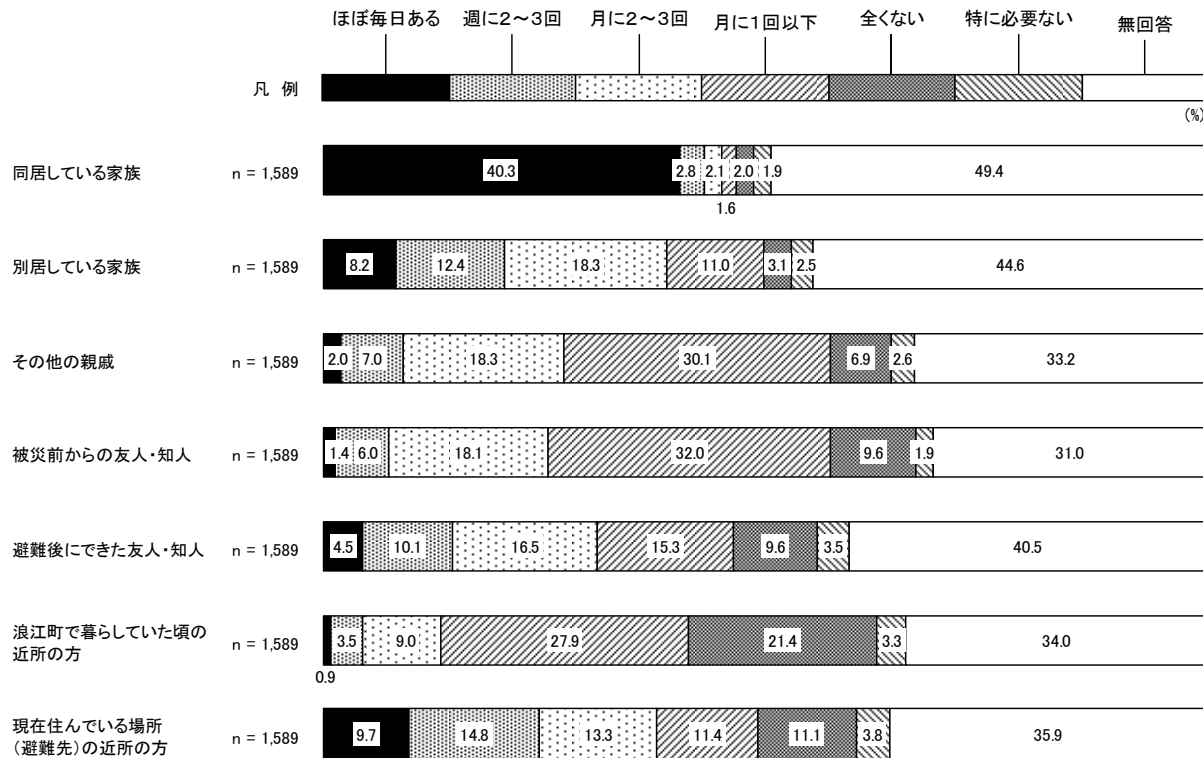
60代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で54.3%と最も高いが、他の年齢に比べ割合が低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が23.0%、「避難後にできた友人・知人」が11.8%と高くなっている。

<図表3-3-4-6 連絡を取り合う頻度（60代）>



70 代以上の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 40.3%と最も高いが、他の年齢に比べ割合が低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 24.5%、「避難後にできた友人・知人」が 14.6%と高くなっている。

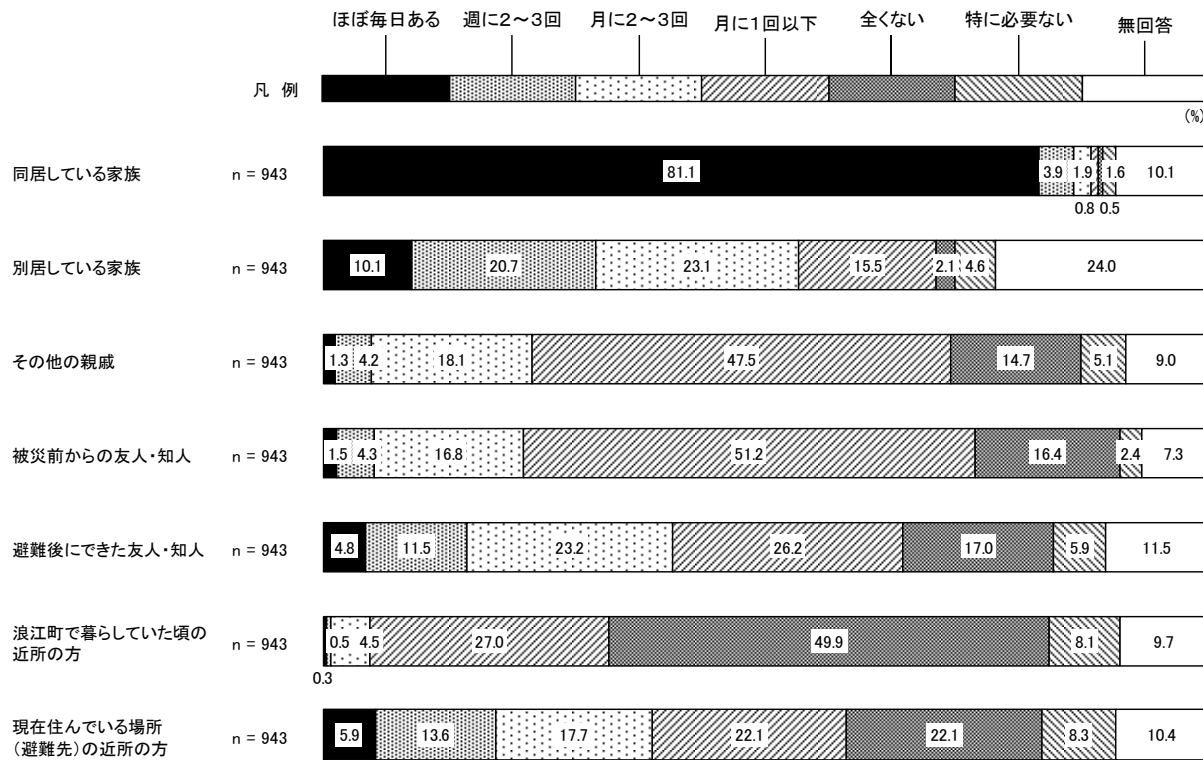
＜図表 3－3－4－7 連絡を取り合う頻度（70 代以上）＞



③ 連絡を取り合う頻度：世帯構成別

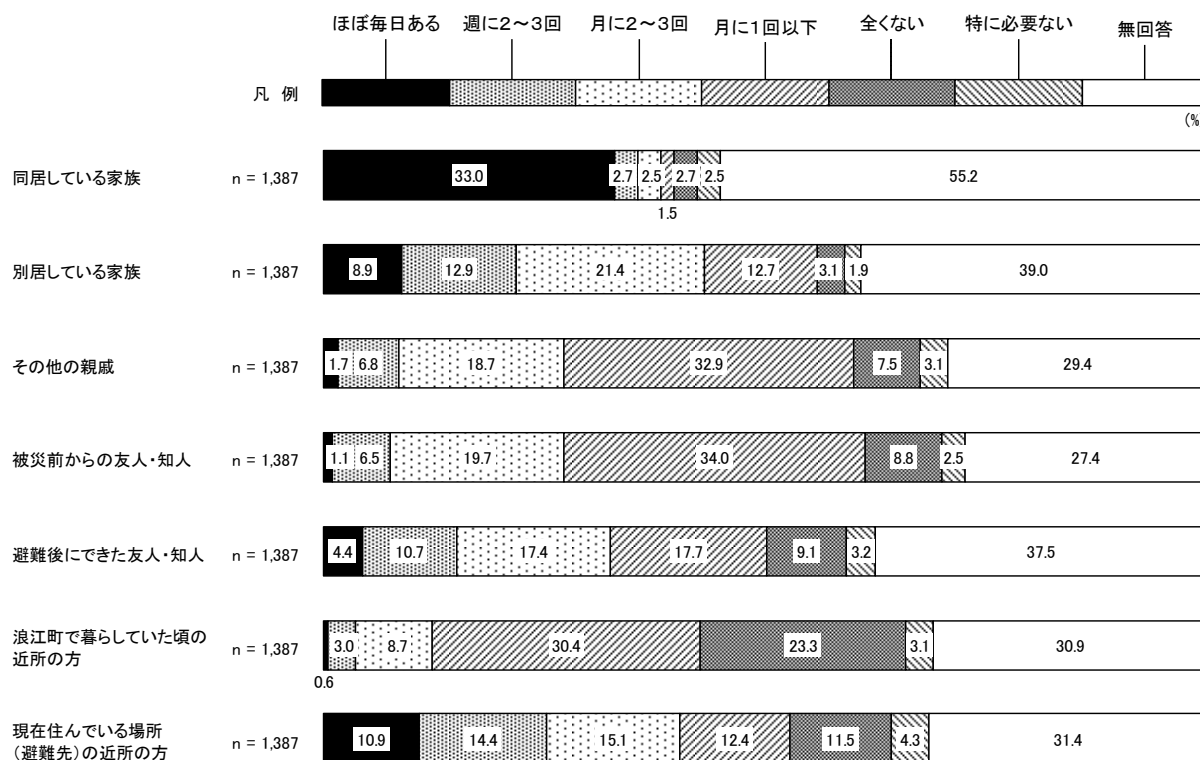
18 歳未満のいる世帯の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 81.1% と 8 割以上を占める。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 19.5%、「避難後にできた友人・知人」が 16.3%と高くなっている。

＜図表 3-3-4-8 連絡を取り合う頻度（18 歳未満のいる世帯）＞



65 歳以上だけの世帯の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 33.0% と 3 割強を占めているが、18 歳未満のいる世帯に比べ低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 25.3%、「避難後にできた友人・知人」が 15.1%と高くなっている。

<図表 3-3-4-9 連絡を取り合う頻度（65 歳以上だけの世帯）>



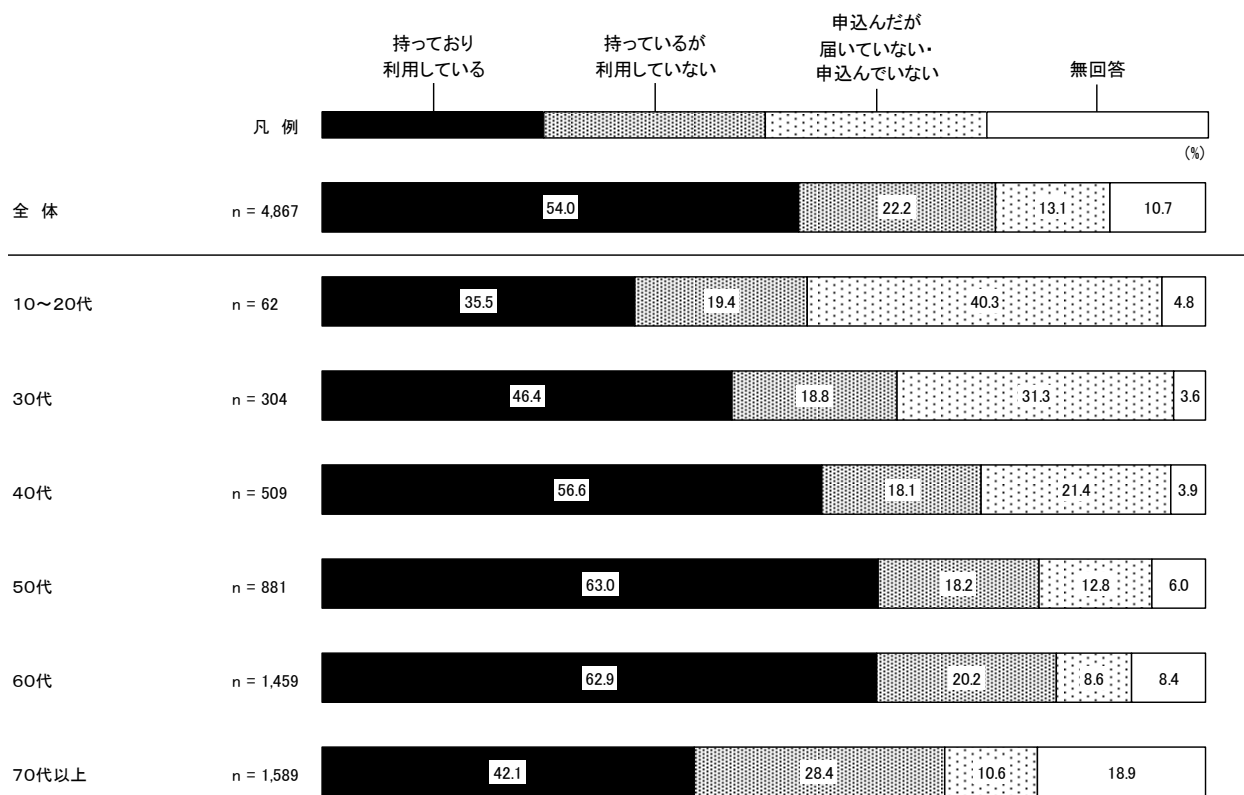
3-3-5 浪江町が貸与しているタブレットの利用状況

問 10-5 浪江町が貸与している「タブレット」は利用していますか。(〇は1つ)

浪江町が貸与しているタブレットの利用状況については、「持っており利用している」が54.0%と最も高く、次いで「持っているが利用していない」が22.2%、「申込んだが届いていない・申込んでいない」が13.1%となっている。

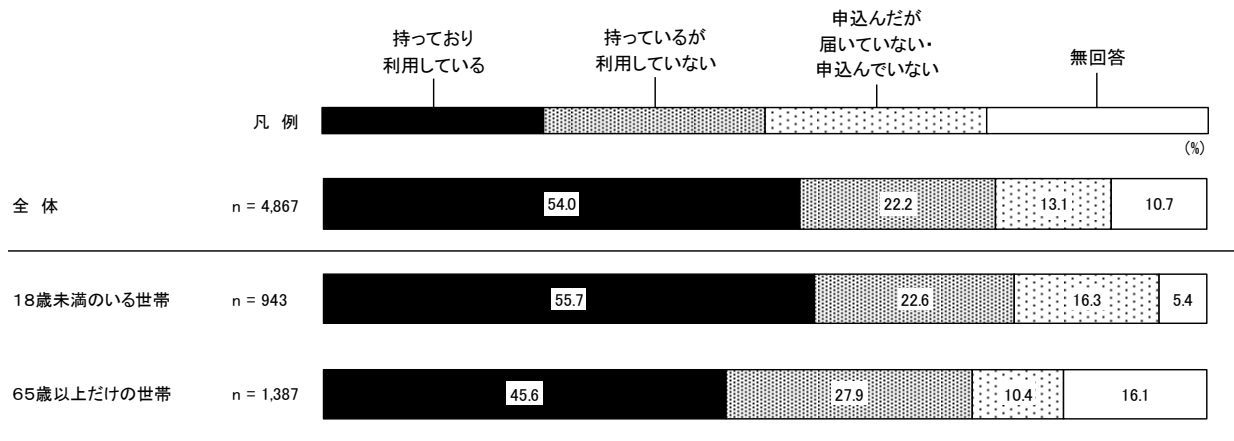
回答者の年齢別にみると、「持っており利用している」は50代で63.0%、60代で62.9%と6割以上を占める。一方、「申込んだが届いていない・申込んでいない」は10～20代が40.3%、30代が31.3%と、他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-3-5-1 浪江町が貸与しているタブレットの利用状況（年齢別）＞



世帯構成別にみると、18 歳未満のいる世帯は「持っており利用している」（55.7%）、「申込んだが届いていない・申込んでいない」（16.3%）が、全体の割合に比べ高くなっている。一方、65 歳以上だけの世帯では「持っているが利用していない」（27.9%）の割合が高い。

＜図表 3－3－5－2 浪江町が貸与しているタブレットの利用状況（世帯構成別）＞



3-3-6 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果

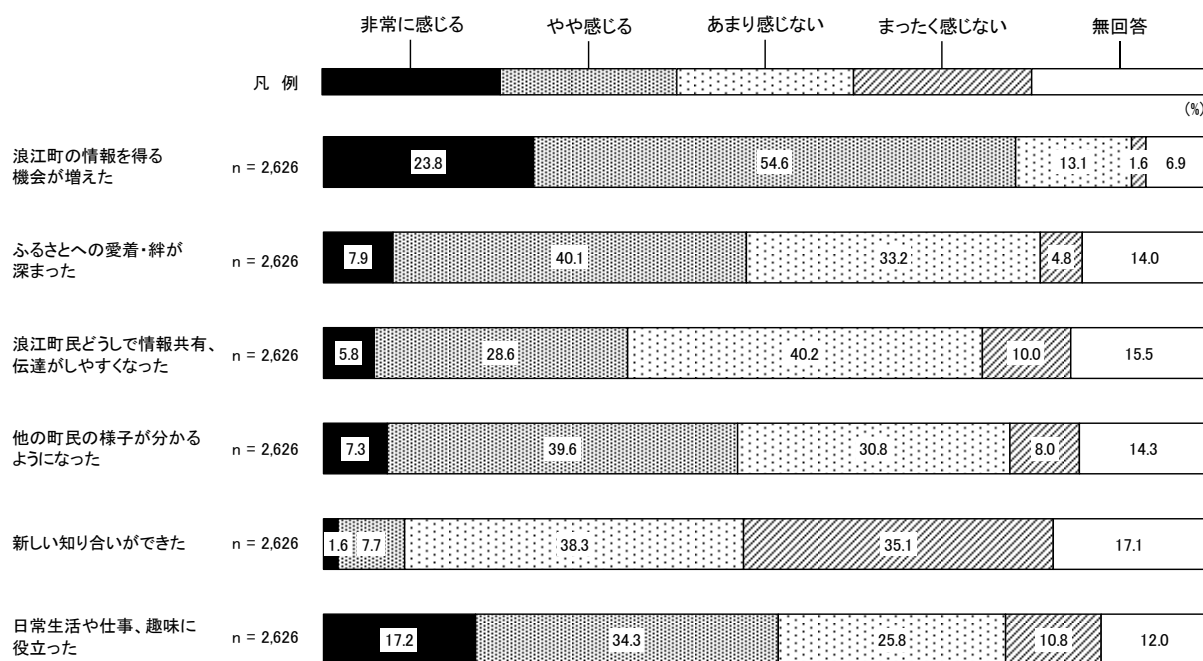
【問 10-5 で「1.持っており利用している」と回答した方のみお答えください。】

問 10-6 タブレットを利用して初めての具体的な効果について、どのように感じていますか。
(それぞれ〇は1つ)

① 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果

浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが 23.8%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが 17.2%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）についても、浪江町の情報を得る機会が増えたが 78.4%と他の効果に比べ高くなっている。また、「まったく感じない」については、新しい知り合いができたが 35.1%と3割以上を占める。

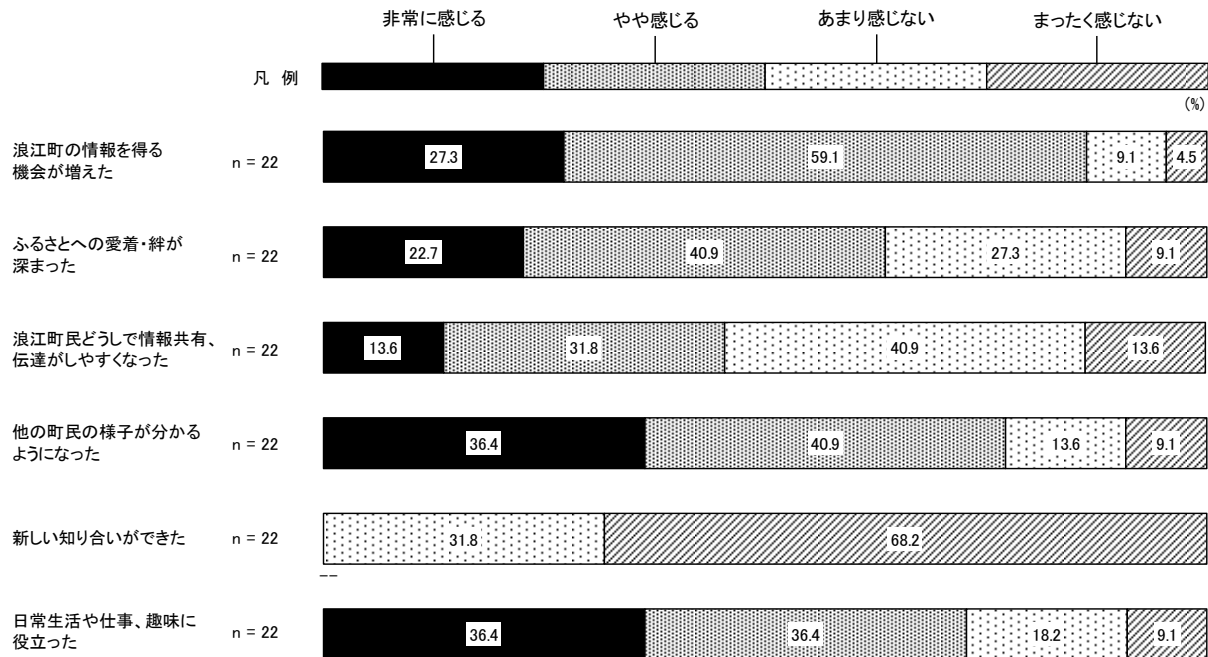
＜図表3-3-6-1 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果＞



② 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果：回答者の年齢別

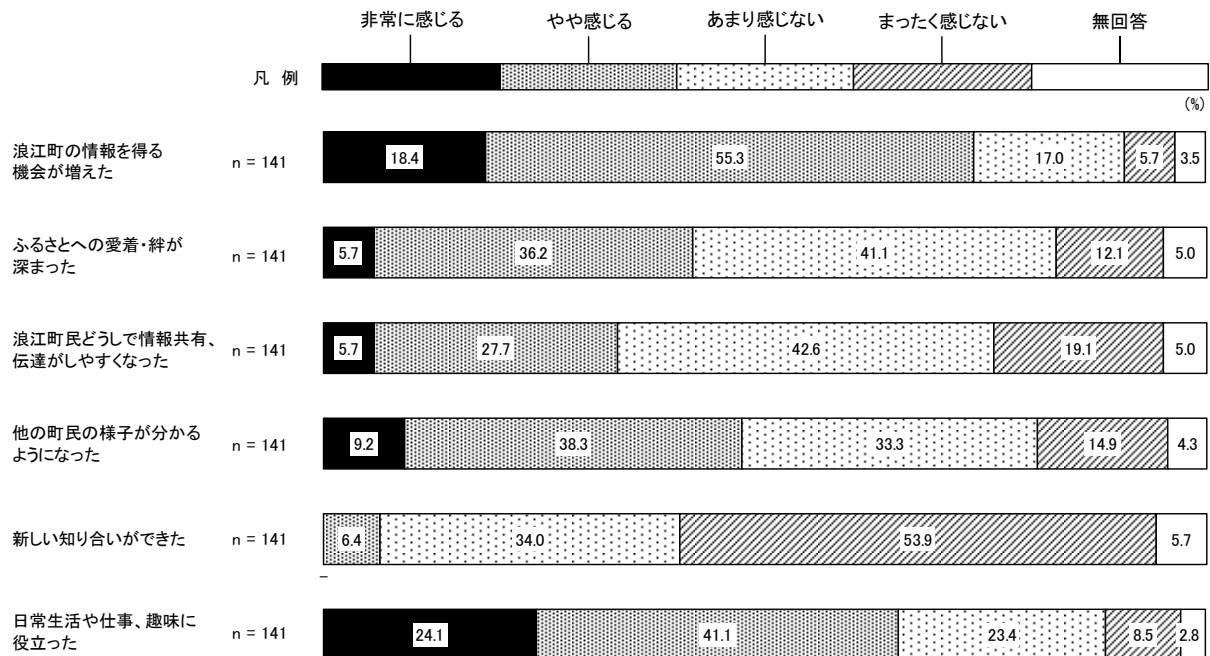
10～20代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は他の町民の様子に分かるようになったと日常生活や仕事、趣味に役立ったが36.4%と3割以上となっており、他の年齢に比べ効果を感じる割合が高い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが86.4%、他の町民の様子に分かるようになったが77.3%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが72.8%、ふるさとへの愛着・絆が深まったが63.6%と高くなっている。

＜図表3-3-6-2 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（10～20代）＞



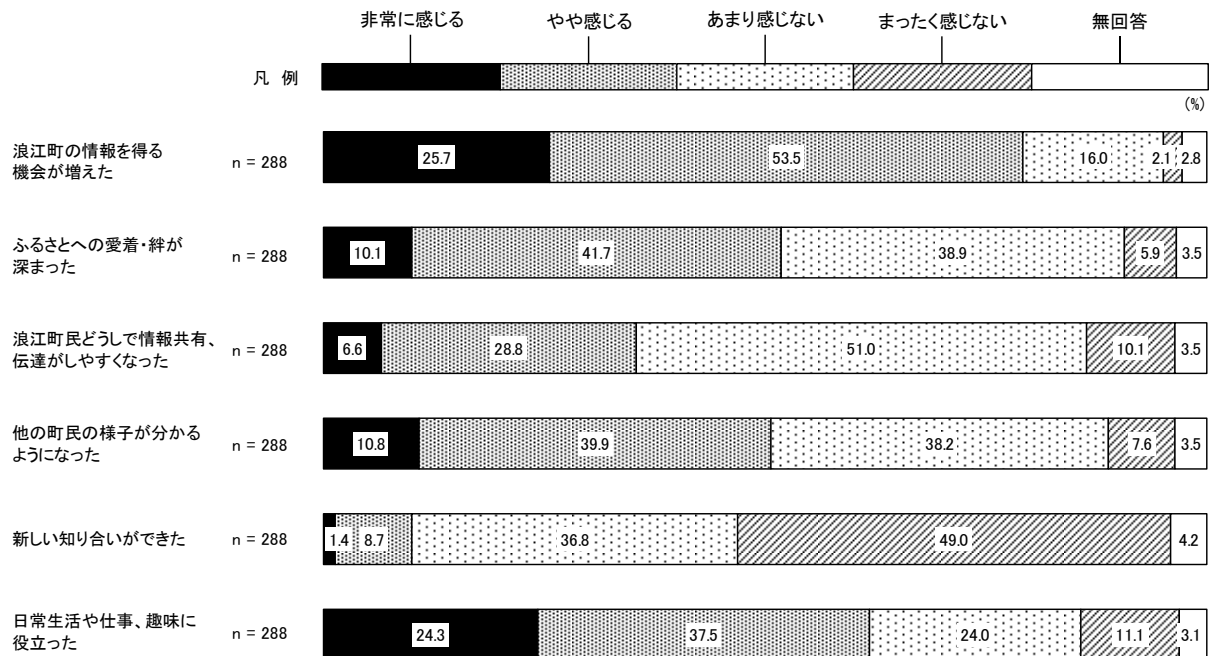
30代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は日常生活や仕事、趣味に役立ったが24.1%、浪江町の情報を得る機会が増えたが18.4%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが73.7%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが65.2%と高くなっている。

＜図表3-3-6-3 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（30代）＞



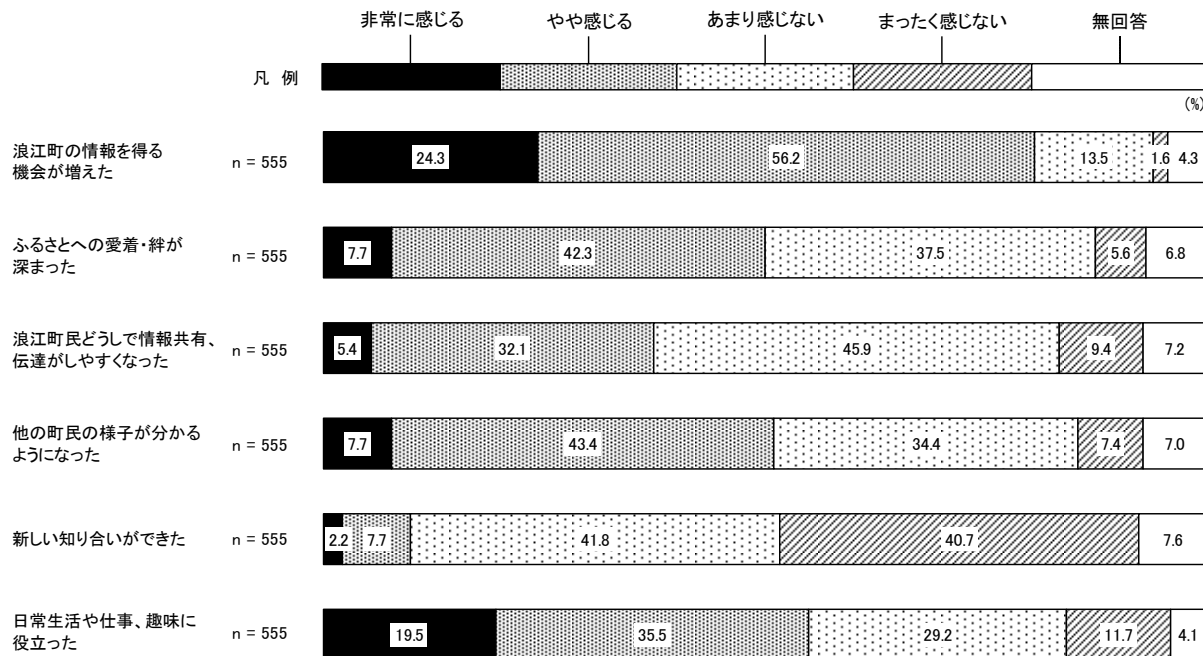
40代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが25.7%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが24.3%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割前後と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが79.2%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが61.8%と高くなっている。

＜図表3-3-6-4 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（40代）＞



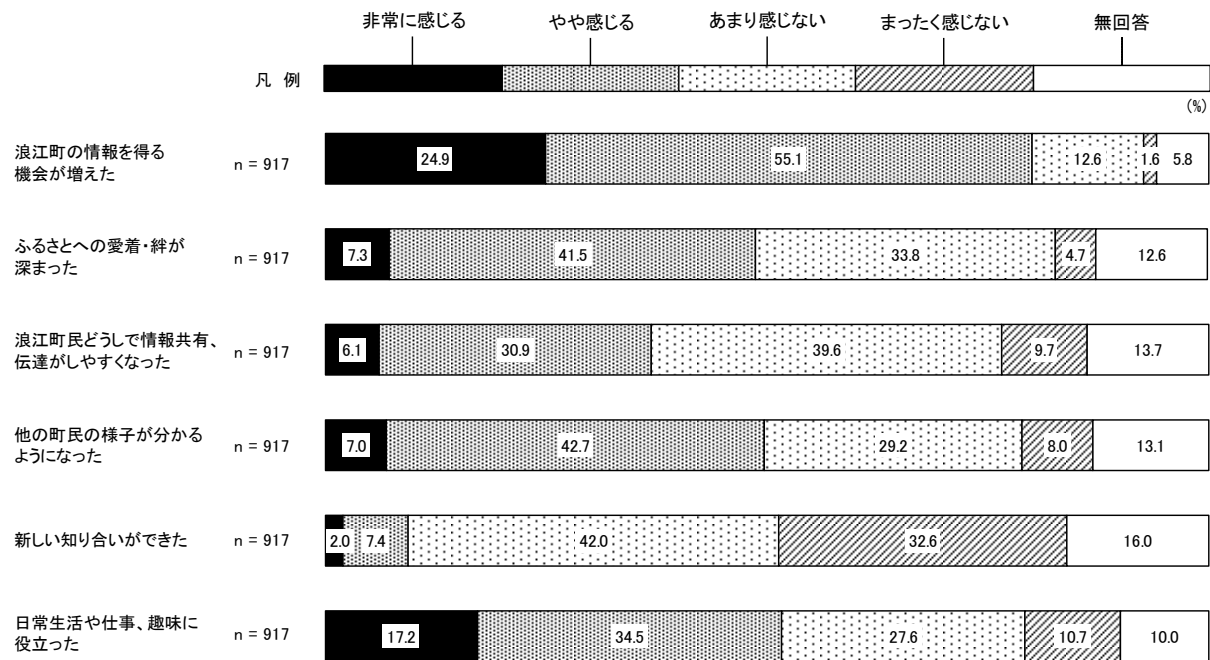
50代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが24.3%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが19.5%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが80.5%と高くなっている。

＜図表3-3-6-5 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（50代）＞



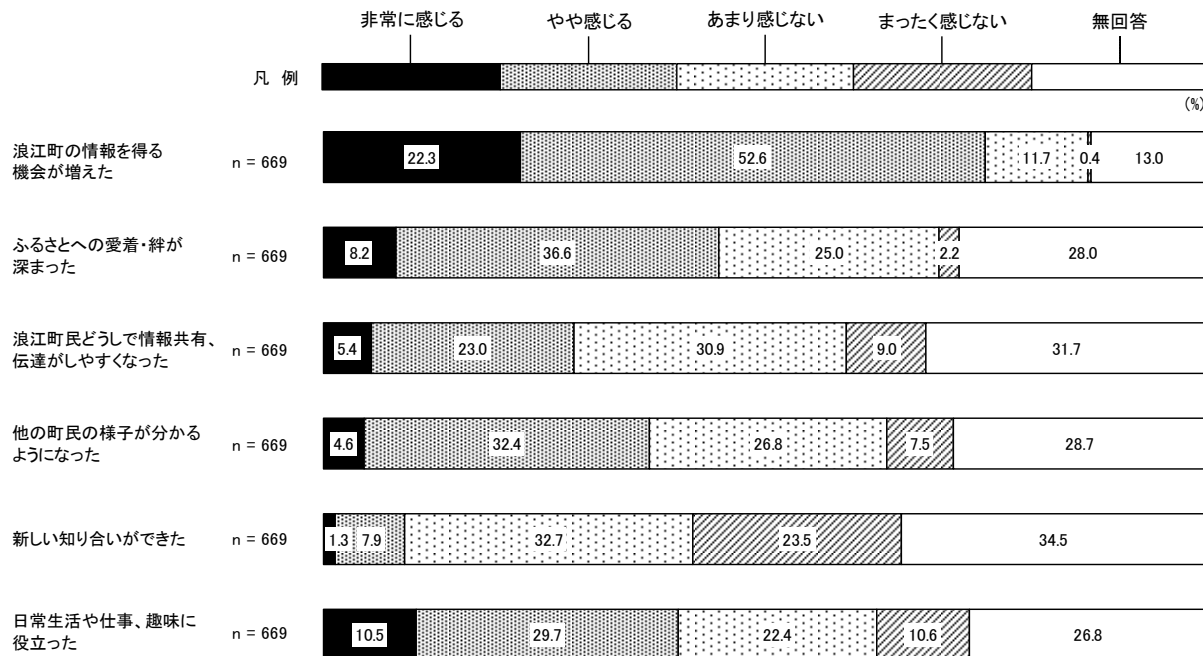
60代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが24.9%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが17.2%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが80.0%と高くなっている。

＜図表3-3-6-6 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（60代）＞



70代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが22.3%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割前後と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）についても、浪江町の情報を得る機会が増えたが74.9%と高くなっている。

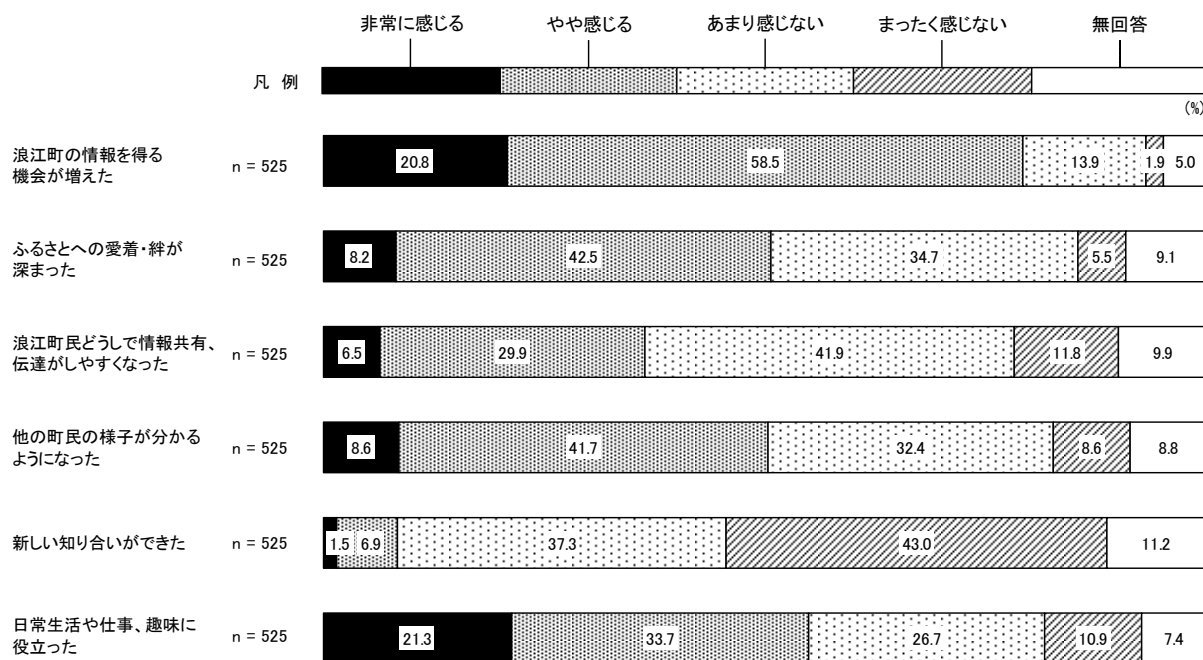
＜図表3-3-6-7 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（70代以上）＞



③ 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果：世帯構成別

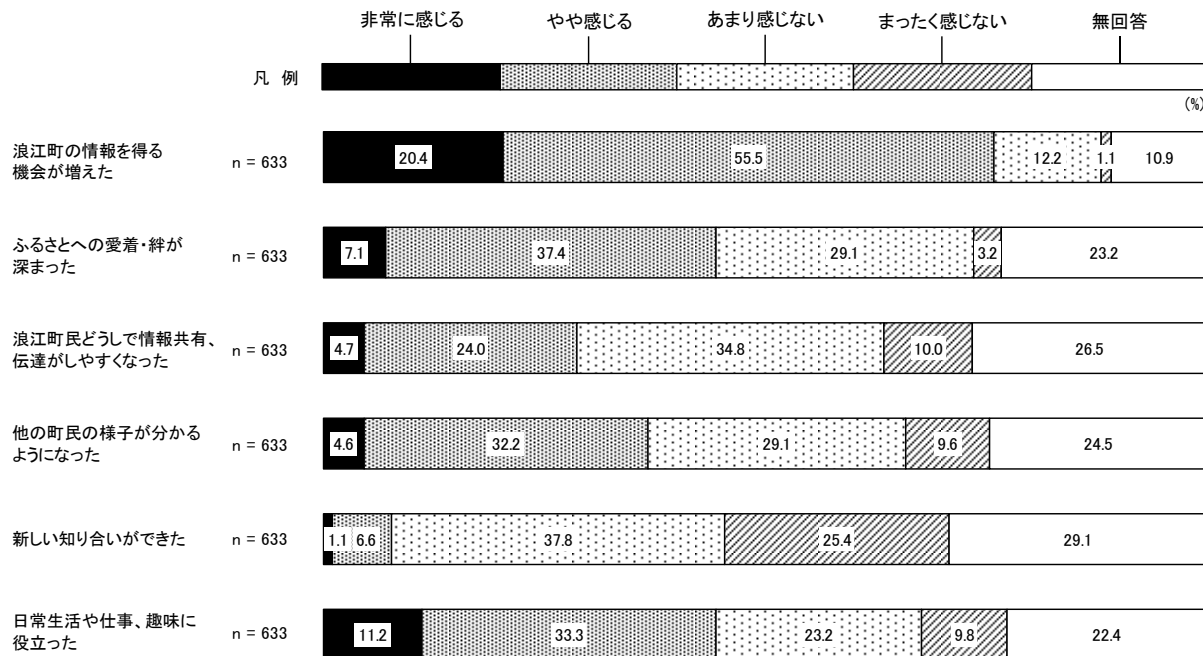
18 歳未満のいる世帯の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は日常生活や仕事、趣味に役立ったが 21.3%、浪江町の情報を得る機会が増えたが 20.8%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では 1 割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが 79.3%と高くなっている。

＜図表 3-3-6-8 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（18 歳未満のいる世帯）＞



65 歳以上だけの世帯の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが 20.4%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では 1 割前後と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）についても、浪江町の情報を得る機会が増えたが 75.9%と高くなっている。

＜図表 3-3-6-9 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（65 歳以上だけの世帯）＞



3-3-7 浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件

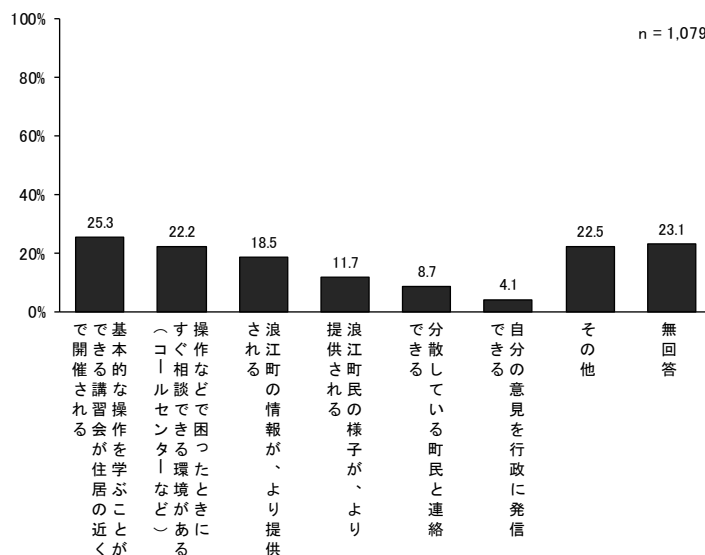
【問 10-5 で「2.持っているが利用していない」と回答した方のみお答えください。】

問 10-7 どのような機会・条件があれば利用しますか。(〇はいくつでも)

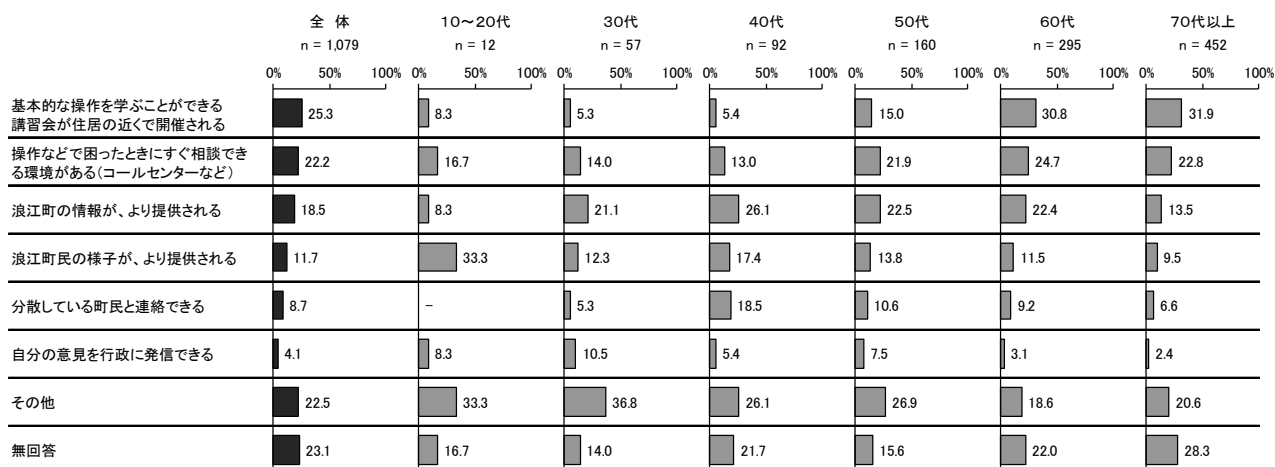
浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件については、「基本的な操作を学ぶことができる講習会が住居の近くで開催される」が25.3%と最も高く、次いで「操作などで困ったときにすぐ相談できる環境がある(コールセンターなど)」が22.2%、「浪江町の情報が、より提供される」が18.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「基本的な操作を学ぶことができる講習会が住居の近くで開催される」は60代で30.8%、70代以上で31.9%と、他の年齢に比べ高くなっている。

＜図表3-3-7-1 浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件＞

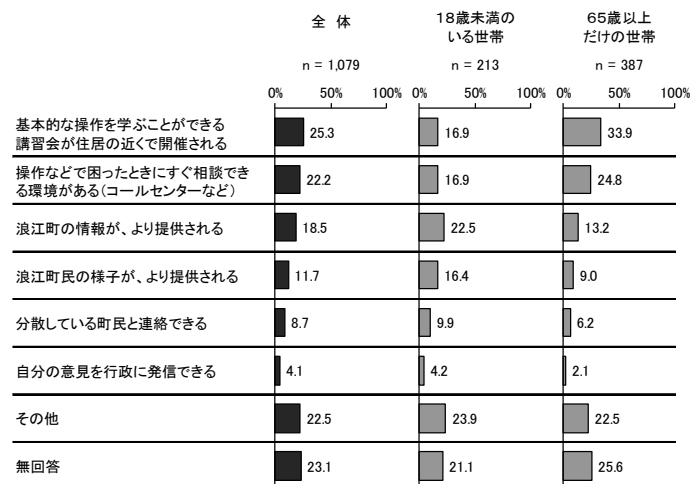


＜図表3-3-7-2 浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件（年齢別）＞



世帯構成別にみると、65 歳以上だけの世帯では「基本的な操作を学ぶことができる講習会が住居の近くで開催される」が 33.9%と全体の割合に比べ高くなっている。一方、18 歳未満のいる世帯では「浪江町の情報が、より提供される」(22.5%)、「浪江町民の様子が、より提供される」(16.4%) が全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表 3-3-7-3 浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件（世帯構成別）＞

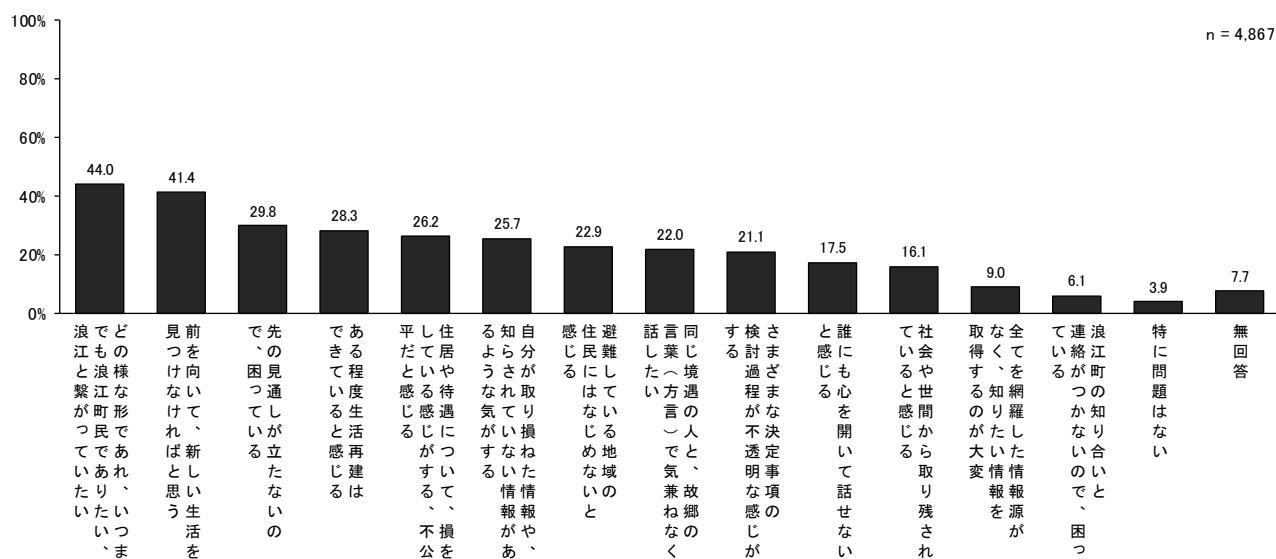


3-3-8 現在の気持ち

問 10-8 現在のあなたのお気持ちに近いと思われることについて教えてください。(〇はいくつでも)

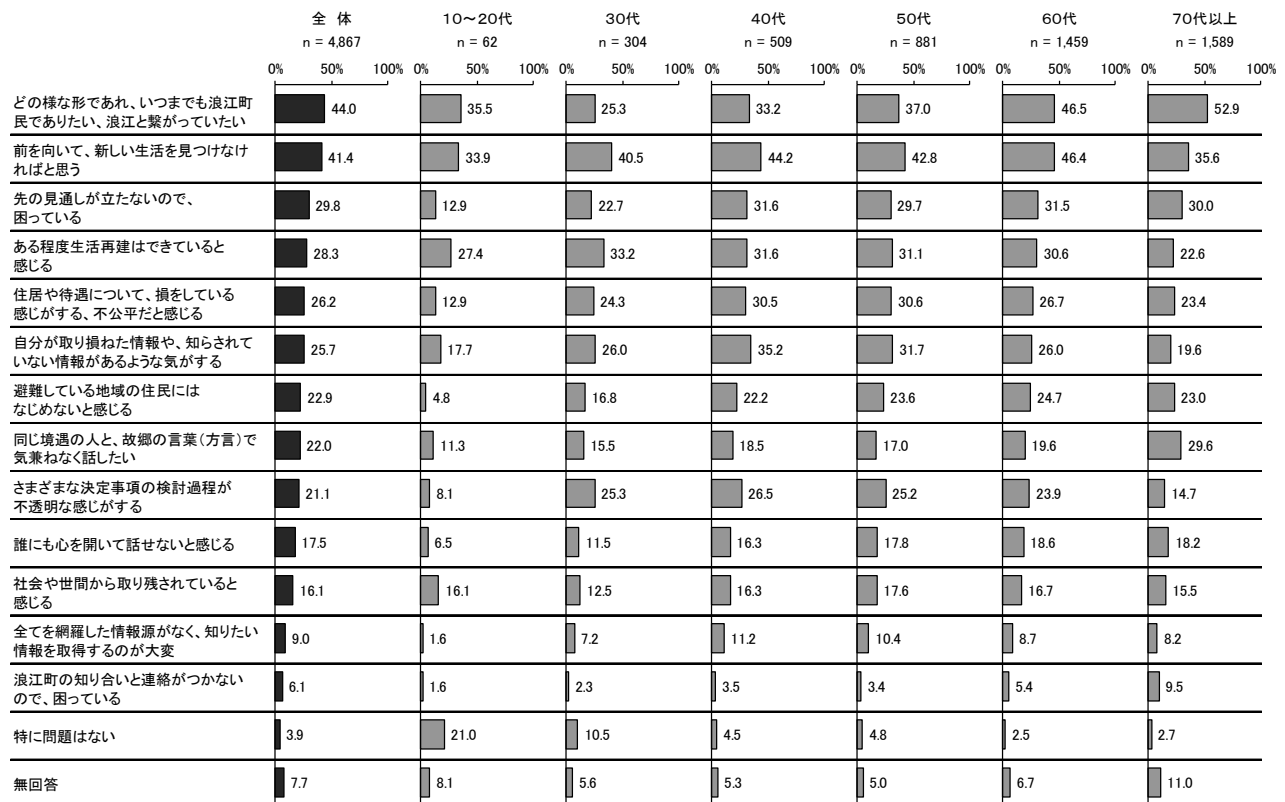
現在の気持ちについては、「どの様な形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい」が44.0%と最も高く、次いで「前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う」が41.4%、「先の見通しが立たないので、困っている」が29.8%となっている。

＜図表3-3-8-1 現在の気持ち＞



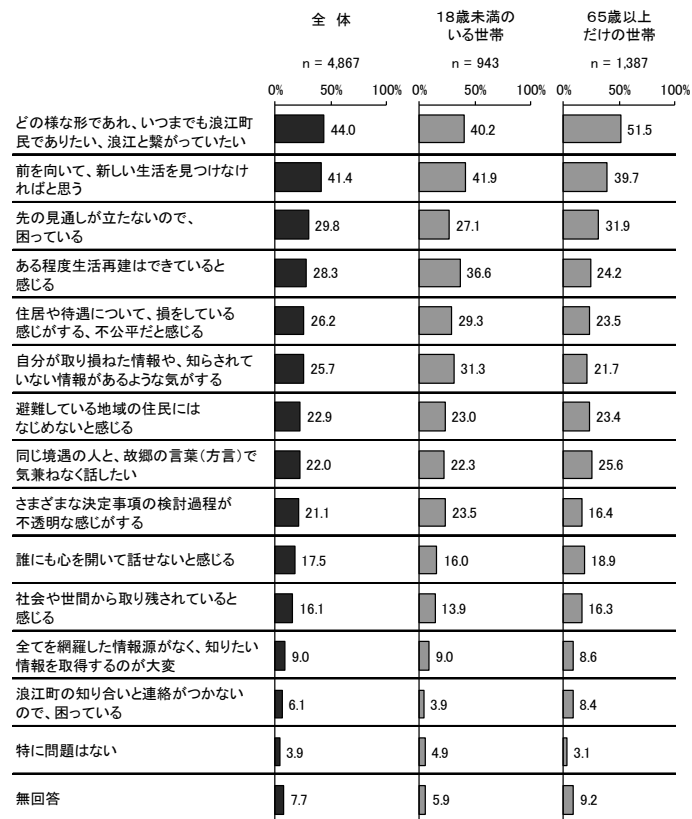
回答者の年齢別にみると、「どの様な形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい」は60代（46.5%）、70代以上（52.9%）、「同じ境遇の人と、故郷の言葉（方言）で気兼ねなく話したい」は70代以上（29.6%）が、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-8-2 現在の気持ち（年齢別）>



世帯構成別にみると、65 歳以上だけの世帯では「どのような形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい」が 51.5%と最も高くなっている。一方、18 歳未満のいる世帯では、「前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う」が 41.9%と最も高くなっている。

＜図表 3－3－8－3 現在の気持ち（世帯構成別）＞



3-4 意見・要望

問 11 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、1,901 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

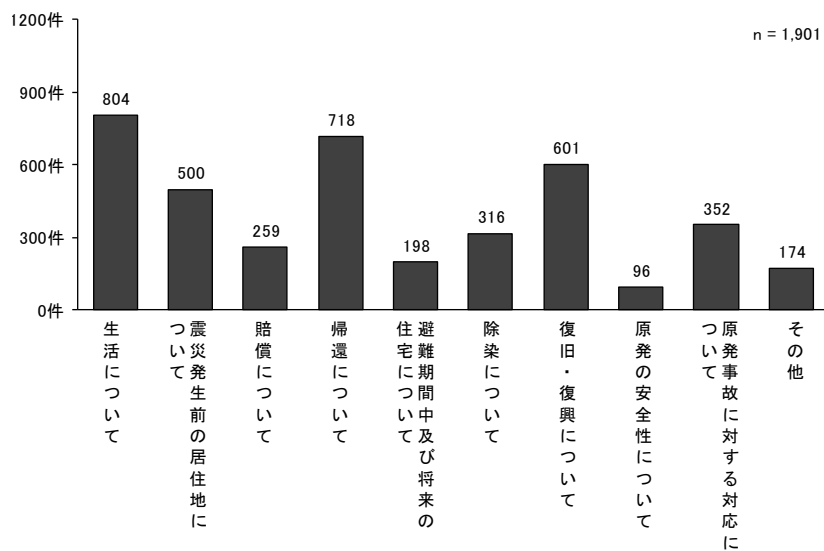
●生活について ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにについてのあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他	●除染について ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染廃棄物の処理について ・その他
●震災発生前の居住地について ・帰還困難区域への立入りにについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について ・その他	●復旧・復興について ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
●賠償について ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他	●原発の安全性について ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
●帰還について ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他	●原発事故に対する対応について ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
●避難期間中及び将来の住宅について ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他	●その他 ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。
 ※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が804件と最も多く、次いで「帰還について」が718件、「復旧・復興について」が601件などとなっている。

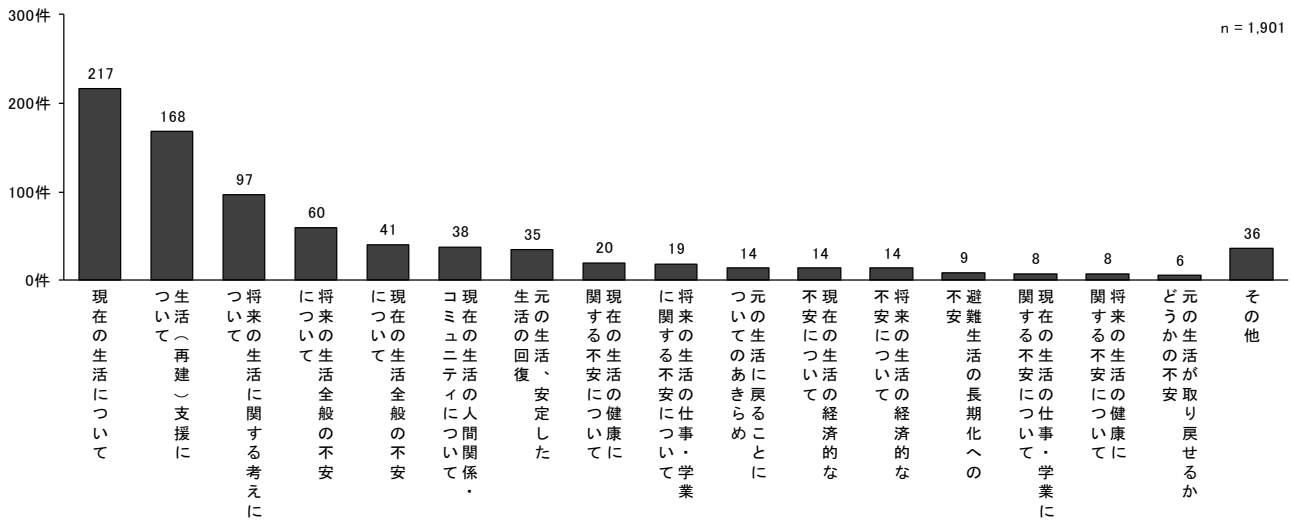
＜図表3－4－1 意見に係る記入内容の分類結果＞



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「現在の生活について」が217件と最も多く、次いで「生活（再建）支援について」が168件、「将来の生活に関する考えについて」が97件などとなっている。

＜図表3-4-2 生活についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【現在の生活について】

- ・避難している人の気持ちになって、避難している人の気持ちを考えて復興を進めていただきたいと思います。今は家族みんなで前を向いて生活していますが、故郷を離れ、友人達ともバラバラになってしまい、考えるとても悲しい気持ちになります。（30代）
- ・すでに仕事も再開して自立して前以上の生活を手に入れて毎日を過ごしており、特に望むことはありません。もう避難者ではありませんので大丈夫です。（40代）
- ・どうしようもない事が起きたと感じている。個人の無力感、受け入れるしかない現状であるがとりあえず、生きている事には喜びを持っている。（50代）

【生活（再建）支援について】

- ・浪江町と宇都宮市を毎月2回、北関東常磐高速道路を利用しています。今後も高速道路使用無料化と燃料代の支援をお願い致します。JR乗車の費用の支援もお願い致します。（30代）
- ・一人暮らし、高齢者などに寄りそって話を聞いてくれる所。また、何でも相談できる所（人）があれば助かります。（60代）
- ・医療費の無償化を続けてほしい。また、保健料（国保）に対しても続けてほしいのでお願いします。（70代以上）

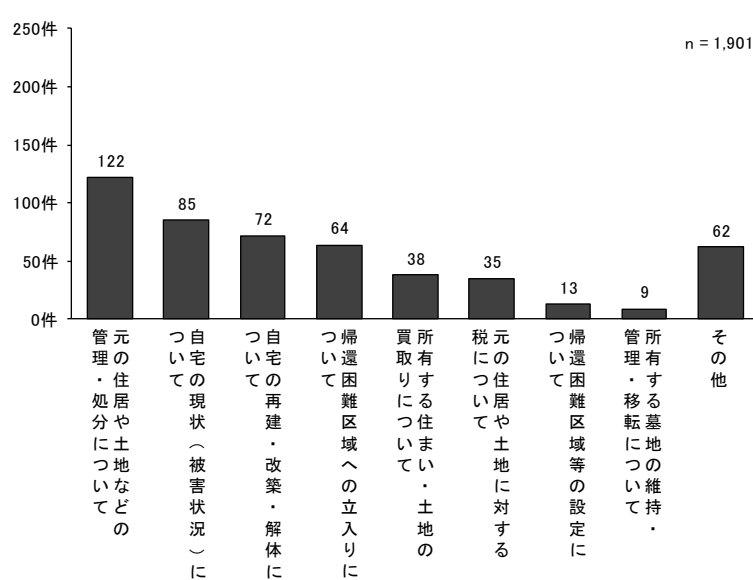
【将来の生活に関する考えについて】

- ・浪江町に戻りたい人がいて浪江町が復興へ踏み出していることを心より応援したいし、生まれ育った町なので、協力できることがあればしたいという思いもある。つながりを切りたくないと思っている。（40代）
- ・「解除」や「帰還」という言葉にプレッシャーを感じたりする人もいます。私もそうですが、自分のペースで、これからのことを判断していきたい。（30代）
- ・年が年だから死ぬ前に一度浪江に帰りたい。災害公営住宅に入れてもらってそれから先の事を考えたい。皆大変な思いをしているのだからなるべく迷惑をかけない様にしたいと思う。（70代以上）

（２）震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が122件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が85件、「自宅の再建・改築・解体について」が72件などとなっている。

＜図表３－４－３ 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の住居や土地などの管理・処分について】

- ・ 家と敷地の手入れ、管理をしているが、他の地域のように、電気も通らず、水も出ず、ゴミも捨てられないので限度がある。今はあまり傷みもないが、今後もこの状況では維持が難しい。（50代）
- ・ 浪江町にある自分の土地の処理について相談窓口が出来れば有難いです。（70代以上）
- ・ 避難先から田んぼ、若しくは何かの作付けに通う事は困難であり、非常に土地を所有していることに困っています。中間貯蔵としてお貸ししたい位です。（40代）

【自宅の現状（被害状況）について】

- ・ 浪江の家もどんどん傷み、行く度に変わり果ててしまい悲しくなってしまいます。荒れ果てた自分の家を見るのはつらいものです。子供達と一緒に過ごした思い出深い家なのに、なぜこんなことになってしまったのかと思うと今でも納得できません。（40代）
- ・ 建物はしっかりしているものの家の中に入ると床は白アリに荒され、いつタンスが倒れるかわからないような状態。すべて修理しないと生活が出来ず帰りたくても帰れない。（70代以上）
- ・ 震災発生2～3年は、家の劣化はそれほどでもなかったのが、今ではねずみ、いのししが家のあらゆる所を汚損、劣化が激しく話にならない状況です。（70代以上）

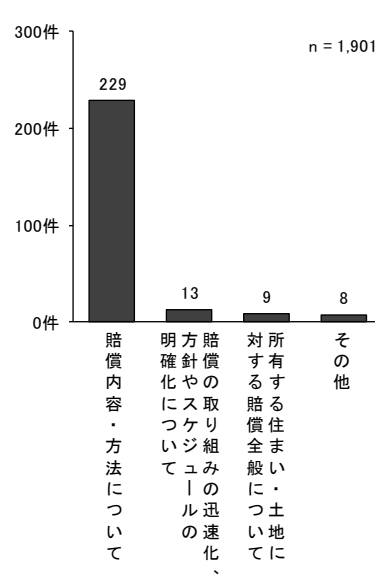
【自宅の再建・改築・解体について】

- ・ 家屋の解体を申請中ですが、解体後の情報も伝えてほしい。（60代）
- ・ 町への帰還にあたり、リフォームを行う予定のある人たちに対する助成金を出してほしい。（50代）
- ・ 浪江の家も解体していただき、心配事はなくなりました。ありがとうございました。（60代）

（３）賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が 229 件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が 13 件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が 9 件などとなっている。

＜図表３－４－４ 賠償についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔賠償内容・方法について〕

- ・ 東電に家賃分を賠償してもらっているが、賠償期間が過ぎたら生活していけるか心配である。賠償期間を延長してもらいたい。（40 代）
- ・ 津波地区の賠償額の格差がひどいと思う。住宅が「ある」「ない」では差がある。住宅を再建する上で、不公平！！大変である。（50 代）
- ・ 賠償は十分に行われていると感じています。最近自然災害が多いなか原発被害者は恵まれていると思っています。（70 代以上）

〔賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について〕

- ・ 家を新築するにしても、明確な賠償額が分からなくては行動に移せない。（30 代）
- ・ 土地、その他の賠償の手続きが分かりにくい。（70 代以上）
- ・ 一日も早く早期賠償を実現して苦しみから開放して下さい。お願い致します。（40 代）

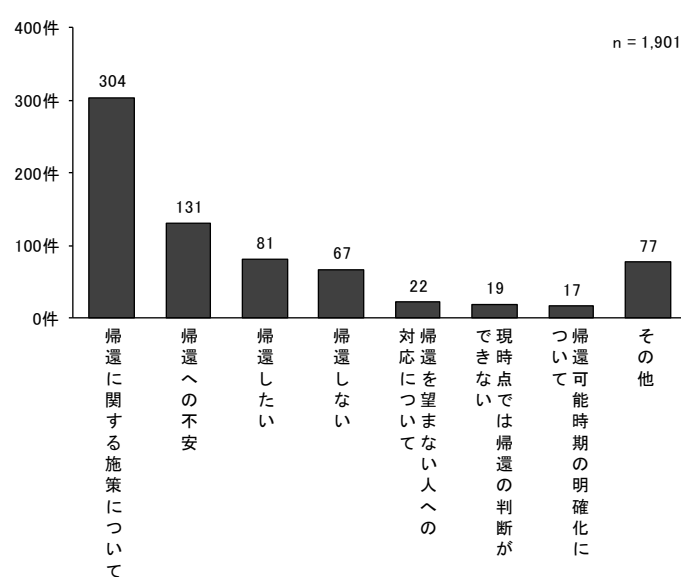
〔所有する住まい・土地に対する賠償全般について〕

- ・ 住居は広かったが、昭和 20 年代の建物の為、賠償金額も少ない。何とか、同じ程の土地・建物（家）を手に入れる事が出来るようには賠償金額の引き上げは出来ませんか。（40 代）
- ・ 建物や土地の補償をする前に人に対する補償をしてから、次の段階で建物、土地にすべきではないのか。（60 代）
- ・ 仮設住宅への入居者の手厚い支援、災害公営住宅の入居者への厚遇。等々を見ると住宅賠償金で住宅の取得をした者としてはしっくり来ない。（70 代以上）

（４）帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が 304 件と最も多く、次いで「帰還への不安」が 131 件、「帰還したい」が 81 件などとなっている。

＜図表３－４－５ 帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還に関する施策について】

- ・ 浪江に戻る住民が増えなければ復興したとは言えないと思う。浪江に戻る人、浪江に移住する人が増えるよう、何かしらの優遇措置が必要と考える。（40 代）
- ・ 浪江に戻りたいと思っているのですが、住む場所（アパート等）、仕事（自分のできることであれば何でも）等が大切になってきます。そういう情報も時々あれば、助かります。（60 代）
- ・ 帰還困難区域内でも線量が低い地域があります。除染が完了している町内の線量の方が高い所が何か所かあります。帰還希望者には優先的に（地区全体の帰還を目指すのではなく）帰宅を認めるようにすべきと思います。（60 代）

【帰還への不安】

- ・ 家の除染は終わったが、実際震災前の原子力発電所よりも汚染している所へ子供を連れて帰れるわけがない！（40 代）
- ・ 現在も原発周辺はかなり危険なのではないですか？本当に戻っても安全に生活することは出来るのですか？（50 代）
- ・ 仕事の関係や、子供の教育、事業の再開の見通しが立たない等で若い人達の帰還は相当遅れるものと思われる。それまでの間老人だけの町で生活出来るだろうか。（70 代以上）

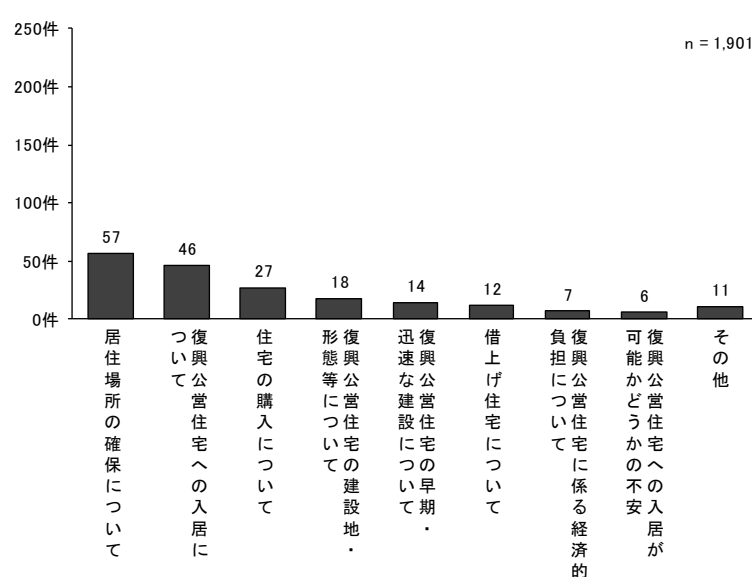
【帰還したい】

- ・ 子供が独立したら、一人でも浪江に帰りたい。（30 代）
- ・ 我がふるさととは遠くなり戻れる日々を夢に見ています。元気な姿で我が家に帰りたい。一番の望みです。1 日も早い時期に安心して我が家に帰れる事を感じています。（70 代以上）
- ・ 生まれ育った故郷に帰りたい気持ちいっぱいです。でも歳を考えると不安です。（70 代以上）

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が57件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」が46件、「住宅の購入について」が27件などとなっている。

＜図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔居住場所の確保について〕

- ・復興住宅もどうしようかと考えていますが、家族が3か所に住んでいる為、いつもどこに拠点を置くか考えるとしんどくなります。(40代)
- ・何事も思うように進まないのが困っている。国、県、自治体は早く農地法を改正してどこでも住めるようにしてほしい。(60代)
- ・高齢の為今後どうしていいかわからない。福島の老人ホーム等に移りたい。一人ものの高齢者をどうする気ですか。(70代以上)

〔復興公営住宅への入居について〕

- ・避難先に新築したり災害住宅に入居した人でも浪江町に帰る場合は、浪江町の復興住宅に入居できるようにしてもらいたい。(50代)
- ・浪江町の災害復興公営住宅にお世話になりたいと思っています。自分も高齢になり思う様に動けなくなったので家族全員と一緒に入居して暮らしたいので一戸建の住宅を希望しています。(70代以上)
- ・避難して6年になる来年3月にやっと復興住宅に移れそうなので少し安心しています。どうしてももう少し早く出来なかったのかと思います。(70代以上)

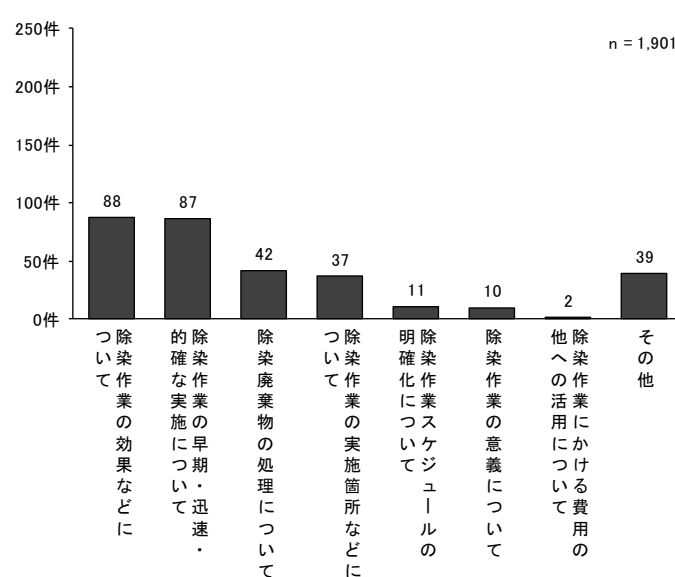
【住宅の購入について】

- 避難先で生まれた子供のためには、そちらに自宅（新居）を建てたいと考えているが、賠償金が少ない上、たくわえも無い為、現実的には難しい。（40代）
- 復興住宅に申し込もうと思ったが、家賃が高い。仕事をしているので最高額！そのお金を払うのなら、持家を買いたい。浪江に安く家を作れるなら、帰っても良いと思っている。（50代）
- 家は戸建を買いましたが沢山のローンがありますので今後どうなっていくのかと心配は沢山残っています。持ち家の方との差があまりにも大きくて補償をいつまで続けてくれるのかこれからも心配は続いて行くと思います。（60代）

（６）除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の効果などについて」が88件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が87件、「除染廃棄物の処理について」が42件などとなっている。

＜図表3－4－7 除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の効果などについて】

- 建物の除染は一度完了して、近辺は確かに線量が下がっているが、建物から少し離れた林の中など非常に高い数値になっていて、雨、風によって建物の方も高い数値に戻るような気がします。（50代）
- 自宅及び周辺等の除染結果の開示がされていなく放射線（能）の現在の状況が不安。（60代）
- 放射線量がどこまで下がっているのか、データが出ていても、不安はあります。（30代）

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 国にはしっかりと除染してほしいと願います。まだ放射能が恐くて帰りたいと思う気持ちにはなれませんが、やっぱりふるさとはいずれ戻りたいです。しっかり確実に除染して、安心させて下さい。（50代）
- 除染を早めて、帰還困難区域も自由に自宅に立ち入り出来ますように要望します。（60代）
- 放射線量が低下するまで、除染作業を続けて下さい（年間1ミリシーベルトを目指して）。（70代以上）

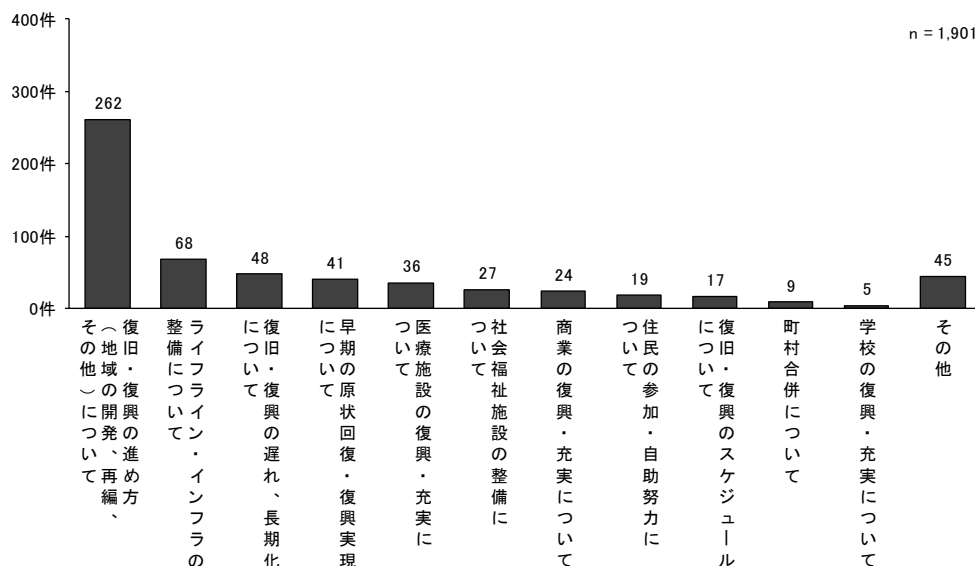
【除染廃棄物の処理について】

- 国は放射性廃棄物の最終処分について明言してほしい。（30代）
- 放射性廃棄物の焼却処分を多くし、貯蔵する量を少なくすべき。（50代）
- 中間貯蔵を双葉・大熊町に仮置した場合空間線量が心配です。（60代）

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが262件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が68件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が48件などとなっている。

＜図表3-4-8 復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について〕

- ・日本列島のあらゆる地域が、地震、台風、洪水など天災にみまわれる近年、浪江町には、防災減災町モデルとして、手本になってほしい。（30代）
- ・津波被災地は、堤防工・防災林事業、請戸港の整備等計画に沿って進んでいるが、土地（主に農地）の活用については規制にとらわれず特区として、住民・地権者の意向を重視して進めてほしい。（60代）
- ・帰町者や町への移住者が段階的に増加すると予想されることから、国へ復興・復旧事業に係る支援条件の緩和や支援の期限延長を望む。（40代）

〔ライフライン・インフラの整備について〕

- ・まずJR常磐線の浪江～仙台間の早期再開を求めます。併せて浪江駅の補修もして下さい。大野駅のように、渡り廊下を作って浪江町地域スポーツセンターのところに出入口を設けていただくと大変有難いです。（40代）
- ・鉄道を早く通してもらって遠くの方々と行き来がスムーズに出来るようになること。国道だけでは運転出来ない者にとって交通手段がなく、例えば相馬～平～仙台に行って高速バスか電車に乗って非常に遠回り。鉄道が通れば全体的に復興した気分になるし明るくなると思う（気持的に）。人の行き来（動き）は大切です。（70代以上）
- ・道の駅（交流・情報発信拠点）の整備と国道114号拡幅工事を並行して推進することにより利用促進が図られ町の復興に大きく寄与するものと考えます。（70代以上）

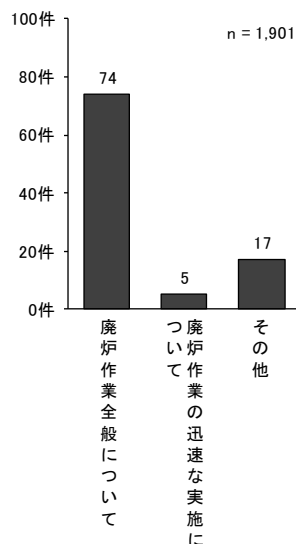
〔復旧・復興の遅れ、長期化について〕

- もっと早く、復旧・復興するものと安易に考えていたが、長い歳月が人々の背中を押すにはあまりにも時が経ち過ぎた。（50代）
- 年々、復興が遅く感じる。反面、他の地域での災害が多くもう5年も経っているので、自分達が何もしてもらえないという気持ちにはなれない。（40代）
- あまりにも復興が遅れたため帰る気がなくなり別な道を進まざるをえなかった。（70代以上）

（８）原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が 74 件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が 5 件などとなっている。

＜図表 3－4－9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業全般について】

- 原発の廃炉が終わるまで安全ではない。人は完璧じゃない。小さな問題も情報開示し、信用を積み重ねて下さい。（40 代）
- やはり原発の安全性は気にかけている。順調に進めば良いが、今後、また大きな災害等が来た場合を考えると大変ではないかと思う。防災に対する意識を高め、具体的に備えていく必要があると思う。（60 代）
- 原発の廃炉まで 30 年間必要とのことでありその間完全に安全なのか心配です。これが浪江町に帰れない一番の原因であります。（70 代以上）

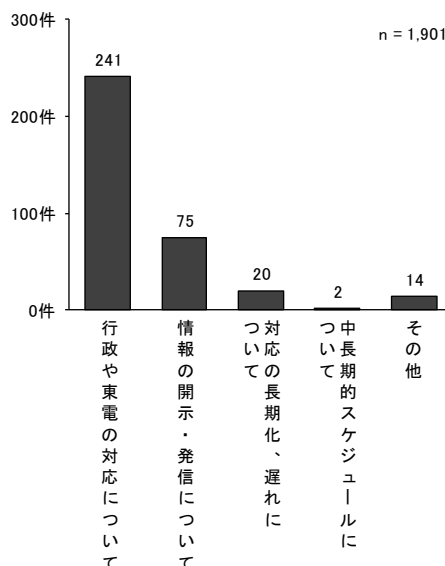
【廃炉作業の迅速な実施について】

- 一日も早く東電の事が解決し、廃炉作業が進み安心できる日が来る事を望む。（60 代）
- どうして最後まで完全に安全に扱えないものに頼ったのでしょうか！？と今さらながら悔しいです。日本人は、優れた方が多いので、一日でも早い完全収束を信じ！願っています。（50 代）

（９）原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が 241 件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が 75 件、「対応の長期化、遅れについて」が 20 件などとなっている。

＜図表 3-4-10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 浪江町は、復興のためにものすごく努力をし、取り組んでいます。…が、東電は信用できない。もう、過ぎた事起こってしまった事故はいいが、これからは、不正や隠し事はなしで、もう少しわかりやすく説明や話をしてほしいと思います。そのせいで、なかなか聞く耳を持てないです。（30代）
- それぞれ避難している自治体の細部まで、目を向けていただきたい。避難先の自治体は何を希望しているかも確認してほしいです（避難者が来てどう感じているかとか）。（40代）
- 「どこへ住んでも同じ浪江の町民」というフレーズだが、県内居住、浪江への帰還、県外居住の町民への予算の使い方が不公平に感じるのは私だけでしょうか？（70代以上）

【情報の開示・発信について】

- 復興に関する要望ではありませんが広報誌の紙の量が多いと思います。1つの冊子にまとめたものだけというわけにはいかないのでしょうか。（10～20代）
- 子供に対する線量による健康被害の説明。帰還困難区域からの放射能・放射線の影響に対する説明。福島県外での説明会の実施。（40代）
- 困難区域のこれからの事はっきりお知らせ願いたい。今まであまり将来について（困難区域）何のニュースもなく5年半過ぎた。（70代以上）

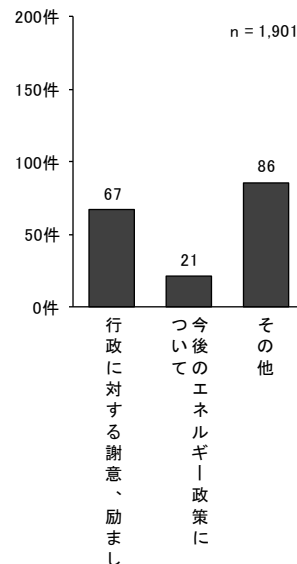
〔対応の長期化、遅れについて〕

- 被災から5年6ヶ月私達には長かった。町長の判断が遅く気持ちが変わった。戻っても若い人は帰らないと思うし、子供達のことを思うと考えられない。(30代)
- まだまだ復興にはほど遠いと感じています。国はもう少しスピードを持って復興に取り組んでほしいと思います。(70代以上)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が67件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が21件などとなっている。

＜図表3-4-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- ・復興に携わっておられる職員の皆様に心より感謝申し上げます。色々と心労が重なり大変でしょうが、これからが本番です。頑張ってください。期待しています。みなさんの取り組みは必ず「歴史」として評価されます。(50代)
- ・町の復興に頑張っている町の職員さんには、病気にならないで、前のめりにならずに、仕事して下さい。思う事は多分皆一緒のはずだから。(60代)
- ・復興庁・福島県・浪江町の御支援誠にありがとうございます。今後も出来る限りお願い致します。(70代以上)

【今後のエネルギー政策について】

- ・原発を再稼動する動きが目立つ。人間とは、忘れることで自己防衛をしているのだなと実感した。高価でも原子力以外の安全な電力を選択すべきである。少なくとも、日本人は。(40代)
- ・原子力発電はすべて廃止すべきである(人間の力ではコントロールできない)。(60代)
- ・原発の政策を明確にいただき、特に使用済燃料については、急いでいただきたいです(福島第一の事も大事ですが)。(70代以上)

IV 參考資料

浪江町住民意向調査

～「町内のまちづくり」「町外の支援の方向性」へのご意向をお聞かせください～

【この調査について】

●調査対象者：各世帯の代表者

※現在の世帯が何カ所かに分かれて避難されている場合は、
それぞれの場所にお住まいの代表者の方

●実施主体：復興庁・福島県・浪江町

●提出期限：9月26日（月）まで

記入済みの調査票を同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください。
 （切手は不要です。）

●ご回答にあたっての注意事項

ご氏名などを記入していただく「記名式」の手法でお願いしています。
 次のページに「氏名」、「住所」、「連絡先（電話番号）」の記入をお願いします。

以下の方法でご回答ください。

- ・選択肢のうち、当てはまる番号を選び、その番号に ○ を記入してください。
- ・「その他」に ○ をされた場合は、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- ・内には、具体的な内容（地域、数など）を記入してください。

●この意向調査で得られた情報（個人情報を含む）の取り扱い

- ・調査票に記載いただいた個人情報は、浪江町、福島県及び復興庁において適切に管理し、各種施策の検討・推進の目的以外には使用いたしません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行いますので、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

※この意向調査への回答は

- ・あくまでも現在の考えを聞くものであり、町内に戻ることを求めるものではありません。

【お問い合わせ先】

復興庁
 「住民意向調査」
 問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-901-842

[設置期間：9月13日(火)～9月26日(月)10時～17時]

土・日・祝を除く

はじめに、ご記入いただく「あなた」ご自身のことについて教えてください。

本調査は、今後の町内のまちづくりや町外の支援の方向性などに関して、住民のみなさまのご意見やご要望をお伺いすることを目的に実施するものです。

早期に安定的な生活環境を整えるため、ご回答をいただいた内容について、より詳しくお聞きする場合がありますので、ご回答者の氏名と現在のご住所、ご連絡先のご記入にご協力をよろしくお願いいたします。

F1 あなたの氏名を教えてください。

F2 現在と震災前のあなたの住所を教えてください。(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

現在の 住所	
震災前の 住所	浪江町大字 _____ 字 _____

※現在のご住所が、浪江町へお届けの住所と異なる場合は、改めて「避難住民届」を提出してください。このアンケートをもって届出とすることはできません。

F3 あなたの連絡先(電話番号)を教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の性別と年齢を教えてください。

(1) 性別 (○は1つ)

1. 男性

2. 女性

(2) 年齢 (○は1つ)

1. ～19歳

2. 20～24歳

3. 25～29歳

4. 30～34歳

5. 35～39歳

6. 40～44歳

7. 45～49歳

8. 50～54歳

9. 55～59歳

10. 60～64歳

11. 65～69歳

12. 70～74歳

13. 75～79歳

14. 80歳以上

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種と今後の継続意向も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済)

2. 自営業・会社経営者(休業中)

3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務)

4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)

5. 団体職員

6. 公務員

7. パート・アルバイト

8. 学生

9. 無職(職を探していない)

10. 無職(職を探している)

11. その他〔具体的に

⇒問3へ

【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

1. 農業

2. 林業

3. 漁業

4. 畜産業

5. 建設業

6. 製造業

7. 電気・ガス・水道業

8. 運輸業

9. 卸売業

10. 小売り業

11. 宿泊業

12. 飲食サービス業

13. 生活関連サービス業

(理容・美容・洗濯など)

14. サービス業(他に分類されないもの)

15. 金融業

16. 保険業

17. 医療

18. 福祉・介護

19. 教育

20. 公務

21. その他〔具体的に

【問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(3) 今後の継続 (○は1つ)

1. このまま継続する

2. 町内に戻るまで継続する

3. 分からない

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|-----------|---------|-----------|
| 1. 1 区 | 15. 幾世橋 | 29. 大堀 | 42. 羽附 |
| 2. 2 区 | 16. 北幾世橋北 | 30. 小野田 | 43. 津島 |
| 3. 3 区 | 17. 北幾世橋南 | 31. 谷津田 | 44. 下津島 |
| 4. 4 区 | 18. 北棚塩 | 32. 酒井 | 45. 南津島上 |
| 5. 5 区 | 19. 南棚塩 | 33. 室原 | 46. 南津島下 |
| 6. 6 区 | 20. 請戸北 | 34. 立野上 | 47. 赤字木 |
| 7. 7 区 | 21. 請戸南 | 35. 立野中 | 48. 手七郎 |
| 8. 8 区 | 22. 中浜 | 36. 立野下 | 49. 大昼 |
| 9. 佐屋前 | 23. 両竹 | 37. 苧宿 | 50. 分からない |
| 10. 川添北 | 24. 小丸 | 38. 加倉 | |
| 11. 川添南 | 25. 畑川 | 39. 酒田 | |
| 12. 上ノ原 | 26. 井手 | 40. 西台 | |
| 13. 樋渡・牛渡 | 27. 田尻 | 41. 藤橋 | |
| 14. 高瀬 | 28. 末ノ森 | | |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------------------|----------|--------------------|----------|
| 1. 持ち家(一戸建) | } ⇒問 5 へ | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 | } ⇒問 5 へ |
| 2. 持ち家(集合住宅) | | 8. 親戚・知人宅 | |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | | 9. その他 | |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | | 具体的に | |
| 5. 公営住宅 | | | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | | | |

【問 4 で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問 4-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

- | | |
|--|------------|
| 1. 地震により解体をせざるを得ない被害、劣化等がみられる | } ⇒問 4-2 へ |
| 2. 地震では大きな被害がなかったが、避難中に解体せざるを得ない劣化等がみられる | |
| 3. 修理すれば住める状況 | |
| 4. 修理したので住める状況 | |
| 5. 特に損傷はない | |
| 6. 既に解体している | |
| 7. 津波により、家が流失している | ⇒問 5 へ |
| 8. わからない | ⇒問 4-2 へ |

【問 4-1 で「1」から「6」、「8」と回答した方にうかがいます。】

問 4-2 震災発生当時にお住まいだった住宅について、今後の所有をどのようにお考えですか。
(「1. 建物」「2. 宅地」それぞれについて、表内の該当するところに○)

	継続所有 したい	貸し出し たい	解体したい (解体申請中)	既に解体 している	売却したい	既に売却 している	判断できない 決めていない
1. 建 物	1	2	3	4	5	6	7
2. 宅 地	1	2			5	6	7

【問 4-1 で「1」から「6」、「8」と回答した方にうかがいます。】

問 4-3 持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却をするにあたっての問題はどのようなものがありますか。(○はいくつでも)

1. 元の持ち家の管理が出来ない(高齢のため・町外に住宅所持のためなど)
2. 修繕・解体・売却・貸出しする際の事業者が分からない
3. 修繕・解体・売却・貸出しする際の事業者が忙しすぎて待たされる(断られる)
4. 問題はない
5. どのような問題があるかわからない
6. その他(具体的に)

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている市町村を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】 1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 川内村 7. 新地町	【 中 通 り 】 8. 福島市 9. 郡山市 10. 白河市 11. 須賀川市 12. 二本松市 13. 田村市 14. 伊達市 15. 本宮市 16. 桑折町 17. 川俣町 18. 大玉村 19. 西郷村 20. 三春町	【 会 津 】 21. 会津若松市 22. 喜多方市 23. 会津美里町 【 福島県内のその他の市町村(1から23以外) 】 24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください (市・町・村) 【 福島県外 】 25. 福島県外 →具体的にご記入ください (都・道・府・県) (市・町・村)
--	---	---

【すべての方にうかがいます。】

問 6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15 歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18 歳以上 65 歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15 歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18 歳以上 65 歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

1. 仮設住宅(プレハブ型。無償)	6. 家族のどなたかのお住まい・実家
2. 借上住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)	7. 親戚・知人宅
3. 公営住宅(有償)	8. 持ち家(ご本人またはご家族所有)
4. 民間賃貸住宅(有償)	9. その他 (具体的に)
5. 給与住宅(社宅など)	

【問 7 で「8. 持ち家 (ご本人またはご家族所有)」と回答した方にうかがいます。】

問 7-1 現在お住まいになっている持ち家についての状況をお答えください。(それぞれ○は1つ)

持ち家の 取得形態 (○は1つ)	1. 新築した 2. 建売住宅を購入した 3. 分譲マンションを購入した 4. 中古住宅を購入した 5. 元から所有していた 6. その他(具体的に)
取得前の 居住形態 (○は1つ)	1. 仮設住宅(プレハブ型。無償) 2. 借上住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) 3. 民間賃貸住宅(有償) 4. その他(具体的に)
入居後の 問題など (○はいくつでも)	1. 周辺の状況がわからない 2. 地域の方と打ち解けられない 3. 浪江町の方がいないので話がしにくい 4. 原子力発電所事故による避難者ということを知られたくない 5. その他(具体的に) 6. 特に問題はない

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在、ペットを飼っていますか。(○はいくつでも)

1. 屋内で犬を飼っている
2. 屋外で犬を飼っている
3. 猫を飼っている
4. 犬、猫以外のペットを飼っている(具体的に)
5. ペットは飼っていない

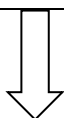
避難指示解除後に関するご意向についてお聞かせください。

ここからの設問は、同封資料の「浪江町の復旧・復興の取組」をよくお読みになってからお答えください。

【すべての方にうかがいます。】

問 9 将来、浪江町の避難指示が解除された後の浪江町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。
(現在一緒に住まいの家族の一部だけでも戻りたいと考えている場合は「1」を選んでください)(○は1つ)

- | | | |
|--------------------------|--------------|---------------|
| 1. すぐに・いずれ戻りたい
と考えている | 2. まだ判断がつかない | 3. 戻らないと決めている |
|--------------------------|--------------|---------------|



P12 問 9-11 へ

【問 9 で「1. すぐに・いずれ戻りたい」「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 9-1 あなたが浪江町に戻る場合に希望する職種を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1. 自営業・会社経営者 | 7. シルバー人材センター |
| 2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 8. 地域貢献活動 |
| 3. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | (防犯パトロールなど) |
| 4. 団体職員 | 9. 特に希望はない |
| 5. 公務員 | 10. 働く予定はない |
| 6. パート・アルバイト | |

問 9 で「1」と
回答した方は
問 9-2 へ

問 9 で「2」と
回答した方は
問 9-10 へ

11. その他 { 具体的に

【問 9-1 (1) で「1」から「6」、「11」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1. 農業 | 12. 飲食サービス業 |
| 2. 林業 | 13. 生活関連サービス業(理容・美容・洗濯など) |
| 3. 漁業 | 14. サービス業(他に分類されないもの) |
| 4. 畜産業 | 15. 金融業 |
| 5. 建設業 | 16. 保険業 |
| 6. 製造業 | 17. 医療 |
| 7. 電気・ガス・水道業 | 18. 福祉・介護 |
| 8. 運輸業 | 19. 教育 |
| 9. 卸売業 | 20. 公務 |
| 10. 小売り業 | 21. その他 { 具体的に |
| 11. 宿泊業 | |

問 9 で「1. すぐに・いずれ戻りたい」と
回答した方は P9 問 9-2 へ

問 9 で「2. まだ判断がつかない」と
回答した方は P11 問 9-10 へ

【問 9 で「1. すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-2 戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------------------|----------------|------------|
| 1. 家族全員での帰還を考えている | 3. 現在検討しているところ | } ⇒問 9-4 へ |
| 2. 家族一部での帰還を考えている | 4. まだ分からない | |

→ 【問 9-2 で「1. 家族全員での帰還を考えている」「2. 家族一部での帰還を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 9-3 戻る予定の家族の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 15 歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	人
イ) 小学生	人	オ) 18 歳以上 65 歳未満	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

【問 9 で「1. すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-4 帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

【元の住居と違う場所】

1. 新たに一戸建の持ち家を新築
2. 新たに一戸建の持ち家を購入
3. 新たに民間賃貸住宅(一戸建)を借用
4. 新たに民間賃貸住宅(集合住宅)を借用
5. 新しくできる(災害)公営住宅

【元の住居と同じ場所】

6. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)
7. 元の民間賃貸住宅(一戸建)
8. 元の民間賃貸住宅(集合住宅)
9. 元の町営住宅
10. 元の給与住宅(社宅など)
11. 家族のどなたかのお住まい・実家
12. 親戚・知人宅
13. その他 (具体的に)
14. 現時点では判断できない

⇒問 9-6 へ

→ 【問 9-4 で「1」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問 9-5 元の住居と違う場所を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

1. 帰還困難区域だから
2. 元の住居周辺の放射線量の高さが心配だから
3. 元の住居周辺に住む人が少ないと思うから
4. 浪江町の新たな場所で生活を開始したいから
5. 今後、津波の被害を受けることが心配だから
6. 津波被災により災害危険区域となったため住めないから
7. 元の住居が荒廃しているから
8. その他(具体的に)

⇒問 9-6 へ

Ⅳ 参考資料

【問 9 で「1. すぐに・いずれ戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-6 浪江町へ戻る時期を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|--|---|------------------|
| <ul style="list-style-type: none">1. すぐに戻りたい ⇒ <u>問 9-7</u> へ2. いずれ戻りたい(数年で帰りたい・5 年以内)3. いずれ戻りたい(当面帰れないが、いずれ帰りたい・5 年以上)4. いずれ戻りたい(年数では判断できない)5. いずれ戻りたい(分からない) | } | ⇒ <u>問 9-9</u> へ |
|--|---|------------------|

【問 9-6 で「1. すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-7 浪江町に戻る場合に、同封資料を見て不足していると感じるものを教えてください。

(○はいくつでも)

- 1. 被ばく低減対策
- 2. 住宅の修繕や建て替えへの支援
- 3. 住宅の新築・購入の支援
- 4. 災害公営住宅や民間賃貸住宅への入居支援
- 5. 買い物への支援
- 6. 健康や介護に関する支援
- 7. 子育てや学校教育への支援、生活交通の支援
- 8. 雇用確保・就業支援
- 9. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善
- 10. その他(具体的に)
- 11. 特にない

【問 9-6 で「1. すぐに戻りたい」と回答した方にうかがいます。】

問 9-8 浪江町に戻ったら、すぐにでもやりたいことを教えてください。(自由記載)

➡ P14 問 9-16 へ

【問 9-6 で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問 9-9 同封資料を見て戻る時期を判断する条件を教えてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|---|---|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none">1. 仕事(事業再開を含む)ができるようになること2. 元の家屋に住めるようになること3. 住宅の新築や購入ができる環境が整うこと4. 町内の災害公営住宅などの賃貸住宅が整うこと5. 鉄道やバスなどの公共交通が整うこと6. 医療・介護などが整うこと7. 商業やサービス業などの施設が整うこと8. 教育環境が整うこと9. 避難中の今の場所での子育てが終えるまで10. 住民の帰還がある程度進んでから11. 放射線量の低下や除染成果が分かってから12. 放射線の人体への影響が分かってから13. 中間貯蔵施設の状況が分かってから14. 原子力発電所が安全と分かってから15. 受け取る賠償額が分かってから16. その他(具体的に)17. 分からない | } | ⇒ <u>問 9-13</u> へ |
|---|---|-------------------|

【問 9 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 9-10 同封資料を見て浪江町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。

(○はいくつでも)

1. 避難指示解除となる時期の目安に関する情報
2. 働く場の確保の目途
3. 元の住宅の住宅修繕に関する情報
4. 住宅確保への支援に関する情報
5. 鉄道やバスなどの公共機関の復旧時期の目途
6. 医療・介護の復旧時期の目途
7. 商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途
8. 学校などの教育環境の復旧時期の目途
9. どの程度の住民が戻るかの状況
10. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
11. 放射線の人体への影響に関する情報
12. 中間貯蔵施設の情報
13. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
14. 受け取る賠償額の確定
15. その他(具体的に)
16. 現時点で家族間の意見が分かれており、帰還意向について回答できない
17. 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない

⇒問 9-13 へ

【問 9 で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 9-11 同封資料を見て現時点で戻らないと決めている理由を教えてください。(○はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

⇒問 9-13 へ

【町内の復旧状況に関わるもの】

4. 浪江町に戻っても仕事がなさそうだから
5. 浪江町での事業の再開が難しいから
6. 営農などができそうにないから
7. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
8. 浪江町外への移動交通が不便だから
9. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
10. 医療環境に不安があるから
11. 介護・福祉サービスに不安があるから
12. 教育環境に不安があるから
13. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

14. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
15. 他の住民も戻りそうにないから
16. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
17. 帰還までに時間がかかるから
18. 避難先で仕事を見つけているから
19. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
20. 避難先の方が生活利便性が高いから
21. 家族(親または子ども・孫)が帰らないから
22. その他(具体的に)

⇒問 9-13 へ

【問9-11で「4」から「6」と回答した方にうかがいます。】

問 9-12 町内でどのような職種に就くことができれば、浪江町に戻りたいと思いますか。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1. 自営業・会社経営者 | 7. シルバー人材センター |
| 2. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 8. 地域貢献活動 |
| 3. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | (防犯パトロールなど) |
| 4. 団体職員 | 9. 特に希望はない |
| 5. 公務員 | |
| 6. パート・アルバイト | 10. その他(具体的に) |

⇒問 9-13 へ

【問 9-12 (1) で「1」から「6」、「10」と回答した方にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------------------|
| 1. 農業 | 12. 飲食サービス業 |
| 2. 林業 | 13. 生活関連サービス業(理容・美容・洗濯など) |
| 3. 漁業 | 14. サービス業(他に分類されないもの) |
| 4. 畜産業 | 15. 金融業 |
| 5. 建設業 | 16. 保険業 |
| 6. 製造業 | 17. 医療 |
| 7. 電気・ガス・水道業 | 18. 福祉・介護 |
| 8. 運輸業 | 19. 教育 |
| 9. 卸売業 | 20. 公務 |
| 10. 小売り業 | 21. その他(具体的に) |
| 11. 宿泊業 | |

【問 9 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」、問 9-6 で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問 9-13 帰還しない場合または帰還するまでの間、今後、居住を希望する市町村(現在のお住まいのままの方は現在の市町村)はどちらですか。その市町村を教えてください。

(○は1つ)

【 浜 通 り 】 1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 川内村 7. 新地町	【 中 通 り 】 8. 福島市 9. 郡山市 10. 白河市 11. 須賀川市 12. 二本松市 13. 田村市 14. 伊達市 15. 本宮市 16. 桑折町 17. 川俣町 18. 大玉村 19. 西郷村 20. 三春町	【 会 津 】 21. 会津若松市 22. 喜多方市 23. 会津美里町 【 福島県内のその他の市町村(1から23以外) 】 24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください (市・町・村) 【 福島県外 】 25. 福島県外 →具体的にご記入ください (都・道・府・県) (市・町・村) 【 その他 】 26. 決めかねている
--	---	--

【問 9 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」、問 9-6 で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問 9-14 帰還しない場合または帰還するまでの間、今後のお住まいとして、希望する(既に居住している場合を含む)住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(集合住宅) 3. 民間賃貸住宅(一戸建) 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) 5. 公営住宅 6. 給与住宅(社宅など) 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 8. 親戚・知人宅 9. その他(具体的に 10. 現時点では判断できない	)
--	---

Ⅳ 参考資料

【問 9 で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」、問 9-6 で「2」から「5」と回答した方にうかがいます。】

問 9-15 帰還しない場合または帰還するまでの間、浪江町との関係や必要な支援について教えてください

(1) 浪江町との関係(○はいくつでも)

1. 移転した場所に住みながら、定期的に浪江町に行き来したい
2. 浪江町の祭事などに参加したい
3. 浪江町の地域活動や行政に協力していきたい
4. ふるさと納税などで協力していきたい
5. 浪江町との関係性はなくてもよい
6. その他()

(2) 必要な支援(○はいくつでも)

1. 浪江町の情報の提供
2. 賠償請求に関する支援
3. 住宅再建の支援情報の提供
4. 就労の支援情報の提供
5. 交流の場の開催
6. 支援は特にいらない
7. その他()

【すべての方にうかがいます。】

問 9-16 震災前に浪江町でお住まいだった地区について、将来、望む姿について教えてください。(自由記載)

町からの情報入手と周囲とのコミュニケーションに関する状況についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 10-1 普段、浪江町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 浪江町広報誌／お知らせ版 | 6. 新聞(福島民報、福島民友) |
| 2. 浪江町メールマガジン | 7. 新聞(全国紙、福島県以外の地方紙) |
| 3. なみえ新聞(タブレット) | 8. テレビ |
| 4. 浪江町のホームページ | 9. ラジオ |
| 5. 浪江町以外のホームページ | 10. 友人・知人からの口コミ |

【すべての方にうかがいます。】

問 10-2 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 満足している | 4. あまり満足していない |
| 2. やや満足している | 5. 満足していない |
| 3. どちらともいえない | |

【すべての方にうかがいます。】

問 10-3 ホームページ、広報誌、タブレットを介して、浪江町役場から提供してほしい情報はありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 浪江町のインフラ復旧状況 | 8. 再開している浪江の小中学校での学校行事の様子 |
| 2. 現在の浪江町各地の様子 | 9. 浪江町民の声 |
| 3. 復興計画の進行状況 | 10. 除染の進捗状況 |
| 4. 浪江町内の求人情報 | 11. 浪江町長の動向 |
| 5. 浪江町民からのよくある質問 | 12. 浪江町議会の様子 |
| 6. 昔なつかしい浪江町各地の写真 | 13. 賠償に関する動向 |
| 7. 避難先でのイベントの様子 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 10-4 普段、以下にあげた方々(「1」～「7」)と、どの程度、連絡を取っていますか。

(それぞれ○は1つ)

※連絡には、「対面での会話」「電話」「メール」「手紙」「FAX」「SNS (Facebook/mixi/Twitter 等)」、「メッセージアプリ(LINE 等)」などを含みます。	ほぼ毎日ある	週に2～3回	月に2～3回	月に1回以下	全くない	特に必要ない
1. 同居している家族	1	2	3	4	5	6
2. 別居している家族	1	2	3	4	5	6
3. その他の親戚	1	2	3	4	5	6
4. 被災前からの友人・知人	1	2	3	4	5	6
5. 避難後にできた友人・知人	1	2	3	4	5	6
6. 浪江町で暮らしていた頃の近所の方	1	2	3	4	5	6
7. 現在住んでいる場所(避難先)の近所の方	1	2	3	4	5	6

【すべての方にうかがいます。】

問 10-5 浪江町が貸与している「タブレット」は利用していますか。（○は1つ）

1. 持っており利用している ⇒問 10-6 へ
2. 持っているが利用していない ⇒問 10-7 へ
3. 申込んだが届いていない・申込んでいない ⇒問 10-8 へ

【問 10-5 で「1. 持っており利用している」と回答した方のみお答えください。】

問 10-6 タブレットを利用しての具体的な効果について、どのように感じていますか。

（それぞれ○は1つ）

	感じる 非常に	感じる やや	あまり 感じない	まったく 感じない
1. 浪江町の情報を得る機会が増えた	1	2	3	4
2. ふるさとへの愛着・絆が深まった	1	2	3	4
3. 浪江町民どうして情報共有、伝達がしやすくなった	1	2	3	4
4. 他の町民の様子が分かるようになった	1	2	3	4
5. 新しい知り合いができた	1	2	3	4
6. 日常生活や仕事、趣味に役立った	1	2	3	4

【問 10-5 で「2. 持っているが利用していない」と回答した方のみお答えください。】

問 10-7 どのような機会・条件があれば利用しますか。（○はいくつでも）

1. 基本的な操作を学ぶことができる講習会が住居の近くで開催される
2. 操作などで困ったときにすぐ相談できる環境がある（コールセンターなど）
3. 浪江町の情報が、より提供される
4. 浪江町民の様子が、より提供される
5. 分散している町民と連絡できる
6. 自分の意見を行政に発信できる
7. その他（ ）

【すべての方にうかがいます。】

問 10-8 現在のあなたのお気持ちに近いと思われることについて教えてください。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1. 誰にも心を開いて話せないと感じる | 8. どのような形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がっていたい |
| 2. 社会や世間から取り残されていると感じる | 9. 全てを網羅した情報源がなく、知りたい情報を取得するのが大変 |
| 3. 同じ境遇の人と、故郷の言葉（方言）で気兼ねなく話したい | 10. 自分を取り損ねた情報や、知らされていない情報があるような気がする |
| 4. 避難している地域の住民にはなじめないと感じる | 11. 先の見通しが立たないので、困っている |
| 5. 浪江町の知り合いと連絡がつかないので、困っている | 12. 前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う |
| 6. さまざまな決定事項の検討過程が不透明な感じがする | 13. ある程度生活再建はできていると感じる |
| 7. 住居や待遇について、損をしている感じがする、不公平だと感じる | 14. 特に問題はない |

【すべての方にうかがいます。】

問 11 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
9月26日（月）までに郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

**浪江町 住民意向調査
報告書**

平成29年3月

復興庁 福島県 浪江町

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター

